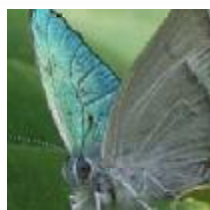


大阪府レッドリスト 2014



大阪府

目 次

1. 改訂の背景とその結果の概要	1
2. 対象分類群及び分野	1
3. 大阪府の保護上注目すべき野生動植物、地形・地質及び生物多様性 ホットスポット	2
4. レッドリスト2014カテゴリー	7
5. レッドリスト2014総括表	8
6. 各分類群及び分野のレッドリスト	
哺乳類	9
鳥類	10
爬虫類	12
両生類	12
汽水・淡水魚類	13
昆虫類	14
クモ類	21
陸産貝類	22
淡水産貝類	23
海岸生物（無脊椎動物及び藻類）	24
その他淡水産無脊椎動物	27
維管束植物	28
コケ植物	36
菌類	39
地形・地質	41
生態系	43
7. 生物多様性ホットスポット	46
8. 調査体制	48

大阪府レッドリスト2014

1. 改訂の背景とその結果の概要

大阪府では、府内に生息・生育する野生動植物の現状を府民の方々と共有し、豊かな自然環境の保全や野生動植物保護の資料とするため、平成12年(2000年)に「大阪府における保護上重要な野生生物」(大阪府レッドデータブック)を作成したが、その後の研究の進展、生物多様性をめぐる認識の変化、府内の野生動植物の生息環境の変化などもあり、今般大阪府レッドリスト2014として改訂することとした。

レッドリストの選定については、各分類群の専門家で構成する「大阪府レッドリスト改訂検討委員会」(11名の委員)を設置し、研究者間の議論だけでなく、博物館などを拠点に市民からの協力を得て、ワーキンググループによる標本・文献調査や現地調査も実施して選定した。

対象とした分類群と分野は、大阪府レッドデータブック(平成12年)のものに、クモ類・海岸生物(無脊椎動物及び藻類)・その他淡水産無脊椎動物・コケ植物・菌類を追加し、地形・地質や生態系を新たに加えた。また、希少な野生動植物が生息・生育する地域を「生物多様性ホットスポット」として選定した。

対象分類群ごとに文献・標本調査と現地調査を行うとともに、大阪府レッドデータブック(平成12年)作成後に新たに大阪府内で確認された種、個体数や生息・生育地の環境に変動のある種及び環境省のレッドリストの見直し等に考慮し、ランクの変更や新たに追加する種などを検討した。

その結果、野生動植物種では、大阪府レッドデータブック(平成12年)に新たに追加されることになった種数は704種(うち新規対象分類群からは406種)で、合計1,485種となった。

絶滅のおそれのある種(絶滅危惧Ⅰ類と絶滅危惧Ⅱ類)の増加が特に顕著な分類群は昆虫類で、65種から140種と2倍以上に増加した。維管束植物も185種から247種と増加した。

絶滅と判定した種については、新たに昆虫類で10種、淡水産貝類で1種、維管束植物で18種が追加された。新規対象分類群からは海岸生物で14種、コケ植物で3種が絶滅種とされた。一方、汽水・淡水魚類で1種、維管束植物で16種が再発見や過去の情報の精査により絶滅種から除外された。

2. 対象分類群及び分野

今回のレッドリストの作成においては、大阪府全域(汽水域及び潮間帯を含む)を対象とし、そこに生息・生育する野生動植物に加え、地形・地質、生態系についても評価対象とした。ただし、微小菌類・動植物プランクトン等の微小生物については、一般市民の発見や確認が難しいため、対象外とした。変形菌類や淡水産無脊椎動物のうちエビ類等、知見が不十分なために今回検討を見送ったものもある。

【対象とした分類群及び分野】

1. 哺乳類、2. 鳥類、3. 爬虫類、4. 両生類、5. 汽水・淡水魚類、6. 昆虫類、7. クモ類、8. 陸産貝類、9. 淡水産貝類、10. 海岸生物(無脊椎動物及び藻類)、11. その他淡水産無脊椎動物、12. 維管束植物、13. コケ植物、14. 菌類、15. 地形・地質、16. 生態系

※上記の他、地形・地質や生態系、希少な野生動植物が生息・生育するなど、生物多様性保全の観点から「生物多様性ホットスポット」についても選定した。

3. 大阪府の保護上注目すべき野生動植物、地形・地質及び生物多様性ホットスポット

今回のレッドリストに掲載されている大阪府内に生息・生育する野生動植物及び、地形・地質の中から、特徴的なものや絶滅したもの、個体数が急激に減少しているもの、今回新たに掲載種となったものなどを写真とともに紹介する。

◆哺乳類



ハタネズミ（ネズミ科）

絶滅危惧Ⅰ類

農耕地や河川敷などの広い草地に生息する。大阪府で現在生息が確認されているのは、高槻市鶏殿の淀川河川敷のみ。その生息数も10数年前と比べると激減している。

（写真提供者：松浦宜弘氏）



ユビナガコウモリ（ヒナコウモリ科）

絶滅危惧Ⅰ類

大阪府では、箕面市や阪南市でのみ確認されている。生息地は、鉱山跡のトンネルや、ダムの点検坑など。大阪府で記録されている他の洞穴生のコウモリ（テングコウモリ、キクガシラコウモリ、コキクガシラコウモリ）も、こうした人工の洞穴に依存している。

（写真提供者：浦野信孝氏）

◆鳥類



サシバ（タカ科）

絶滅危惧Ⅰ類

水田と林がセットになった里山環境を代表するタカ。農耕地周辺で、両生類、爬虫類、昆虫などをおもに捕食するとされる。その保全には、カエルなど多様な生物相がはぐくまれる里山環境の保全が欠かせない。

（写真提供者：納家仁氏）



ケリ（チドリ科）

準絶滅危惧

農耕地で繁殖する。おもに平地の鳥で、能勢町や豊能町など山間部の田んぼには、ほとんど生息しない。大阪府では、平地の農耕地が急速に減少、分断化されており、ケリの生息できる環境が少なくなっている。

◆爬虫類



タカチホヘビ (ナミヘビ科)

準絶滅危惧

北摂や金剛・和泉の山地に生息するが、個体数は少ない。ミミズを主食とし、落葉樹の落ち葉がよく堆積した谷筋などで見つかることが多いが、タカチホヘビの生息に適した場所は限られる。



ニホンイシガメ (イシガメ科)

準絶滅危惧

丘陵から山地のため池や、田んぼの水路などにおもに生息する。しばしば水から離れて、林内を移動する。市街地の公園の池にも見られるが、野生個体なのか、ペットが放されたものなのか、はっきりしないことが多い。

◆両生類



コガタブチサンショウウオ (サンショウウオ科)

絶滅危惧Ⅱ類

金剛・和泉の山地に生息し、河川上流部のわずかな流れに産卵し、幼生は流水の中で成長する。産卵期以外は水から離れて暮らし、林床などで見つかるのは難しい。



ニホンアカガエル (アカガエル科)

絶滅危惧Ⅱ類

2～3月、田んぼなどの水深5～20cm程度の浅い水辺に産卵し、普段は周辺の林内に生息している。おもに丘陵地に生息しているが、住宅開発によって田んぼが減少、また冬に水をためない田んぼの増加によって、生息地とくに産卵適地が減少している。

◆汽水・淡水魚類



イタセンパラ (コイ科)

絶滅危惧Ⅰ類

国の天然記念物で、種の保存法選定種。淀川のワンドに生息するが、河川改修や外来種の影響により、近年極めて減少している。秋に産卵し、生きている二枚貝に卵を産み込む。平成21年より淀川への野生復帰が試みられている。



ヨドゼゼラ (コイ科)

絶滅危惧Ⅱ類

平成22年に発見された新種の淡水魚。“ヨド”の名を冠するように、淀川が主な生息地。かつては淀川流域に広く分布していたが、河川改修等により生息環境が悪化し、個体数が減少している。

◆昆虫類



スジゲンゴロウ（ゲンゴロウ科）

絶滅

水田地帯に生息していたと考えられるが、近年全国的に記録がなく、環境省 2012 年版レッドリストでも絶滅種となった。大阪府では生息が知られていなかったが、今回の標本調査により、1950 年代に現在の堺市美原区に生息していたことが明らかになった。



ハッチョウトンボ（トンボ科）

絶滅危惧 I 類

平地から丘陵地・低山地にかけての日当たりのよい湧水の湿地などに生息。成虫の体長は、雌雄とも 20mm 前後で、日本最小のトンボとして知られる。近年、大阪府では安定した生息地がなくなっている。

◆クモ類



ワスレナグモ（ジグモ科）

絶滅危惧 II 類

フタのない縦穴に放射状の糸を引いてその中で待ち伏せ、昆虫などを捕獲する。平地の草地や畑、公園などに生息するが、府内での生息地は限られる。



コガネグモ（コガネグモ科）

準絶滅危惧

かつては里山的環境で多く見られたが、適した生息場所や餌となる昆虫が減ったことも影響し、最近では限られた場所で見られなくなっている。

◆海岸生物（無脊椎動物及び藻類）



ホソウミナ（ウミナ科）

絶滅危惧 I 類

おもに干潟の泥上に生息するウミナ科の巻き貝。全国的には普通種だが、干潟の減った大阪府では少なく、泉南の河口干潟の数ヶ所では確認されていない。直達発生で分散能力が低いため、外海からの新規加入や湾内での分布拡大が進まないものと考えられる。

◆その他淡水産無脊椎動物



タマカイエビ（タマカイエビ科）

絶滅危惧 I 類

大型鰓脚類の一種。卵が水に浸ると孵化して急速に成長して親となり、産卵して短期間に一生を終える。水田が格好の生息場所となる。近畿地方でも記録は非常に少なく、府内では能勢町と高槻市の奥部では確認されていない。

◆維管束植物



ムラサキセンブリ（リンドウ科）

絶滅危惧Ⅰ類

日当たりのよい草原や岩場に生える。センブリより草丈が大きく、花も少し大きい。9～10月頃、淡い紫色の花が咲く。府内の分布はごく限られている。

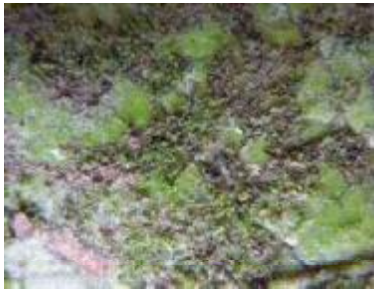


サギソウ（ラン科）

絶滅危惧Ⅱ類

日当たりのよい湿地に自生。夏に花茎を長く伸ばし、鷺が羽を広げたような真っ白な花を咲かせる。乱獲や生育環境の破壊により府内でも分布が限られる。

◆コケ植物



カビゴケ（クサリゴケ科：苔植物門）

絶滅危惧Ⅱ類

植物体は淡緑色で、基物上を匍う。茎は長さ1cm以内。かつては西南日本の暖地の溪流沿いの湿度の高い林の常緑樹やヤングの生葉上に着生し比較的普通に見られたが、近年その生育地が減少傾向にある。



オオミズゴケ（ミズゴケ科：蘚植物門）

絶滅危惧Ⅱ類

山麓や丘陵地の湿った地上や湿原に大きな群落を作る。茎は長さ10cm以上。府内でも多く確認されたが、開発されやすい場所に多くあることから、減少傾向が著しい。

◆菌類



アカイカタケ（アカカゴタケ科）

絶滅危惧Ⅱ類

腐食の貯まる雑木林に発生する腐生菌類。インゲンチャクのような奇抜な形態である。独特の臭気を放ち、胞子はハエなどの昆虫が運ぶ。近畿では発生地でも見られる年は限られており、稀産種である。多様な菌類がさまざまな条件下でさまざまな有機物を分解し、分解系を構成している。



マツタケ（キシメジ科）

絶滅危惧Ⅱ類

痩せたアカマツ林に発生する有名な食用菌。落ち葉かきをされた、土がむき出しになったアカマツ林で松の根と共生する。近年では発生量が激減している。落ち葉がたまり他の共生するキノコに生息場所を奪われるとともに、さらに松枯れによって共生相手であるアカマツの枯死が進んだためである。

◆地形・地質



河合・神於山マイロナイト

Aランク

マイロナイトとは岩石が固体の状態で塑性的に変形し形成される岩石。河合・神於山マイロナイトは、岸和田市の白亜紀領家花崗岩類に東西走向で発達する、幅約500mの延性剪断帯である。このような延性剪断帯は、内陸地震の発生と密接に関係していると考えられている。



有馬-高槻断層帯による断層変位地形

Aランク

有馬-高槻断層帯は、北摂山地と大阪平野・六甲山地の境界部にはば東北東-西南西に伸びる長さ約55kmの活断層帯である。主要部は右ずれ北側隆起の活動を示し、最新の活動は西暦1596年の慶長伏見地震で、その時のずれの量は3m程度であったと推定されている。

(写真提供者：樽野博幸氏)

◆生物多様性ホットスポット



淀川ワンド群（城北・庭窪・楠葉など）

Aランク

淀川の川岸から直角方向に設置された石積みをも骨格にして、そこに堆積した土砂が造り上げた水域がワンドであり、それらが岸に沿って連なった場所をワンド群とよぶ。水の流れや土砂の堆積により多様な環境が生じ、生物多様性の豊かな水域が広がる。しかし近年、オオクチバスをはじめとした外来魚等の影響により、淀川のシンボルとされるイタセンバラの確認も途絶えた。そこで、「イタセンバラを再び淀川に！」の合言葉のもと、淀川の生物多様性の回復を目指し、市民団体や関係行政からなる「淀川水系イタセンバラ保全市民ネットワーク」が設立され、城北ワンド群（大阪市旭区）の一部において、外来魚の駆除等の取り組みが進められた。その結果、多数の在来魚が復活し、生物多様性が回復したことから、平成24年10月、地元の小中学生らによりイタセンバラの放流が行われた。現在、官民挙げての保全活動が進められている。



三草山

Bランク

能勢町三草山はクスギ、コナラ、アベマキ、ナラガシワなどの落葉広葉樹の管理された里山林で、ミドリシジミ類の蝶であるゼフィルス類10種をはじめ、60種を超えるチョウ類が生息している。南東斜面の約14haは大阪府緑地環境保全地域にも指定されており、「三草山ゼフィルスの森」として公益財団法人大阪みどりのトラスト協会がその管理を行っている。ここでは、林床のネザサなどについて縞状の刈り払い異なる時期での刈り払いなどを行い、また樹木も部分的に萌芽再生させるエリアをつくるなど、多様な環境を創出するために、モザイク的な里山林の管理を行っている。このようにして維持された豊かな植生がチョウ類をはじめとする生物種の多様性を育てている。また、この森を守るために寄付を募り、トラスト運動が進められている。

4. レッドリスト2014カテゴリー

レッドリスト2014のカテゴリーは、環境省版レッドリストに準拠した大阪府レッドデータブック（平成12年）のカテゴリー区分としたが、「要注目」というカテゴリーは内容が不明瞭のため採用しなかった。各カテゴリー及び定義は以下の通りである。

■大阪府レッドリスト2014におけるカテゴリー

<野生動植物種>

カテゴリー	定義
絶滅 Extinct (EX)	大阪府内ではすでに絶滅したと考えられる種
絶滅危惧 Threatened	
絶滅危惧Ⅰ類 Critically Endangered + Endangered (CR+EN)	大阪府内において絶滅の危機に瀕している種
絶滅危惧Ⅱ類 Vulnerable (VU)	大阪府内において絶滅の危険が増大している種
準絶滅危惧 Near Threatened (NT)	大阪府内において存続基盤が脆弱な種
情報不足 Data Deficient (DD)	評価するだけの情報が不足している種

<地形・地質>

カテゴリー	定義
Aランク	規模的、質的にすぐれており、貴重性の程度が最も高く、全国的価値に相当するもの
Bランク	Aランクに準ずるもので、地方的価値、都道府県的価値に相当するもの
Cランク	Bランクに準ずるもので、市町村的価値に相当するもの

<生態系>

カテゴリー	定義
Aランク	大阪府内において消失の危機に瀕している環境
Bランク	大阪府内において消失の危険が増大している環境
Cランク	大阪府内における存続基盤が脆弱な環境

<生物多様性ホットスポット>

カテゴリー	定義
Aランク	多様な生物種群の絶滅危惧種にとっての生存基盤となっている重要な生息地
Bランク	Aランクに準ずる生息地
Cランク	一部の絶滅危惧種に限られるが、その生存基盤となっている生息地

5. レッドリスト2014総括表

大阪府レッドリスト2014総括表							
	分類群	掲載種数	絶滅	絶滅危惧Ⅰ類	絶滅危惧Ⅱ類	準絶滅危惧	情報不足
1	哺乳類	17 (12)	0 (0)	4 (2)	4 (3)	5 (4)	4 (3)
2	鳥類	82 (95)	0 (0)	7 (2)	26 (27)	47 (61)	2 (5)
3	爬虫類	7 (7)	0 (0)	2 (2)	1 (0)	4 (1)	0 (4)
4	両生類	12 (7)	0 (0)	2 (1)	6 (2)	4 (4)	0 (0)
5	汽水・淡水魚類	49 (38)	0 (1)	19 (13)	10 (9)	9 (3)	11 (12)
6	昆虫類	405 (182)	22 (12)	54 (20)	86 (45)	188 (100)	55 (5)
7	クモ類	20 —	0 —	1 —	2 —	5 —	12 —
8	陸産貝類	28 (24)	0 (0)	15 (15)	4 (7)	4 (1)	5 (1)
9	淡水産貝類	31 (25)	6 (5)	10 (6)	9 (8)	4 (4)	2 (2)
10	海岸生物（無脊椎動物及び藻類）	179 —	14 —	8 —	40 —	74 —	43 —
11	その他淡水産無脊椎動物	4 —	0 —	3 —	0 —	0 —	1 —
12	維管束植物	448 (405)	86 (84)	162 (125)	85 (60)	92 (89)	23 (47)
13	コケ植物	143 —	3 —	44 —	47 —	40 —	9 —
14	菌類	60 —	0 —	5 —	22 —	24 —	9 —
	合計	1485 (795)	131 (102)	336 (186)	342 (161)	500 (267)	176 (79)

※ () 内は、大阪府レッドデータブック（平成12年）で掲載した種数、また、「掲載種数」の () 内は、要注目種数を除いた数値

※ () 内の数値は参考数値（分類群の区分を変更している種があるため）

	分野	掲載箇所数	Aランク	Bランク	Cランク
15	地形・地質	44	4	23	17
16	生態系	23	3	11	9
17	生物多様性ホットスポット	55	16	11	28

6. 各分類群及び分野のレッドリスト

哺乳類

大阪府産の在来哺乳類29種を対象に、個体数の多少、過去10年の個体数の増減、及び今後の生息環境の悪化などのリスク要因をもとに希少性を判定した。2000年のレッドデータブックで絶滅危惧I類とされたアズマモグラは、大阪府内での記録はないためレッドリストからははずした。大阪府域を含む大阪湾では、明治以降16種のクジラ類が記録されているが、大部分が迷入しただけであり、定着しているスナメリだけを希少性判定対象とした。

近年急減しているという判断から、キツネとハタネズミが絶滅危惧I類に判定された。山間部でチョウセンイタチが増加し、確認例が減少しているため、ニホンイタチは絶滅危惧II類とされた。

今回のレッドリストにおいて、大阪府内で確認された哺乳類のうち、絶滅のおそれのある種の総数は8種（絶滅危惧I類4種、絶滅危惧II類4種）となった。

学名・分類群・配列は、『日本の哺乳類 改訂2版』（東海大学出版会、2008）に基づく。

ランク	和名	科名	上位分類群	学名	改訂前カテゴリー	国カテゴリー
絶滅(EX)						
	該当なし					
絶滅危惧I類(GR+EN)						
↑	ユビナガコウモリ	ヒナコウモリ科	翼手目	<i>Miniopterus fuliginosus</i>	VU	—
	テングコウモリ	ヒナコウモリ科	翼手目	<i>Murina hilgendorfi</i>	GR+EN	—
↑	キツネ	イヌ科	食肉目	<i>Vulpes vulpes</i>	NT	—
○	ハタネズミ	ネズミ科	齧歯目	<i>Microtus montebelli</i>	—	—
絶滅危惧II類(VU)						
○	ミズラモグラ	モグラ科	食虫目	<i>Euroscaptor nizura</i>	—	NT
◇	ニホンイタチ	イタチ科	食肉目	<i>Mustela itatsi</i>	DD	—
↑	スミスネズミ	ネズミ科	齧歯目	<i>Eothenomys smithii</i>	NT	—
○	スナメリ	ネズミイルカ科	クジラ目	<i>Neophocaena phocaenoides</i>	—	—
準絶滅危惧(NT)						
↓	コキクガシラコウモリ	キクガシラコウモリ科	翼手目	<i>Rhinolophus ferrumequinum</i>	VU	—
↓	キクガシラコウモリ	キクガシラコウモリ科	翼手目	<i>Rhinolophus cornutus</i>	VU	—
	アナグマ	イタチ科	食肉目	<i>Meles meles</i>	NT	—
	ムササビ	リス科	齧歯目	<i>Petaurista leucogenys</i>	NT	—
◇	カヤネズミ	ネズミ科	齧歯目	<i>Micronys minutus</i>	要注目	—
情報不足(DD)						
	カワネズミ	トガリネズミ科	食虫目	<i>Chimarrogale platycephala</i>	DD	—
	ニホンジネズミ	トガリネズミ科	食虫目	<i>Crocidura dsinezumi</i>	DD	—
○	ヤマコウモリ	ヒナコウモリ科	翼手目	<i>Nyctalus aviator</i>	—	VU
○	ヒナコウモリ	ヒナコウモリ科	翼手目	<i>Vespertilio sinensis</i>	—	—

【凡例】↑:アップリスト種 ↓:ダウンリスト種 ○:新規掲載された種 ◇:DD及び要注目から変更された種 ◆:DDへ変更された種

鳥類

大阪府で記録されている鳥類から、移入種、迷行種（毎年複数個体が生息・渡来・通過する場所が特定できない種）、多数種（大阪府内に1000羽以上生息する種）を除いた181種を希少性判定対象種とした。希少性判定は、生息個体数（最近10年ほどの情報から）、個体数の増減（1980年代との比較）、近い将来の生息環境の消失危険度を評価し、『近畿地区 鳥類レッドデータブック』（京都大学学術出版会、2002）の手法で行った。

チュウサギは、かつては大阪府で繁殖していたが、現在は繁殖個体群は失われており、今回は通過個体群として評価した。ゴイスギとコサギは、繁殖個体数・繁殖地が減少しており、将来、チュウサギと同様、大阪府から繁殖個体群が失われる恐れがあるが、依然として生息個体数は多いため今回はリストにはあがらなかった。今後の動向を注視する必要がある。

ウズラとクマタカに加え、ツバメチドリ、コアジサシ、ハチクマ、チュウヒ、サンバが新たに絶滅危惧Ⅰ類とされた。埋立地などの裸地・草地に生息する種、及び山地のタカ類の減少が懸念される。また、ケリやヒバリが新たに準絶滅危惧とされた点は特筆される。この2種を含め、他にも水田やため池など農耕地周辺の鳥が多くリストにあがっており、これはとくに平地での農耕地の減少を反映していると考えられる。

今回のレッドリストにおいて、大阪府内で確認された鳥類のうち、絶滅のおそれのある種の総数は33種（絶滅危惧Ⅰ類7種、絶滅危惧Ⅱ類26種）となった。

学名・分類群・配列は、『日本鳥類目録 改訂第7版』（日本鳥学会、2012）に基づく。

ランク	和名	科名	上位分類群	学名	改訂前カテゴリー	国カテゴリー
絶滅(EX)						
該当なし						
絶滅危惧Ⅰ類(OR+EN)						
	ウズラ	キジ科	キジ目	<i>Coturnix japonica</i>	GR+EN	VU
↑	ツバメチドリ	ツバメチドリ科	チドリ目	<i>Glareola maldivarum</i>	VU	VU
↑	コアジサシ	カモメ科	チドリ目	<i>Sterna albifrons</i>	VU	VU
↑	ハチクマ	タカ科	タカ目	<i>Pernis ptilorhynchus</i>	VU	NT
↑	チュウヒ	タカ科	タカ目	<i>Circus spilomotus</i>	VU	EN
↑	サンバ	タカ科	タカ目	<i>Buteo indicus</i>	NT	VU
	クマタカ	タカ科	タカ目	<i>Nisaetus nipalensis</i>	CR+EN	EN
絶滅危惧Ⅱ類(VU)						
	ヨシゴイ	サギ科	ペリカン目	<i>Ikbrychus sinensis</i>	VU	NT
	ミゾゴイ	サギ科	ペリカン目	<i>Gorsachius goisagi</i>	VU	VU
○	アマサギ	サギ科	ペリカン目	<i>Bubulcus ibis</i>	—	—
	ヒクイナ	クイナ科	ツル目	<i>Porzana fusca</i>	VU	NT
	ヨタカ	ヨタカ科	ヨタカ目	<i>Caprimulgus indicus</i>	VU	NT
↑	ムナグロ	チドリ科	チドリ目	<i>Pluvialis fulva</i>	NT	—
↑	ダイゼン	チドリ科	チドリ目	<i>Pluvialis squatarola</i>	NT	—
	イカルチドリ	チドリ科	チドリ目	<i>Charadrius placidus</i>	VU	—
	シロチドリ	チドリ科	チドリ目	<i>Charadrius alexandrinus</i>	VU	VU
↑	メダイチドリ	チドリ科	チドリ目	<i>Charadrius mongolus</i>	NT	—
↑	オオソリハシシギ	シギ科	チドリ目	<i>Limosa lapponica</i>	NT	VU
↑	ツルシギ	シギ科	チドリ目	<i>Tringa erythropus</i>	NT	VU
↑	アオアシシギ	シギ科	チドリ目	<i>Tringa nebularia</i>	NT	—
↑	タカブシギ	シギ科	チドリ目	<i>Tringa glareola</i>	NT	VU
↑	ソリハシシギ	シギ科	チドリ目	<i>Xenus cinereus</i>	NT	—
↑	キョウジョシギ	シギ科	チドリ目	<i>Arenaria interpres</i>	NT	—
↑	オバンシギ	シギ科	チドリ目	<i>Calidris tenuirostris</i>	NT	—
↑	ヒバリシギ	シギ科	チドリ目	<i>Calidris subminuta</i>	NT	—
↑	ウズラシギ	シギ科	チドリ目	<i>Calidris acuminata</i>	NT	—
	タマシギ	タマシギ科	チドリ目	<i>Rostratula benghalensis</i>	VU	VU
	ツミ	タカ科	タカ目	<i>Accipiter gularis</i>	VU	—
	アオバズク	フクロウ科	フクロウ目	<i>Ninox scutulata</i>	VU	—
	トラフズク	フクロウ科	フクロウ目	<i>Asio otus</i>	VU	—
	コミズク	フクロウ科	フクロウ目	<i>Asio flammeus</i>	VU	—
	サンショウクイ	サンショウクイ科	スズメ目	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	VU	VU
◇	コサビタキ	ヒタキ科	スズメ目	<i>Muscicapa dauurica</i>	DD	—
準絶滅危惧(NT)						
○	ウミアイサ	カモ科	カモ目	<i>Mergus semator</i>	—	—
↓	クイナ	クイナ科	ツル目	<i>Rallus aquaticus</i>	VU	—
	ツツドリ	カッコウ科	カッコウ目	<i>Cuculus optatus</i>	NT	—
	タゲリ	チドリ科	チドリ目	<i>Vanellus vanellus</i>	NT	—
◇	ケリ	チドリ科	チドリ目	<i>Vanellus cinereus</i>	要注目	DD
↓	コチドリ	チドリ科	チドリ目	<i>Charadrius dubius</i>	VU	—
	オオメダイチドリ	チドリ科	チドリ目	<i>Charadrius leschenaultii</i>	NT	—
	オオジシギ	シギ科	チドリ目	<i>Gallinago hardwickii</i>	NT	NT

ランク	和名	科名	上位分類群	学名	改訂前カテゴリー	国カテゴリー
準絶滅危惧(NT)(つばき)						
	チュウジシギ	シギ科	チドリ目	<i>Gallinago megala</i>	NT	—
	タシギ	シギ科	チドリ目	<i>Gallinago gallinago</i>	NT	—
	オグロシギ	シギ科	チドリ目	<i>Limosa limosa</i>	NT	—
	チュウシャクシギ	シギ科	チドリ目	<i>Numerius phaeopus</i>	NT	—
◇	ダイシャクシギ	シギ科	チドリ目	<i>Numerius arquata</i>	要注目	—
◇	ホウロクシギ	シギ科	チドリ目	<i>Numerius madagascariensis</i>	要注目	VU
	アカアシシギ	シギ科	チドリ目	<i>Tringa totanus</i>	NT	VU
	コアアシシギ	シギ科	チドリ目	<i>Tringa stagnatilis</i>	NT	—
	クサシギ	シギ科	チドリ目	<i>Tringa ochropus</i>	NT	—
	キアシシギ	シギ科	チドリ目	<i>Heteroscelus brevipes</i>	NT	—
	イソシギ	シギ科	チドリ目	<i>Actitis hypoleucos</i>	NT	—
	コオバシギ	シギ科	チドリ目	<i>Calidris canutus rogersi</i>	NT	—
	ミュビシギ	シギ科	チドリ目	<i>Calidris alba</i>	NT	—
	トウネン	シギ科	チドリ目	<i>Calidris ruficollis</i>	NT	—
	オジロトウネン	シギ科	チドリ目	<i>Calidris temminckii</i>	NT	—
	サルハマシギ	シギ科	チドリ目	<i>Calidris ferruginea</i>	NT	—
	キリアイ	シギ科	チドリ目	<i>Limicola falcinellus</i>	NT	—
	エリマキシギ	シギ科	チドリ目	<i>Philomachus pugnax</i>	NT	—
	ズグロカモメ	カモメ科	チドリ目	<i>Larus saundersi</i>	NT	VU
○	ベニアジサシ	カモメ科	チドリ目	<i>Sterna dougallii</i>	—	VU
○	ハイロチュウヒ	タカ科	タカ目	<i>Circus cyaneus</i>	—	—
↓	オオタカ	タカ科	タカ目	<i>Accipiter gentilis</i>	VU	NT
◇	ノスリ	タカ科	タカ目	<i>Buteo buteo</i>	要注目	—
↓	フクロウ	フクロウ科	フクロウ目	<i>Strix uralensis</i>	VU	—
↓	ヤマセミ	カワセミ科	ブッポウソウ目	<i>Megaceryle lugubris</i>	VU	—
↓	オオアカゲラ	キツツキ科	キツツキ目	<i>Dendrocopos leucotos</i>	VU	—
↓	コチヨウゲンボウ	ハヤブサ科	ハヤブサ目	<i>Falco columbarius</i>	VU	—
○	ヒバリ	ヒバリ科	スズメ目	<i>Alauda arvensis</i>	—	—
○	コシアカツバメ	ツバメ科	スズメ目	<i>Hirundo daurica</i>	—	—
	カワガラス	カワガラス科	スズメ目	<i>Circus pallasi</i>	NT	—
	センダイムシクイ	ムシクイ科	スズメ目	<i>Phylloscopus coronatus</i>	NT	—
	オオヨシキリ	ヨシキリ科	スズメ目	<i>Acrocephalus orientalis</i>	NT	—
	セッカ	セッカ科	スズメ目	<i>Cisticola juncidis</i>	NT	—
↓	ゴジュウカラ	ゴジュウカラ科	スズメ目	<i>Sitta europaea</i>	VU	—
↓	トラツグミ	ヒタキ科	スズメ目	<i>Zoothera dauma</i>	VU	—
	ホオアカ	ホオジロ科	スズメ目	<i>Emberiza fucata</i>	NT	—
○	カシラダカ	ホオジロ科	スズメ目	<i>Emberiza rustica</i>	—	—
○	ミヤマホオジロ	ホオジロ科	スズメ目	<i>Emberiza elegans</i>	—	—
◇	オオジュリン	ホオジロ科	スズメ目	<i>Emberiza schoeniclus</i>	要注目	—
情報不足(DD)						
	オオコノハズク	フクロウ科	フクロウ目	<i>Otus lempiji</i>	DD	—
	コノハズク	フクロウ科	フクロウ目	<i>Otus suria</i>	DD	—

【凡例】↑:アップリスト種 ↓:ダウンリスト種 ○:新規掲載された種 ◇:DD及び要注目から変更された種 ◆:DDへ変更された種

爬虫類

大阪府内で確認された爬虫類18種を対象に、個体数の多少、過去10年の個体数の増減、及び今後の生息環境の悪化などのリスク要因をもとに希少性を判定した。大阪府内での記録はあるが、産卵が確認されていないアオウミガメとタイマイは、希少性の判定対象外とした。また、2000年のレッドデータブックで準絶滅危惧とされたミナミシシガメは、移入種と判断し、判定対象外とした。

大阪府内の爬虫類の標本・生息情報が蓄積され、2000年のレッドデータブックで情報不足とされた種も今回希少性の判定をおこなった。その結果、田んぼ周辺でよく見られるニホンシシガメ、ヒバカリ、ヤマカガシが、絶滅危惧I類又は準絶滅危惧と判定された。

今回のレッドリストにおいて、大阪府内で確認された爬虫類のうち、絶滅のおそれのある種の総数は3種（絶滅危惧I類2種、絶滅危惧II類1種）となった。

学名・分類群・配列は、日本爬虫両棲類学会の「日本産爬虫両棲類標準和名」（2013.12.1参照）に基づく。

ランク	和名	科名	上位分類群	学名	改訂前カテゴリー	国カテゴリー
絶滅(EX)						
	該当なし					
絶滅危惧I類(OR+EN)						
	アカウミガメ	ウミガメ科	カメ目	<i>Caretta caretta</i>	CR+EN	EN
	タワモリ	ヤモリ科	有鱗目トカゲ亜目	<i>Gekko tawaensis</i>	CR+EN	NT
絶滅危惧II類(VU)						
◇	ヒバカリ	ナミヘビ科	有鱗目ヘビ亜目	<i>Amphiesma vibakari</i>	DD	—
準絶滅危惧(NT)						
◇	ニホンシシガメ	シシガメ科	カメ目	<i>Mauremys japonica</i>	要注目	NT
◇	タチホヘビ	ナミヘビ科	有鱗目ヘビ亜目	<i>Achalinus spinalis</i>	DD	—
◇	シロマダラ	ナミヘビ科	有鱗目ヘビ亜目	<i>Dinodon orientale</i>	DD	—
○	ヤマカガシ	ナミヘビ科	有鱗目ヘビ亜目	<i>Rhabdophis tigrinus</i>	—	—
情報不足(DD)						
	該当なし					

【凡例】↑:アップリスト種 ↓:ダウンリスト種 ○:新規掲載された種 ◇:DD及び要注目から変更された種 ◆:DDへ変更された種

両生類

大阪府内で確認された両生類17種を対象に、個体数の多少、過去10年の個体数の増減、及び今後の生息環境の悪化などのリスク要因をもとに希少性を判定した。

12種がリストに掲載され、そのうち10種のランクが上がった。アカハライモリ、ニホンヒキガエル、トノサマガエル、ニホンアカガエルといったかつては田んぼなどに数多くいた種が、絶滅危惧II類又は準絶滅危惧とされた。

今回のレッドリストにおいて、大阪府内で確認された両生類のうち、絶滅のおそれのある種の総数は8種（絶滅危惧I類2種、絶滅危惧II類6種）となった。

学名・分類群・配列は、日本爬虫両棲類学会の「日本産爬虫両棲類標準和名」（2013.12.1参照）に基づく。

ランク	和名	科名	上位分類群	学名	改訂前カテゴリー	国カテゴリー
絶滅(EX)						
	該当なし					
絶滅危惧I類(OR+EN)						
↑	カスミサンショウウオ	サンショウウオ科	有尾目	<i>Hynobius nebulosus</i>	VU	VU
	ダルマガエル	アカガエル科	無尾目	<i>Rana porosa</i>	CR+EN	EN
絶滅危惧II類(VU)						
↑	コガタチサンショウウオ	サンショウウオ科	有尾目	<i>Hynobius yatsui</i>	NT	NT
↑	ヒダサンショウウオ	サンショウウオ科	有尾目	<i>Hynobius kimurae</i>	NT	NT
	オオサンショウウオ	オオサンショウウオ科	有尾目	<i>Andrias japonicus</i>	VU	VU
◇	ニホンヒキガエル	ヒキガエル科	無尾目	<i>Bufo japonicus</i>	要注目	—
○	ニホンアカガエル	アカガエル科	無尾目	<i>Rana japonica</i>	—	—
↑	ヤマアカガエル	アカガエル科	無尾目	<i>Rana ornativentris</i>	NT	—
準絶滅危惧(NT)						
◇	アカハライモリ	イモリ科	有尾目	<i>Cynops pyrrhogaster</i>	要注目	NT
○	ツチガエル	アカガエル科	無尾目	<i>Rana rugosa</i>	—	—
○	トノサマガエル	アカガエル科	無尾目	<i>Rana nigromaculata</i>	—	NT
◇	シュレーゲルアオガエル	アオガエル科	無尾目	<i>Rhacophorus schlegelii</i>	要注目	—
情報不足(DD)						
	該当なし					

【凡例】↑:アップリスト種 ↓:ダウンリスト種 ○:新規掲載された種 ◇:DD及び要注目から変更された種 ◆:DDへ変更された種

汽水・淡水魚類

大阪府内で確認された汽水・淡水魚類のうち、絶滅のおそれのある種の総数は29種（絶滅危惧Ⅰ類19種、絶滅危惧Ⅱ類10種）となり、前回（2000年）の22種から7種増加した。改訂前に絶滅種とされていたミナミトミヨについては、標本等が残されていないためリスト外とした。

なお、和名、学名については、分類が不確定な種を除き、「環境省第4次レッドリスト」（2013）および「日本産魚類検索 全種の同定 第三版」（東海大学出版会、2013）に基づいた。また、一部は最新の分類を取り入れた。

ランク	和名	科名	上位分類群	学名	改訂前カテゴリ	国カテゴリー	備考
絶滅(EX)							
	該当なし						
絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)							
	スナヤツメ南方種	ヤツメウナギ科	ヤツメウナギ目	Lethenteron sp. S	CR+EN	VU	改訂前:スナヤツメ
↑	アブラボテ	コイ科	コイ目	Tarakia limbata	NT	NT	
	イタセンバラ	コイ科	コイ目	Acheilognathus longipinnis	CR+EN	CR	
	イチモンジタナゴ	コイ科	コイ目	Acheilognathus cyanostigma	CR+EN	CR	
↑	カワハタモロコ	コイ科	コイ目	Hemigrammocypripis rasborella	VU	EN	
↑	カワヒガイ	コイ科	コイ目	Sarcocheilichthys variegatus variegatus	要注目	NT	
↑	シロヒシタビラ	コイ科	コイ目	Acheilognathus tabira tabira	要注目	EN	
↑	ズナガニゴイ	コイ科	コイ目	Hemibarbus longirostris	VU	—	
↑	ツチフキ	コイ科	コイ目	Abbotina rivularis	VU	EN	
	ニッポンバラタナゴ	コイ科	コイ目	Rhodeus ocellatus larumus	CR+EN	CR	
↑	ヤリタナゴ	コイ科	コイ目	Tarakia lanceolata	VU	NT	
↑	ワタカ	コイ科	コイ目	Ischikauia steenackeri	要注目	CR	
	アユモドキ	アユモドキ科	コイ目	Parabotia curtus	CR+EN	CR	
	アジメドジョウ	ドジョウ科	コイ目	Nwaella delicata	CR+EN	VU	
↑	チュウガタスジシマドジョウ	ドジョウ科	コイ目	Cobitis striata striata	要注目	VU	改訂前:スジシマドジョウ中型種 ナミスジシマドジョウの亜種
	ナガレホトケドジョウ	ドジョウ科	コイ目	Lefua sp.1	CR+EN	EN	
	ヨドガタスジシマドジョウ	ドジョウ科	コイ目	Cobitis minamori yodoensis	CR+EN	EN	改訂前:スジシマドジョウ小型種深川型
	トビハゼ	ハゼ科	スズキ目	Periophthalmus modestus	CR+EN	NT	
	カジカ(大卵型)	カジカ科	スズキ目	Cottus pollux	CR+EN	NT	改訂前:陸封型カジカ
絶滅危惧Ⅱ類(VU)							
○	ニホンウナギ	ウナギ科	ウナギ目	Anguilla japonica	—	EN	改訂前:ウナギ
↑	イトモロコ	コイ科	コイ目	Squalidus gracilis gracilis	NT	—	
↑	ゼゼラ	コイ科	コイ目	Bwia zezera	要注目	VU	改訂前:ヨドゼゼラと混同
↓	ヌマムツ	コイ科	コイ目	Candidia sieboldii	CR+EN	—	改訂前:カワムツA型
	ムギツク	コイ科	コイ目	Pungtungia herzi	VU	—	
○	ヨドゼゼラ	コイ科	コイ目	Bwia yodoensis	—	EN	改訂前:ゼゼラと混同
	ドジョウ	ドジョウ科	コイ目	Misgurnus argullicaudatus	VU	DD	
	アカザ	アカザ科	ナマズ目	Liobagrus reinii	VU	VU	
	ミナミメダカ	メダカ科	ダツ目	Oryzias latipes	VU	VU	メダカ南日本集団
↑	クロヨシノボリ	ハゼ科	スズキ目	Rhinogobius brunneus	要注目	—	
準絶滅危惧(NT)							
↑	タモロコ	コイ科	コイ目	Gnathopogon elongatus elongatus	要注目	—	
↑	ハス	コイ科	コイ目	Opsarichthys uncirostris uncirostris	要注目	VU	
↑	シマドジョウ	ドジョウ科	コイ目	Cobitis biwae	要注目	—	
	ギギ	ギギ科	ナマズ目	Tachysurus nudiceps	NT	—	
○	ナマズ	ナマズ科	ナマズ目	Silurus asotus	—	—	
↑	ビワコオオナマズ	ナマズ科	ナマズ目	Silurus biwaensis	要注目	—	
○	アユ	アユ科	サケ目	Plecoglossus altivelis altivelis	—	—	
↓	ウキゴリ	ハゼ科	スズキ目	Gymnogobius urotaenia	VU	—	
○	シマヒレヨシノボリ	ハゼ科	スズキ目	Rhinogobius sp. BF	新規	NT	改訂前:トウヨシノボリと混同
情報不足(DD)							
	アブラハヤ	コイ科	コイ目	Phoxinus lagowskii steindachneri	DD	—	
◆	ウグイ	コイ科	コイ目	Tribolodon hakonensis	要注目	—	
	デメモロコ	コイ科	コイ目	Squalidus japonicus japonicus	DD	VU	
	アマゴ(サツキマス)	サケ科	サケ目	Oncorhynchus masou ishikawae	DD	NT	
	シラウオ	シラウオ科	サケ目	Salangichthys microdon	DD	—	
	クルマサヨリ	サヨリ科	ダツ目	Hyporhamphus intermedius	DD	NT	
	オオヨシノボリ	ハゼ科	スズキ目	Rhinogobius fluviatilis	DD	—	
	シマヨシノボリ	ハゼ科	スズキ目	Rhinogobius nagoyae	DD	—	
○	トウヨシノボリ	ハゼ科	スズキ目	Rhinogobius kurodai	—	—	改訂前:シマヒレヨシノボリと混同
◆	ピリンゴ	ハゼ科	スズキ目	Gymnogobius breunigii	CR+EN	—	
	ボウズハゼ	ハゼ科	スズキ目	Sicyopterus japonicus	DD	—	

【凡例】 ↑:アップリスト種 ↓:ダウンリスト種 ○:新規掲載された種 ◇:DDから変更された種 ◆:DDへ変更された種

昆虫類

大阪府では、これまでに5500種を超える昆虫種が記録されているが、2000年の大阪府レッドデータブックでは、絶滅種12種を含む186種が掲載されていた。今回の改訂で全掲載種数は、405種と大幅に増加し、絶滅種はコウチュウ目7種、カメムシ目、バッタ目、チョウ目各1種が追加されて、22種となった。流水性昆虫を中心とするカゲロウ目、カワゲラ目、トビケラ目や、シリアゲムシ目、ガロアムシ目が新たにリストに加わったほか、トンボ目、カメムシ目、アミメカゲロウ目、コウチュウ目、チョウ目（特にガ類）などでも著しく掲載種数が増加した。

ランク	和名	科名	上位分類群	学名	改訂前カテゴリ	国カテゴリー	備考
絶滅(EX)							
	ベッコウトンボ	トンボ科	トンボ目	<i>Libellula angelina</i>	EX	CR	
	マダラナニウトンボ	トンボ科	トンボ目	<i>Sympetrum maculatum</i>	EX	EN	
	ヤマトマダラバッタ	バッタ科	バッタ目	<i>Epacromius japonicus</i>	EX	—	
↑	カワラバッタ	バッタ科	バッタ目	<i>Eusphingonotus japonicus</i>	CR+EN	—	
○	ゴミアシナガサシガメ	サシガメ科	カメムシ目	<i>Myiophanes tipulira</i>	—	VU	
	カワラハンミョウ	ハンミョウ科	コウチュウ目	<i>Cicindela laetescripta</i>	EX	EN	
↑	ホソハンミョウ	ハンミョウ科	コウチュウ目	<i>Cicindela gracilis</i>	CR+EN	VU	
	ヨドシロヘハンミョウ	ハンミョウ科	コウチュウ目	<i>Cicindela inspecularis</i>	EX	VU	
	ルイスハンミョウ	ハンミョウ科	コウチュウ目	<i>Cicindela lewisi</i>	EX	EN	
↑	アオヘリアオゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Chlaenius praefectus</i>	NT	CR	
↑	オオサカアオゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Chlaenius pericallus</i>	VU	DD	
○	ケベリマルクビゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Nebria livida angulata</i>	—	EN	
○	クビナガケベリアオゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Chlaenius prosterus</i>	—	—	
↑	ツヤケベリアオゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Chlaenius spoliatus motschulskyi</i>	VU	VU	
○	コガタゲンゴロウ	ゲンゴロウ科	コウチュウ目	<i>Cybister tripunctatus orientalis</i>	EX	VU	
	スジゲンゴロウ	ゲンゴロウ科	コウチュウ目	<i>Hydaticus satoi</i>	—	EX	大阪府野生生物目録になし
	シャブゲンゴロウモドキ	ゲンゴロウ科	コウチュウ目	<i>Dytiscus shampi</i>	EX	CR	
	マルコガタゲンゴロウ	ゲンゴロウ科	コウチュウ目	<i>Cybister lewisianus</i>	EX	CR	
	ダイコウコガネ	コガネムシ科	コウチュウ目	<i>Copris ochus</i>	EX	VU	
↑	ギンイチモンジセセリ	セセリチョウ科	チョウ目	<i>Leptalina unicolor</i>	VU	NT	
	オオウラギンヒョウモン	タテハチョウ科	チョウ目	<i>Fabriciana nerippe</i>	EX	CR	
	ヒトヒカゲ本州西部亜種	ジャノメチョウ科	チョウ目	<i>Coenonympha oedippus arothius</i>	EX	EN	
絶滅危険 I 類 (CR+EN)							
○	オオイトトンボ	イトトンボ科	トンボ目	<i>Paracercion sieboldii</i>	—	—	
	ヒヌマイトンボ	イトトンボ科	トンボ目	<i>Mortonagrion Hirosei</i>	CR+EN	EN	
○	モーンイトトンボ	イトトンボ科	トンボ目	<i>Mortonagrion selenion</i>	—	NT	
↑	ゲンバイトトンボ	モノサシトンボ科	トンボ目	<i>Platycnemis foliacea sasalai</i>	VU	NT	
↑	コバネアオイトトンボ	アオイトトンボ科	トンボ目	<i>Lestes japonicus</i>	NT	EN	
↑	アオハダトンボ	カワトンボ科	トンボ目	<i>Calopteryx japonica</i>	VU	NT	
	キイロヤマトンボ	イトトンボ科	トンボ目	<i>Macromia daimoji</i>	CR+EN	NT	
	オオキトンボ	トンボ科	トンボ目	<i>Sympetrum uniforme</i>	CR+EN	EN	
↑	ハッチョウトンボ	トンボ科	トンボ目	<i>Nannophya pygmaea</i>	NT	—	
	ウスバカマキリ	カマキリ科	カマキリ目	<i>Mantis religiosa</i>	CR+EN	DD	
○	カヤコオロギ	マツムシ科	バッタ目	<i>Euscirtus japonicus</i>	—	—	
◇	コヒゲジロハサミムシ	ハサミムシ科	ハサミムシ目	<i>Euborellia annulipes</i>	DD	—	
	コバムシ	コバムシ科	カメムシ目	<i>Ilyocoris cimicoides exclamatoris</i>	CR+EN	EN	学名の変更
○	クロオビカイガラキジラミ	キジラミ科	カメムシ目	<i>Pachypsylla usubai</i>	—	—	
○	マメグミキジラミ	キジラミ科	カメムシ目	<i>Cacopsylla kongoensis</i>	—	—	学名の変更
	キバナツノトンボ	ツノトンボ科	アミメカゲロウ目	<i>Libelloides ranburi</i>	CR+EN	—	
○	オオウスバカゲロウ	ウスバカゲロウ科	アミメカゲロウ目	<i>Heoclisis japonica</i>	—	—	
○	カワラゴミムシ	カワラゴミムシ科	コウチュウ目	<i>Omphron aequalis</i>	—	—	
	ウミズギワゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Salagutia marina</i>	CR+EN	NT	
	オオヒョウタンゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Scarites sulcatus</i>	CR+EN	NT	
○	クビナガヨツボシゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Ilmoderus singularis</i>	—	DD	
○	ホソガムシ	ホソガムシ科	コウチュウ目	<i>Hydrochus aequalis</i>	—	EN	
○	ケベリクロヒメゲンゴロウ	ゲンゴロウ科	コウチュウ目	<i>Ilybius apicalis</i>	—	NT	
	ゲンゴロウ	ゲンゴロウ科	コウチュウ目	<i>Cybister japonicus</i>	CR+EN	VU	
↑	マルガタゲンゴロウ	ゲンゴロウ科	コウチュウ目	<i>Graphoderus adamsii</i>	VU	VU	
○	コガタガムシ	ガムシ科	コウチュウ目	<i>Hydrophilus bilineatus castimirensis</i>	—	VU	
↑	ヒメオオクワガタ	クワガタムシ科	コウチュウ目	<i>Dorcus montivagus montivagus</i>	NT	—	学名の変更
	シロスジコガネ	コガネムシ科	コウチュウ目	<i>Polyphylla albolineata</i>	CR+EN	—	

ランク	和名	科名	上位分類群	学名	改訂前カテゴリー	国カテゴリー	備考
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN) (つづき)							
	ツノコガネ	コガネムシ科	コウチュウ目	<i>Liatongus phanaeoides</i>	CR+EN	—	
○	ヤマトアオドウガネ	コガネムシ科	コウチュウ目	<i>Anomala japonica</i>	—	—	
○	スナサビキコリ	コメツクムシ科	コウチュウ目	<i>Meristhus nipponensis</i>	—	—	
○	アカジマトラカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目	<i>Anaglyptus bellus bellus</i>	—	—	
○	アサカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目	<i>Thyestilla gebleri</i>	—	VU	
○	オオホソコバナカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目	<i>Necydalis solida</i>	—	—	
	フタコブルリハナカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目	<i>Stenocorus caeruleipennis</i>	CR+EN	—	
○	ベーツヒラタカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目	<i>Eurypoda batesi</i>	—	—	
	ムナコブハナカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目	<i>Xenophyama purpureum</i>	CR+EN	—	
○	トラツリアブ	ツリアブ科	ハエ目	<i>Anastoechus nitidulus</i>	—	—	
↑	ヘリグロチャバナセセリ	セセリチョウ科	チョウ目	<i>Thymelicus sylvaticus</i>	VU	—	
○	ミヤマチャバナセセリ	セセリチョウ科	チョウ目	<i>Pelopidas jansoni</i>	—	—	
↑	ギフチョウ	アゲハチョウ科	チョウ目	<i>Luehdorfia japonica</i>	VU	VU	
↑	スジボソヤマキチョウ	シロチョウ科	チョウ目	<i>Gonepteryx aspasia nipponica</i>	VU	—	
	ツマグロキチョウ	シロチョウ科	チョウ目	<i>Eurema laeta betheseba</i>	CR+EN	EN	
↑	キマダラルリツバメ	シジミチョウ科	チョウ目	<i>Spindasis takaronis</i>	VU	NT	
	クロシジミ	シジミチョウ科	チョウ目	<i>Niphanda fusca</i>	CR+EN	EN	
	シルビアシジミ	シジミチョウ科	チョウ目	<i>Zizina emelina</i>	CR+EN	EN	
↑	ヒロオビドリシジミ	シジミチョウ科	チョウ目	<i>Favonius latifasciatus</i>	VU	—	
↑	ウラギンシジヒョウモン	タテハチョウ科	チョウ目	<i>Argyrogonia laodice</i>	NT	VU	
↑	ウラナミジャノメ	ジャノメチョウ科	チョウ目	<i>Ypthima motschulskyi nipponica</i>	VU	VU	
↑	キマダラモドキ	ジャノメチョウ科	チョウ目	<i>Kirinia epaminondas</i>	VU	NT	
○	ムラサキマダラスイコバナ	スイコバナガ科	チョウ目	<i>Eriocrania komaii</i>	—	—	
↑	ギンボシスズメ	スズメガ科	チョウ目	<i>Parum colligata</i>	NT	—	
○	マエアカヒトリ	ヒトリガ科	チョウ目	<i>Aloa lactinea</i>	—	NT	
○	ギンモンアカコトウ	ヤガ科	チョウ目	<i>Plusilla rosalia</i>	—	VU	
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)							
	オオサカサナエ	サナエトンボ科	トンボ目	<i>Stylurus annulatus</i>	VU	VU	
○	オグマサナエ	サナエトンボ科	トンボ目	<i>Trigomphus ogumai</i>	—	NT	
↑	ホンサナエ	サナエトンボ科	トンボ目	<i>Gomphus postocularis</i>	NT	—	
	ミヤマサナエ	サナエトンボ科	トンボ目	<i>Anisogomphus maacki</i>	VU	—	
○	メガネサナエ	サナエトンボ科	トンボ目	<i>Stylurus oculatus</i>	—	VU	
○	エソトンボ	エソトンボ科	トンボ目	<i>Somatochlora viridiaenea</i>	—	—	
↑	ハネビロエソトンボ	エソトンボ科	トンボ目	<i>Somatochlora clavata</i>	NT	—	
	アオヤンマ	ヤンマ科	トンボ目	<i>Aeschnophlebia longistigma</i>	VU	NT	
	ネアカヨシヤンマ	ヤンマ科	トンボ目	<i>Aeschnophlebia anisoptera</i>	VU	NT	
	ルリボシヤンマ	ヤンマ科	トンボ目	<i>Aeschna juncea</i>	VU	—	
○	キトンボ	トンボ科	トンボ目	<i>Sympetrum croceolum</i>	—	—	
↑	ナニフトンボ	トンボ科	トンボ目	<i>Sympetrum gracile</i>	NT	VU	
↑	セグロバツタ	バツタ科	バツタ目	<i>Shirakiacris shirakii</i>	NT	—	
○	ナキイナゴ	バツタ科	バツタ目	<i>Mongolotettix japonicus</i>	—	—	
○	ハウチワウンカ	グンバイウンカ科	カメムシ目	<i>Trypetimorpha japonica</i>	—	VU	
↑	エソハルゼミ	ゼミ科	カメムシ目	<i>Terpsisia nigricosta</i>	NT	—	
○	ヒメハルゼミ	ゼミ科	カメムシ目	<i>Euterpsisia chibensis chibensis</i>	—	—	大阪府野生生物目録になし
↑	テングオオヨコバイ	カムリヨコバイ科	カメムシ目	<i>Tengirhinus tengu</i>	NT	—	
○	エノキカイガラキジラミ	キジラミ科	カメムシ目	<i>Celtisaspis japonica</i>	—	NT	
○	イトアメンボ	イトアメンボ科	カメムシ目	<i>Hydrometra albolineata</i>	—	VU	
○	オヨギカタビロアメンボ	カタビロアメンボ科	カメムシ目	<i>Xiphovelia japonica</i>	—	NT	
	エサキアメンボ	アメンボ科	カメムシ目	<i>Limnoporus esakii</i>	VU	NT	学名の変更
	タガメ	コオイムシ科	カメムシ目	<i>Kirkaldyia desrolli</i>	VU	VU	学名の変更
○	ズイムシハナカメムシ	ハナカメムシ科	カメムシ目	<i>Lyctocoris beneficus</i>	—	NT	
↓	キバネキバナガミズキワゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Armatocillerus aestuarii</i>	CR+EN	VU	
○	コキベリアオゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Chlaenius circumdatus</i>	—	—	
↑	セアカオサムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Hemicarabus tuberculosus</i>	NT	NT	
	ドウキョウオサムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Carabus uenoi</i>	VU	VU	
↑	ヒトツメアオゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Chlaenius deliculosus</i>	NT	NT	
	ヒョウタンゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Scarites aterrimus</i>	VU	—	
○	キイロコガシラミズムシ	コガシラミズムシ科	コウチュウ目	<i>Haliphus eximus</i>	—	VU	
○	マダラコガシラミズムシ	コガシラミズムシ科	コウチュウ目	<i>Haliphus sharpi</i>	—	VU	
○	ケベリマメゲンゴロウ	ゲンゴロウ科	コウチュウ目	<i>Platambus fimbriatus</i>	—	NT	

ランク	和名	科名	上位分類群	学名	改訂前カテゴリー	国カテゴリー	備考
絶滅危惧Ⅱ類(VU)(つづき)							
	オオクワガタ	クワガタムシ科	コウチュウ目	<i>Dorcus hopei</i>	VU	VU	
	アカマダラハナムグリ	コガネムシ科	コウチュウ目	<i>Anthracophora rusticola</i>	VU	DD	学名の変更
↑	クロカナブン	コガネムシ科	コウチュウ目	<i>Rhomborhina polita</i>	NT	—	学名の変更
↑	ヒゲコガネ	コガネムシ科	コウチュウ目	<i>Polyphylla laticollis</i>	NT	—	
○	マルエンマコガネ	コガネムシ科	コウチュウ目	<i>Onthophagus viduus</i>	—	—	
	ムネアカセンチコガネ	コガネムシ科	コウチュウ目	<i>Bolbocerosoma nigroplagiatum</i>	VU	—	
○	ヤマトケンマゴソコガネ	コガネムシ科	コウチュウ目	<i>Leiopsammodius japonicus</i>	—	—	
○	ハマベオオヒメサビキコリ	コムツキムシ科	コウチュウ目	<i>Aegypnus tsukamotoi tsukamotoi</i>	—	—	
○	ヤマトオサムシダマシ	コムシダマシ科	コウチュウ目	<i>Blaps japonensis</i>	—	NT	
	クビジロカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目	<i>Xylariopsis mimica</i>	VU	—	
	ケトハナカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目	<i>Caraphia lepturoides</i>	VU	—	
↑	セミスジセリゴカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目	<i>Eumecocera trivittata</i>	NT	—	
↑	トガリバソコバナカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目	<i>Necydalis formosana</i>	NT	—	
	トゲムネホリヒゲカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目	<i>Asaperda tenuicornis</i>	VU	—	
○	トラフカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目	<i>Xylotrechus chinensis chinensis</i>	—	—	
	フトクスイモドキカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目	<i>Asaperda silvicultrix</i>	VU	—	
	ベニバナハナカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目	<i>Paranaspia anaspoides</i>	VU	—	
	ヤマトヒメコバナカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目	<i>Leptepania japonica</i>	VU	—	
	ルリボシカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目	<i>Rosalia batesi</i>	VU	—	
○	ガガブタネクイハムシ	ハムシ科	コウチュウ目	<i>Donacia lenzi</i>	—	—	
○	キヌツヤミズクサハムシ	ハムシ科	コウチュウ目	<i>Plateumaris sericea</i>	—	—	
↑	キンイロネクイハムシ	ハムシ科	コウチュウ目	<i>Donacia japana</i>	NT	NT	
○	ツヤネクイハムシ	ハムシ科	コウチュウ目	<i>Donacia nitidior</i>	—	—	
○	ルイスツブゲンゴロウ	ゲンゴロウ科	コウチュウ目	<i>Laccophilus lewisius</i>	—	VU	
○	オオミズスマシ	ミズスマシ科	コウチュウ目	<i>Dineutus orientalis</i>	—	NT	
○	コムズスマシ	ミズスマシ科	コウチュウ目	<i>Gyrinus curtus</i>	—	EN	
○	ヒメズスマシ	ミズスマシ科	コウチュウ目	<i>Gyrinus gestroi</i>	—	EN	
○	ミズスマシ	ミズスマシ科	コウチュウ目	<i>Gyrinus japonicus</i>	—	VU	
○	ヤマトモンシテムシ	シテムシ科	コウチュウ目	<i>Nicrophorus japonicus</i>	—	NT	
○	オオフタバソコガネ	コガネムシ科	コウチュウ目	<i>Aphodius elegans elegans</i>	—	—	
○	セマルオオマゴソコガネ	コガネムシ科	コウチュウ目	<i>Aphodius brachysomus</i>	—	DD	
○	ミヤマオオハナムグリ	コガネムシ科	コウチュウ目	<i>Protaetia lugubris insperata</i>	—	—	
○	アイヌハシヨウ	ハシヨウ科	コウチュウ目	<i>Cicindela gemmata aino</i>	—	NT	
○	オオヨツボシゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Dischissus mirandus</i>	—	—	
○	オサムシモドキ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Craspedonotus tibialis</i>	—	—	
↑	トラフソコバナカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目	<i>Thuranius variegatus</i>	NT	—	
↑	ムネマダラトラカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目	<i>Xylotrechus grayii</i>	NT	—	
○	ヨツボシカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目	<i>Sternygrinus quadrinotatus</i>	—	EN	
↑	ウナオハチ	コマユバチ科	ハチ目	<i>Euaobroaon yokohamae</i>	NT	NT	
○	キゴシジガバチ	アナバチ科	ハチ目	<i>Sceliphron madraspatanum</i>	—	—	
	アイノミドリシジミ	シジミチョウ科	チョウ目	<i>Chrysozephyrus brilliantinus</i>	VU	—	
↑	ウラケンシジミ	シジミチョウ科	チョウ目	<i>Ussuriana stygiana</i>	NT	—	
	ウラナミアカシジミ	シジミチョウ科	チョウ目	<i>Japonica saepestriata</i>	VU	—	
	エソミドリシジミ	シジミチョウ科	チョウ目	<i>Favonius jezoensis</i>	VU	—	
	ダイセンシジミ	シジミチョウ科	チョウ目	<i>Wagimo signatus</i>	VU	—	
	ヒサマツミドリシジミ	シジミチョウ科	チョウ目	<i>Chrysozephyrus hisamatsusanus</i>	VU	—	
↑	ウラギンヒョウモン	タテハチョウ科	チョウ目	<i>Fabriciana adippe pallescens</i>	NT	—	
↑	クモガタヒョウモン	タテハチョウ科	チョウ目	<i>Nymphargyris anachorene nidas</i>	NT	—	
↑	クロヒカゲモドキ	ジャノメチョウ科	チョウ目	<i>Lethe marginalis</i>	NT	EN	
○	ツツジヒメシクイ	ハマキガ科	チョウ目	<i>Hendecaneura rhododendrophaga</i>	—	—	
○	ミサキコムズメイガ	ツトガ科	チョウ目	<i>Parapoynx moritii</i>	—	—	
○	キバラヒトリ	ヒトリガ科	チョウ目	<i>Epatolmis caesarea</i>	—	—	
○	ブチヒゲヤナギドクガ	ドクガ科	チョウ目	<i>Leucoma candida</i>	—	—	
準絶滅危惧(NT)							
○	オビカゲロウ	ヒラタカゲロウ科	カゲロウ目	<i>Eleptus fasciatus</i>	—	—	
○	キイトンボ	イトンボ科	トンボ目	<i>Ceragrion melanurum</i>	—	—	
○	セスジイトンボ	イトンボ科	トンボ目	<i>Paracercion hieroglyphicum</i>	—	—	
○	ベニイトンボ	イトンボ科	トンボ目	<i>Ceragrion nipponicum</i>	NT	NT	
○	ホソミイトンボ	イトンボ科	トンボ目	<i>Aciagrion migratum</i>	—	—	
○	オツネイトンボ	アオイトンボ科	トンボ目	<i>Sympocma paedisca</i>	—	—	

ランク	和名	科名	上位分類群	学名	改訂前カテゴリー	国カテゴリー	備考
準絶滅危惧(NT)(つづき)							
	ムカシトンボ	ムカシトンボ科	トンボ目	<i>Epiophlebia superstes</i>	NT	—	
	ムカシヤンマ	ムカシヤンマ科	トンボ目	<i>Tanypteryx pryeri</i>	NT	—	
	アオサナエ	サナエトンボ科	トンボ目	<i>Nihonogomphus viridis</i>	NT	—	
○	ウチワヤンマ	サナエトンボ科	トンボ目	<i>Strictinogomphus clavatus</i>	—	—	
	キイロサナエ	サナエトンボ科	トンボ目	<i>Asiagomphus pryeri</i>	NT	NT	
○	タバサナエ	サナエトンボ科	トンボ目	<i>Trigomphus citinus</i>	—	NT	
	ヒメサナエ	サナエトンボ科	トンボ目	<i>Sinogomphus flavolimbatus</i>	NT	—	
○	マツスジサナエ	サナエトンボ科	トンボ目	<i>Trigomphus interruptus</i>	—	NT	
	オオリボシヤンマ	ヤンマ科	トンボ目	<i>Aeschna nigroflava</i>	NT	—	
○	カトリヤンマ	ヤンマ科	トンボ目	<i>Gynacantha japonica</i>	—	—	
	サラヤンマ	ヤンマ科	トンボ目	<i>Oligoaeschna pryeri</i>	NT	—	
↓	マルタンヤンマ	ヤンマ科	トンボ目	<i>Anaciaeschna martini</i>	VU	—	
○	トラフトンボ	エソトンボ科	トンボ目	<i>Epiheca marginata</i>	—	—	
○	アキアカネ	トンボ科	トンボ目	<i>Sympetrum frequens</i>	—	—	
○	コフキトンボ	トンボ科	トンボ目	<i>Deilelia phaon</i>	—	—	
○	ナツアカネ	トンボ科	トンボ目	<i>Sympetrum darwinianum</i>	—	—	
○	ノシメトンボ	トンボ科	トンボ目	<i>Sympetrum infuscatum</i>	—	—	
○	ヒメアカネ	トンボ科	トンボ目	<i>Sympetrum parvulum</i>	—	—	
○	マイコアカネ	トンボ科	トンボ目	<i>Sympetrum kumkeli</i>	—	—	
○	ミヤマアカネ	トンボ科	トンボ目	<i>Sympetrum pedemontanum elatum</i>	—	—	
○	ヨツボシトンボ	トンボ科	トンボ目	<i>Libellula quadrimaculata</i>	—	—	
○	ノギカワゲラ	ヒロムネカワゲラ科	カワゲラ目	<i>Cryptoperla japonica</i>	—	—	大阪府野生生物目録になし
○	ヒメノギカワゲラ	ヒロムネカワゲラ科	カワゲラ目	<i>Microperla brevicauda</i>	—	—	大阪府野生生物目録になし
	ヒナカキリ	カマキリ科	カマキリ目	<i>Amantia nawai</i>	NT	—	
○	クチナガコオロギ	コオロギ科	バッタ目	<i>Velarifictorus aspersus</i>	—	—	
○	ナツバツリサセ	コオロギ科	バッタ目	<i>Velarifictorus grylloides</i>	—	—	
◇	クツワムシ	キリギリス科	バッタ目	<i>Mecopoda niponensis</i>	要注目	—	
	ムツセモンササキリモドキ	キリギリス科	バッタ目	<i>Nipponomeconema mutsuense</i>	NT	—	
	ヒトコササキリモドキ	キリギリス科	バッタ目	<i>Tettigoniopsis longozanensis</i>	NT	—	
↓	イナゴモドキ	バッタ科	バッタ目	<i>Mecostethus alliaceus</i>	VU	—	
	ダイリフキバッタ	バッタ科	バッタ目	<i>Callopodisma dairisama</i>	NT	—	
◇	シラキトビナナフシ	ナナフシ科	ナナフシ目	<i>Micadina fagi</i>	DD	—	学名の変更
	コバネコロギス	コロギス科	バッタ目	<i>Metriogryllacris magnus</i>	NT	—	学名の変更
	アカエゾゼミ	ゼミ科	カメムシ目	<i>Lyristes flammatus</i>	NT	—	学名の変更
	エゾゼミ	ゼミ科	カメムシ目	<i>Lyristes japonicus</i>	NT	—	学名の変更
○	ハルゼミ	ゼミ科	カメムシ目	<i>Terposia vacua</i>	—	—	
○	ムモンミズカメムシ	ミズカメムシ科	カメムシ目	<i>Mesovelia miyamotoi</i>	—	—	
	ヤスマツアメンボ	アメンボ科	カメムシ目	<i>Gerris (Macrogerris) insularis</i>	NT	—	学名の変更
	オオコオイムシ	コオイムシ科	カメムシ目	<i>Appasus major</i>	NT	—	学名の変更
○	コオイムシ	コオイムシ科	カメムシ目	<i>Appasus japonicus</i>	—	NT	
○	ヒメズカマキリ	タイコウチ科	カメムシ目	<i>Ranatra unicolor</i>	—	—	
○	ミズカマキリ	タイコウチ科	カメムシ目	<i>Ranatra chinensis</i>	—	—	
○	オオミズムシ	ミズムシ科	カメムシ目	<i>Hesperocorixa koltzoffi</i>	—	NT	大阪府野生生物目録になし
○	ミヤケミズムシ	ミズムシ科	カメムシ目	<i>Xemecorixa vittipennis</i>	—	NT	
	ナベフタムシ	ナベフタムシ科	カメムシ目	<i>Aphelocheirus vittatus</i>	NT	—	
○	オオツノトンボ	ツノトンボ科	アミメカゲロウ目	<i>Protidricerus japonicus</i>	—	—	
○	ケカゲロウ	ケカゲロウ科	アミメカゲロウ目	<i>Isoscelipteron okamotonis</i>	—	—	
○	ハンミョウ	ハンミョウ科	コウチュウ目	<i>Cicindela chinensis japonica</i>	—	—	
○	イグチケブカゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Peronmerus auripilis</i>	—	NT	
○	イコマメクラチビゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Sygiotrechus itoi</i>	—	—	
	イズミメクラチビゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Trechiana dissitus</i>	NT	—	
	コンゴウメクラチビゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Sygiotrechus ohtarii</i>	NT	—	
	サクライメクラチビゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Trechiana inexpectatus</i>	NT	—	
↓	チビアオゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Eochlaenius suvorovi</i>	VU	EN	
	ノメクラチビゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Trechiana notoi</i>	NT	—	
○	ハマベミズギワゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Bambidionsemilutumsemilutum</i>	—	—	
	ボンボンメクラチビゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Trechiana parvus</i>	NT	—	
	ミノメクラチビゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Trechiana nagahinis</i>	NT	—	
	モリモメクラチビゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Sygiotrechus morimotoi</i>	NT	—	
○	ヤマトククリゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Lachnocyberis japonica</i>	—	—	

ランク	和名	科名	上位分類群	学名	改訂前カテゴリー	国カテゴリー	備考
準絶滅危惧(NT)(つづき)							
○	ルリケイメクラチビゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Trechiana ruri</i>	—	—	
○	ウスイロシマゲンゴロウ	ゲンゴロウ科	コウチュウ目	<i>Hydaticus rhanoides</i>	—	—	
○	オオヒメゲンゴロウ	ゲンゴロウ科	コウチュウ目	<i>Rhanus erraticus</i>	—	—	
○	クロゲンゴロウ	ゲンゴロウ科	コウチュウ目	<i>Cybister brevis</i>	—	NT	
○	ケシゲンゴロウ	ゲンゴロウ科	コウチュウ目	<i>Hyphidrus japonicus</i>	—	NT	
○	コウベツゲンゴロウ	ゲンゴロウ科	コウチュウ目	<i>Laccophilus kobensis</i>	—	NT	
○	コマルケンゲンゴロウ	ゲンゴロウ科	コウチュウ目	<i>Hydrovatus acuminatus</i>	—	NT	
○	シマゲンゴロウ	ゲンゴロウ科	コウチュウ目	<i>Procladius bowringii</i>	—	NT	
○	シャープツゲンゴロウ	ゲンゴロウ科	コウチュウ目	<i>Laccophilus sharpi</i>	—	NT	
○	マルチビゲンゴロウ	ゲンゴロウ科	コウチュウ目	<i>Leiodytes frontalis</i>	—	NT	
○	ガムシ	ガムシ科	コウチュウ目	<i>Hydrophilus acuminatus</i>	NT	NT	
○	コガムシ	ガムシ科	コウチュウ目	<i>Hydrochara affinis</i>	—	DD	
○	ツシマヒラタシデムシ	シデムシ科	コウチュウ目	<i>Eusilpha jakowlewi similator</i>	NT	—	
○	オニクワガタ	クワガタムシ科	コウチュウ目	<i>Prismognathus angularis</i>	NT	—	
○	トウカイコリクワガタ	クワガタムシ科	コウチュウ目	<i>Platycerus takaiwai akita</i>	NT	—	和名と学名の変更
○	セマルケンマツコガネ	コガネムシ科	コウチュウ目	<i>Psammodius convexus</i>	—	—	
○	ドウガネフイブイ	コガネムシ科	コウチュウ目	<i>Anomala cuprea</i>	—	—	
○	クロサワフロムシ	ヒメドロムシ科	コウチュウ目	<i>Neorhodelmis kurosawai</i>	—	—	
○	ヨミゾドロムシ	ヒメドロムシ科	コウチュウ目	<i>Leptelmis gracilis</i>	—	VU	
○	アカアシコハナコメツキ	コメツキムシ科	コウチュウ目	<i>Paracardiophorus sequens sequens</i>	—	—	
○	コゴミヤマヒサゴメツキ	コメツキムシ科	コウチュウ目	<i>Hemitechnus notschlajsi longoensis</i>	—	—	和名と学名の変更
○	コガタノサビコメツキ	コメツキムシ科	コウチュウ目	<i>Lacon parallelus parallelus</i>	—	—	
○	チャイロムナボソコメツキ	コメツキムシ科	コウチュウ目	<i>Agriotes subvittatus ogurae</i>	—	—	
○	ツシマヒメサビキコリ	コメツキムシ科	コウチュウ目	<i>Agrypnus tsuheimensis tsuheimensis</i>	—	—	
○	ヒメボタル	ボタル科	コウチュウ目	<i>Hotaria parvula</i>	NT	—	
○	ヘイケボタル	ボタル科	コウチュウ目	<i>Luciola lateralis</i>	—	—	
○	セダカテントウダマシ	テントウダマシ科	コウチュウ目	<i>Bolbomorphus gibbosus</i>	NT	—	
○	クロスジチャイロテントウ	テントウムシ科	コウチュウ目	<i>Micraspis kiotoensis</i>	NT	—	
○	ジュウクホシテントウ	テントウムシ科	コウチュウ目	<i>Anisosticta kobensis</i>	NT	—	
○	ジュウサンホシテントウ	テントウムシ科	コウチュウ目	<i>Hippodamia tredecimpunctata timberlakei</i>	NT	—	
○	シロジュウホシテントウ	テントウムシ科	コウチュウ目	<i>Calvia quindecimpunctata</i>	—	—	
○	ハラグロオオテントウ	テントウムシ科	コウチュウ目	<i>Callicaria superba</i>	—	—	
○	ミカドテントウ	テントウムシ科	コウチュウ目	<i>Chilocorus mikado</i>	—	—	
○	マルチビゴミムシダマシ	ゴミムシダマシ科	コウチュウ目	<i>Caedius marinus</i>	—	—	
○	キウシュウツチハンミョウ	ツチハンミョウ科	コウチュウ目	<i>Meloe auriculatus</i>	NT	—	
○	マルクビツチハンミョウ	ツチハンミョウ科	コウチュウ目	<i>Meloe corvinus</i>	—	—	
○	キイロミヤマカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目	<i>Margites fulvidus</i>	—	—	
○	クスベニカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目	<i>Pyrestes nipponicus</i>	—	—	
○	クロニセリノカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目	<i>Eumecocera unicolor</i>	NT	—	
○	ケバカマルクビカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目	<i>Atimia okayamensis</i>	NT	—	
○	シラホシキクスイカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目	<i>Eumecocera gleneoides</i>	NT	—	
○	セダカコバハズカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目	<i>Parechthistatus gibber</i>	NT	—	
○	ヒゲナガヒメリリカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目	<i>Praolia citrinipes</i>	NT	—	
○	マヤサンコバハズカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目	<i>Mesochthistatus furciferus furciferus</i>	—	—	
○	ムネモンヤツボシカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目	<i>Saperda tetrastigma</i>	NT	—	
○	モモグロハナカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目	<i>Toxotinus reini</i>	NT	—	
○	ヨコヤマトラカミキリ	カミキリムシ科	コウチュウ目	<i>Epiclytus yokoyamai</i>	NT	—	
○	クロオビツツハムシ	ハムシ科	コウチュウ目	<i>Physosmaragdina nigrifrons</i>	—	—	
○	ハツカハムシ	ハムシ科	コウチュウ目	<i>Chrysolina exanthematica</i>	—	—	
○	トビイロヒョウタンゾウムシ	ゾウムシ科	コウチュウ目	<i>Septicus uniformis</i>	—	—	
○	スジヒラタガムシ	ガムシ科	コウチュウ目	<i>Helochaers nipponicus</i>	—	NT	
○	マルヒラタガムシ	ガムシ科	コウチュウ目	<i>Enochrus subsignatus</i>	—	NT	
○	オオトックリゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Oodes vicarius</i>	—	NT	
○	カダメクラチビゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Trechiana morii</i>	—	CR+EN	
○	キタヤマメクラチビゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Stygiotrechus litayamai</i>	—	—	
○	クロケブカゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Peronomerus nigrinus</i>	—	—	
○	クロヒメヒョウタンゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Clivina lewisi</i>	—	—	
○	タカモリメクラチビゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Stygiotrechus ladanus</i>	—	CR+EN	
○	チョウセンゴモクムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Halpalus crates</i>	—	—	
○	ヨツモンカタキバゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Badister pictus</i>	—	—	

ランク	和名	科名	上位分類群	学名	改訂前カテゴリー
準絶滅危惧(NT)(つづき)					
○	シバカワツリアブ	ツリアブ科	ハエ目	<i>Bombylius shibakawae</i>	—
○	キタガミトビケラ	キタガミトビケラ科	トビケラ目	<i>Limnacentropus insolitus</i>	—
○	フタスジキソトビケラ	フトヒゲトビケラ科	トビケラ目	<i>Psilotreta japonica</i>	—
○	クロアシエダトビケラ(クチキトビケラ)	アシエダトビケラ科	トビケラ目	<i>Ganonema nigripennis</i>	—
○	カタツムリトビケラ	カタツムリトビケラ科	トビケラ目	<i>Helicopsyche yamadai</i>	—
	アオバセセリ	セセリチョウ科	チョウ目	<i>Choaspes benjaminii japonica</i>	NT
○	オオチャバナセセリ	セセリチョウ科	チョウ目	<i>Polytremis pellucida</i>	—
	ヒメキマダラセセリ	セセリチョウ科	チョウ目	<i>Ochlodes ochraceus</i>	NT
○	ホソバセセリ	セセリチョウ科	チョウ目	<i>Isoteinon lamprospilus</i>	—
○	ミヤマセセリ	セセリチョウ科	チョウ目	<i>Erynnis montanus</i>	—
○	ヤマトスジグロシロチョウ	シロチョウ科	チョウ目	<i>Pieris nesis</i>	—
	ウラジロミドリシジミ	シジミチョウ科	チョウ目	<i>Favonius saphirinus</i>	NT
	ミドリシジミ	シジミチョウ科	チョウ目	<i>Neozephyrus japonicus</i>	NT
	オオウラギンスジヒョウモン	タテハチョウ科	チョウ目	<i>Argyrogonia rutilans japonica</i>	NT
	オオムラサキ	タテハチョウ科	チョウ目	<i>Sasakia charonda</i>	NT
	スミナガシ	タテハチョウ科	チョウ目	<i>Dichorragia nesimachus nesiotis</i>	NT
	ミスジチョウ	タテハチョウ科	チョウ目	<i>Neptis philyra excellens</i>	NT
	ヤマキマダラヒカゲ	ジャノメチョウ科	チョウ目	<i>Neope nipponica</i>	NT
	ヒメキマダラヒカゲ	ジャノメチョウ科	チョウ目	<i>Zophoessa callipteris</i>	NT
○	ルリハダホソクロバ	マダラガ科	チョウ目	<i>Rhagades pruni</i>	—
○	スギタニマダガ	マダラガ科	チョウ目	<i>Rhodoneura sugitanii</i>	—
○	フチムラサキノメイガ	ツトガ科	チョウ目	<i>Aurorobotys aurorina</i>	—
○	ギンモンミズメイガ	ツトガ科	チョウ目	<i>Nymphula corculina</i>	—
○	ミドロミズメイガ	ツトガ科	チョウ目	<i>Neoschoenobia testacealis</i>	—
○	スカシサン	カイコガ科	チョウ目	<i>Prismosticta hyalinata</i>	—
○	イボタガ	イボタガ科	チョウ目	<i>Brahmaea japonica</i>	—
○	オナガミズアオ	ヤママユガ科	チョウ目	<i>Actias gnoma</i>	—
	エゾヨツメ	ヤママユガ科	チョウ目	<i>Aglia japonica</i>	NT
	エゾシモフリスズメ	スズメガ科	チョウ目	<i>Meganoton analis</i>	NT
	オオシモフリスズメ	スズメガ科	チョウ目	<i>Langia zenzeroides</i>	NT
	コウチスズメ	スズメガ科	チョウ目	<i>Smerinthus tokyonis</i>	NT
○	スキバホウジャク	スズメガ科	チョウ目	<i>Hemaris radians</i>	—
	モンクロギンシャチホコ	シャチホコガ科	チョウ目	<i>Wilemanus bidentatus</i>	NT
	ブナアオシャチホコ	シャチホコガ科	チョウ目	<i>Syntypistis punctatella</i>	NT
○	ナチキシタドクガ	ドクガ科	チョウ目	<i>Ilema nachiensis</i>	—
○	スゲドクガ	ドクガ科	チョウ目	<i>Laelia coenosa</i>	—
○	シロソバ	ヒトリガ科	チョウ目	<i>Eilema degenerella</i>	—
	ウスアオリンガ	ヤガ科	チョウ目	<i>Paracrama angulata</i>	NT
○	キシタアツバ	ヤガ科	チョウ目	<i>Hypena claripennis</i>	—
○	カギモンハナオヘアツバ	ヤガ科	チョウ目	<i>Cidariphura signata</i>	—
○	オオシロシタバ	ヤガ科	チョウ目	<i>Catocala lara</i>	—
○	ベニシタバ	ヤガ科	チョウ目	<i>Catocala electa</i>	—
↓	シロシタバ	ヤガ科	チョウ目	<i>Catocala nivea</i>	VU
○	ミヤマキシタバ	ヤガ科	チョウ目	<i>Catocala ella</i>	—
↓	カバフキシタバ	ヤガ科	チョウ目	<i>Catocala mirifica</i>	VU
	ワモンキシタバ	ヤガ科	チョウ目	<i>Catocala xarippe</i>	NT
○	アサマキシタバ	ヤガ科	チョウ目	<i>Catocala streckeri</i>	—
○	ヨシノキシタバ	ヤガ科	チョウ目	<i>Catocala connexa</i>	—
○	ヤマトホソヤガ	ヤガ科	チョウ目	<i>Lophoptera hayesi</i>	—
	キハダケンモン	ヤガ科	チョウ目	<i>Acronicta leucocuspis</i>	NT
○	マイコトラガ	トラガ科	チョウ目	<i>Maikona jezoensis</i>	—
○	アカヘリヤガ	ヤガ科	チョウ目	<i>Adisura atkinsoni</i>	—
○	ヌマベウスキヨトウ	ヤガ科	チョウ目	<i>Chilodes pacificus</i>	—
	アオバセダカヨトウ	ヤガ科	チョウ目	<i>Mormo muscivirens</i>	NT
○	テンスジウスキヨトウ	ヤガ科	チョウ目	<i>Coenobia orientalis</i>	—
○	キスジウスキヨトウ	ヤガ科	チョウ目	<i>Capsula sparganii</i>	—
○	ガマヨトウ	ヤガ科	チョウ目	<i>Capsula aerata</i>	—
○	ホソバオビキリガ	ヤガ科	チョウ目	<i>Dryobotodes angusta</i>	—
○	サヌキキリガ	ヤガ科	チョウ目	<i>Elwesia sugii</i>	—
○	ウスミモンキリガ	ヤガ科	チョウ目	<i>Eupsilia contracta</i>	—

ランク	和名	科名	上位分類群	学名	改訂前カテゴリー	国カテゴリー	備考
準絶滅危惧(NT)(つづき)							
○	ミスジキリガ	ヤガ科	チョウ目	<i>Jodia sericea</i>	—	NT	
○	カギモンキリガ	ヤガ科	チョウ目	<i>Orthosia nigromaculata</i>	—	—	
情報不足(DD)							
◆	ナゴヤサナエ	サナエトンボ科	トンボ目	<i>Stylurus nagoyanus</i>	VU	VU	
○	クロモンチビゴキブリ	チャバネゴキブリ科	ゴキブリ目	<i>Anaplecta japonica</i>	—	—	
○	ウスヒラタゴキブリ	チャバネゴキブリ科	ゴキブリ目	<i>Balta pallidiola</i>	—	—	学名の変更
○	キョウトゴキブリ	チャバネゴキブリ科	ゴキブリ目	<i>Asiablatta kyotensis</i>	—	—	
○	コオロギ	バッタ目		<i>Dianemobius furumagiensis</i>	—	—	学名の変更
○	アシジマカネタタキ	カネタタキ科	バッタ目	<i>Ectatoderus annulipedus</i>	—	—	学名の変更
○	イソカネタタキ	カネタタキ科	バッタ目	<i>Ornebius bimaculatus</i>	—	—	
○	ヘリグロツコムシ	キリギリス科	バッタ目	<i>Psyrana japonica</i>	—	—	
○	タイワンクツムシ	キリギリス科	バッタ目	<i>Mecopoda elongata</i>	—	—	
◆	キフキバッタ	バッタ科	バッタ目	<i>Parapodisma hiurai</i>	NT	—	
○	イソハサミムシ	ハサミムシ科	ハサミムシ目	<i>Anisolabis seirolui</i>	—	—	
○	ガロアムシ類	ガロアムシ科	ガロアムシ目	<i>Galloisiana spp.</i>	—	—	
○	シロヘリツチカメムシ	ツチカメムシ科	カメムシ目	<i>Canthophorus niveimarginatus</i>	—	NT	
○	オガタヒロバカゲロウ	ヒロバカゲロウ科	アミメカゲロウ目	<i>Lysmus ogatai</i>	—	—	
○	オオオブヒゲクサカゲロウ	クサカゲロウ科	アミメカゲロウ目	<i>Italochrysa nigrovenosa</i>	—	—	
○	キタオオクサカゲロウ	クサカゲロウ科	アミメカゲロウ目	<i>Nineta alpicola</i>	—	—	
○	マボロシクサカゲロウ	クサカゲロウ科	アミメカゲロウ目	<i>Nipponochrysa moriutii</i>	—	—	
○	クシヒゲカゲロウ	クシヒゲカゲロウ科	アミメカゲロウ目	<i>Dilar japonicus</i>	—	—	
○	カスリウスバカゲロウ	ウスバカゲロウ科	アミメカゲロウ目	<i>Distoleon nigricans</i>	—	—	
○	ヒメウスバカゲロウ	ウスバカゲロウ科	アミメカゲロウ目	<i>Pseudoformicaleo nubecula</i>	—	—	
○	ダイミヨウアトキリゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Cymindis daimio</i>	—	—	
○	ヤノホソコムズギワゴミムシ	オサムシ科	コウチュウ目	<i>Lymnastis yanoi</i>	—	—	
○	コセズゲンゴロウ	ゲンゴロウ科	コウチュウ目	<i>Copelatus parallelus</i>	DD	CR	
○	マダラシマゲンゴロウ	ゲンゴロウ科	コウチュウ目	<i>Hydaticus termonecrotoides</i>	DD	CR	
○	マルケシゲンゴロウ	ゲンゴロウ科	コウチュウ目	<i>Hydrovatus subtilis</i>	—	NT	
○	ムツボシツヤコツゲンゴロウ	ゲンゴロウ科	コウチュウ目	<i>Canthyrus politus</i>	DD	VU	
○	チビコブスジコガネ	コガネムシ科	コウチュウ目	<i>Trox niponensis</i>	—	—	
○	マルツヤマガソコガネ	コガネムシ科	コウチュウ目	<i>Aphodius troitzkyi</i>	—	—	
○	スズキシモフリコメツキ	コメツキムシ科	コウチュウ目	<i>Actenicerus suzuki suzuki</i>	—	—	
○	タンバコクロコメツキ	コメツキムシ科	コウチュウ目	<i>Anapedus tamba</i>	—	—	
○	ムネアカツヤケシコメツキ	コメツキムシ科	コウチュウ目	<i>Megapenthes opacus</i>	—	—	
○	ヤマトホソガムシ	ホソガムシ科	コウチュウ目	<i>Hydrochus japonicus</i>	—	NT	
○	シジミガムシ	ガムシ科	コウチュウ目	<i>Laccobius bedeli</i>	—	EN	
○	マルチビガムシ	ガムシ科	コウチュウ目	<i>Pelthydrus japonicus</i>	—	—	
○	チュウブホソガムシ	ホソガムシ科	コウチュウ目	<i>Hydrochus chubu</i>	—	VU	
○	クロソウツツミズムシ	ツツミズムシ科	コウチュウ目	<i>Satorius kurosawai</i>	—	—	
○	ヨソバコガネ	コガネムシ科	コウチュウ目	<i>Parastasia ferrieri</i>	—	—	
○	オオウバタマコメツキ	コメツキムシ科	コウチュウ目	<i>Cryptalaus yamato</i>	—	—	
○	カワイヒラアシコメツキ	コメツキムシ科	コウチュウ目	<i>Ischiodontus kawaii</i>	—	—	
○	トラフコメツキ	コメツキムシ科	コウチュウ目	<i>Pristilophus onerosus</i>	—	—	
○	ニホンチビマメコメツキ	コメツキムシ科	コウチュウ目	<i>Quasimus japonicus</i>	—	—	
○	ヒラタクシコメツキ	コメツキムシ科	コウチュウ目	<i>Spheniscosomus koikei</i>	—	—	
○	ミドリヒメコメツキ	コメツキムシ科	コウチュウ目	<i>Vuilletus viridis</i>	—	—	
○	ヤマモトツヤミズギワコメツキ	コメツキムシ科	コウチュウ目	<i>Oedostethus yamamotoi</i>	—	—	
○	ヨソコブサビコメツキ	コメツキムシ科	コウチュウ目	<i>Lacon quadrinodatus</i>	—	—	
○	ルリツヤハダコメツキ	コメツキムシ科	コウチュウ目	<i>Hemicrepidius subcyaneus</i>	—	—	
○	ミズバチ	ヒメバチ科	ハチ目	<i>Agriotypus gracilis</i>	—	DD	
○	イワタセイボウ	セイボウ科	ハチ目	<i>Chrysis (Chrysura) hirsta</i>	—	—	
○	ミゾガシラアリ	アリ科	ハチ目	<i>Lordomyrma azumai</i>	—	—	
○	ニトベギンギチ	アナバチ科	ハチ目	<i>Spadicocera nitobei</i>	—	DD	
○	ニッポンハナダカバチ	アナバチ科	ハチ目	<i>Bembix niponica</i>	—	VU	
○	クロマルハナバチ	ミツバチ科	ハチ目	<i>Bombus ignitus</i>	—	NT	
○	ミスジシリアゲ	シリアゲムシ科	シリアゲムシ目	<i>Panorpa trizonata</i>	—	—	
○	ツマグロトビケラ	トビケラ科	トビケラ目	<i>Colpomera japonica</i>	—	—	
◆	ウラクシシジミ	シジミチョウ科	チョウ目	<i>Iratsume orsedice</i>	VU	—	

【凡例】↑:アップリスト種 ↓:ダウンリスト種 ○:新規掲載された種 ◇:DD及び要注目から変更された種 ◆:DDへ変更された種

クモ類

大阪府内からは、これまで400種あまりのクモ類が記録されている。2000年の大阪府レッドデータブックでは取り扱われていなかったが、陸上の捕食性小型節足動物の中で大きな生物量を占め、陸上生態系の中で重要な地位にあるといわれる一方、分散能力が低かったり、湿地や河口域のような不安定な環境にのみ生息したりと、環境変化の影響を受けやすい種も少なくない。

最近では近隣府県のレッドリストでもクモ類をとり扱う事例が増えており、大阪府においても新たに対象とし、その結果、クモ類では、評価対象となる大阪府で確認された27種のうち、絶滅のおそれのある種の総数は3種（絶滅危惧Ⅰ類1種、絶滅危惧Ⅱ類2種）となった。

ランク	和名	科名	上位分類群	学名	改訂前カテゴリー	国カテゴリー
絶滅 (EX)						
	該当なし					
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)						
○	カネコトタテグモ	カネコトタテグモ科	クモ目	<i>Antrodiaetus roretzi</i>	—	NT
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)						
○	ワスレナグモ	ジグモ科	クモ目	<i>Calommata signata</i>	—	NT
○	テジロハリゲコモリグモ	コモリグモ科	クモ目	<i>Pardosa yamanoi</i>	—	—
準絶滅危惧 (NT)						
○	キノボリトタテグモ	トタテグモ科	クモ目	<i>Conothele fragaria</i>	—	NT
○	キシノウエトタテグモ	トタテグモ科	クモ目	<i>Latouchia typica</i>	—	NT
○	コガネグモ	コガネグモ科	クモ目	<i>Argiope amena</i>	—	—
○	カコウコモリグモ	コモリグモ科	クモ目	<i>Pardosa nojimai</i>	—	—
○	ヒトエグモ	ヒトエグモ科	クモ目	<i>Plator nipponicus</i>	—	—
情報不足 (DD)						
○	ヤマシログモ	ヤマシログモ科	クモ目	<i>Dictis striatipes</i>	—	—
○	コマツエンマグモ	エンマグモ科	クモ目	<i>Segestria nipponica</i>	—	—
○	キジロオヒキグモ	コガネグモ科	クモ目	<i>Arachnura logio</i>	—	—
○	ゲホウグモ	コガネグモ科	クモ目	<i>Poltys illepidus</i>	—	—
○	トゲグモ	コガネグモ科	クモ目	<i>Gasteracantha kuhli</i>	—	—
○	ムロズミソレグモ	スオウグモ科	クモ目	<i>Talioa nishimurai</i>	—	—
○	コンゴウヤナグモ	ガケジグモ科	クモ目	<i>Coelotes hiurai</i>	—	—
○	イソタナグモ	ウシオグモ科	クモ目	<i>Paratheuma shirahamensis</i>	—	—
○	オビジガバチグモ	ネコグモ科	クモ目	<i>Castianeira shaxianensis</i>	—	—
○	ドウシグモ	ホウシグモ科	クモ目	<i>Asceua japonica</i>	—	DD
○	アワセグモ	アワセグモ科	クモ目	<i>Selenops bursarius</i>	—	—
○	カトウツケオグモ	カニグモ科	クモ目	<i>Phrynacarne katoi</i>	—	—

【凡例】 ↑:アップリスト種 ↓:ダウンリスト種 ○:新規掲載された種 ◇:DD及び要注目から変更された種 ◆:DDへ変更された種

陸産貝類

大阪府内で確認された陸産貝類のうち、絶滅のおそれのある種の総数は19種（絶滅危惧Ⅰ類15種、絶滅危惧Ⅱ類4種）となった。

ランク	和名	科名	上位分類群	学名	改訂前カテゴリー	国カテゴリー	備考
絶滅(EX)							
	該当なし						
絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)							
	ハリマムシオイ	ヤマタニシ科	原始細舌目	<i>Chamalycaeus harimensis</i>	CR+EN	—	改訂前リストでは「ヒルスプリムシオイ」
	ニホンケシガイ	ケシガイ科	基眼目	<i>Carychium nipponense</i>	CR+EN	—	
	ナニワクチミソガイ	クチミソガイ科	柄眼目	<i>Eostrobilops nipponica reikoae</i>	CR+EN	NT	タイプ産地が高槻市天神町
	キセルガイモドキ	キセルガイモドキ科	柄眼目	<i>Mirus reinianus</i>	CR+EN	—	
	オオギセル	キセルガイ科	柄眼目	<i>Megalophaedusa martensi</i>	CR+EN	NT	
	シリオレトノサマギセル	キセルガイ科	柄眼目	<i>Mundliphaedusa decapitata</i>	CR+EN	NT	
	カギヒダギセル	キセルガイ科	柄眼目	<i>Mundliphaedusa heteroptyx</i>	CR+EN	VU	
	カセルゴギセル	キセルガイ科	柄眼目	<i>Pictophaedusa hungerfordiana</i>	CR+EN	CR+EN	
	ギューリキギセル	キセルガイ科	柄眼目	<i>Stereophaedusa addisoni addisoni</i>	CR+EN	—	
	シロモリスギセル	キセルガイ科	柄眼目	<i>Tyrannophaedusa matsumurai</i>	CR+EN	—	新種記載、改訂前リストでは「モリスギセル」
	コシボソギセル	キセルガイ科	柄眼目	<i>Tyrannophaedusa markiseiensis markiseiensis</i>	CR+EN	NT	
	コンゴウクワイロベッコウ	ベッコウマイマイ科	柄眼目	<i>Japanochlamys crenata</i>	CR+EN	VU	タイプ産地が金剛山
	トガリキビ	ベッコウマイマイ科	柄眼目	<i>Parakaliella acutanguloides</i>	CR+EN	DD	タイプ産地が岩湧山
	スジキビ	ベッコウマイマイ科	柄眼目	<i>Parakaliella ruida</i>	CR+EN	NT	
	クロオビオトメマイマイ	オナジマイマイ科	柄眼目	<i>Trishoplita latizona</i>	CR+EN	NT	タイプ産地が大阪府和泉山脈
絶滅危惧Ⅱ類(VU)							
	ゴマオカタニシ	ゴマオカタニシ科	アマオブネガイ目	<i>Georissa japonica</i>	VU	NT	
	イノウエヤマトガイ	ヤマタニシ科	原始細舌目	<i>Japonia inouei</i>	VU	VU	タイプ産地が大阪府阪市山中溪(旧*下庄村)
	ウスイロシタラガイ	ベッコウマイマイ科	柄眼目	<i>Parasitella pallida</i>	VU	—	タイプ産地が大阪府貝塚市水間
	ケハダビロウドマイマイ	ニッポンマイマイ科	柄眼目	<i>Nipponochloritis fragilis</i>	VU	NT	
準絶滅危惧(NT)							
	↓ アズキガイ	アズキガイ科	原始細舌目	<i>Pupinella rufa</i>	VU	—	
	○ ホソヒメギセル	キセルガイ科	柄眼目	<i>Tyrannophaedusa gracilispira</i>	—	VU	
	コウベマイマイ	オナジマイマイ科	柄眼目	<i>Aegista kobensis kobensis</i>	NT	—	
	↓ ナガオカモノアラガイ	オカモノアラガイ科	柄眼目	<i>Oxyloma hirasei</i>	VU	NT	
情報不足(DD)							
	ナガナタネガイ	キバサナギガイ科	柄眼目	<i>Columella edentula</i>	DD	LP	
	◆ ヒメタマゴマイマイ	ニッポンマイマイ科	柄眼目	<i>Satsuma pagodula</i>	要注目	NT	
	○ ハケギセル	キセルガイ科	柄眼目	<i>Pinguiphaedusa attrita</i>	—	—	
	○ パツラマイマイ	パツラマイマイ科	柄眼目	<i>Discus pauper</i>	—	LP	
	○ イボイボナメクジ	ホソアシヒダナメクジ科	収眼目	<i>Granulilimax fuscicornis</i>	—	NT	

【凡例】↑:アップリスト種 ↓:ダウンリスト種 ○:新規掲載された種 ◇:DD及び要注目から変更された種 ◆:DDへ変更された種

淡水産貝類

大阪府内で確認された淡水産貝類のうち、絶滅種が6種、絶滅のおそれのある種の総数は19種（絶滅危惧Ⅰ類10種、絶滅危惧Ⅱ類9種）となった。

ランク	和名	科名	上位分類群	学名	改訂前カテゴリー	国カテゴリー	備考
絶滅(EX)							
	ナカセコカワニナ	カワニナ科	新生腹足目	<i>Biwamelania nakasekoeae</i>	EX	CR+EN	
	カワネジガイ	ヒラマキガイ科	異鰓目	<i>Camptocera terebra hirasci</i>	EX	CR+EN	
	ヒダリマキモノアラガイ	ヒラマキガイ科	異鰓目	<i>Culmenella rezvoji prashadi</i>	EX	CR+EN	
	イケチョウガイ	インガイ科	インガイ目	<i>Hyriopsis schlegeli</i>	EX	CR+EN	
	オトコタテボシガイ	インガイ科	インガイ目	<i>Inversium reinianus</i>	EX	VU	
○	カタハガイ	インガイ科	インガイ目	<i>Obovalis omissis</i>	—	VU	
絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)							
↑	マメタニシ	エゾマメタニシ科	新生腹足目	<i>Panossulus marchuicus japonicus</i>	VU	VU	
↑	タテヒダカワニナ	カワニナ科	新生腹足目	<i>Biwamelania decipiens</i>	VU	NT	
	ヤマトカワニナ	カワニナ科	新生腹足目	<i>Biwamelania niponica</i>	CR+EN	NT	
↑	モノアラガイ	モノアラガイ科	異鰓目	<i>Radix auricularia japonica</i>	要注目	NT	
	カドヒラマキガイ	ヒラマキガイ科	異鰓目	<i>Choanomphalodes pectriatulus</i>	CR+EN	NT	
	オハエボシガイ	インガイ科	インガイ目	<i>Inversidens brandti</i>	CR+EN	VU	
	オグラヌマガイ	インガイ科	インガイ目	<i>Ogurandonta ogurae</i>	CR+EN	CR+EN	
	セタシジミ	シジミ科	ザルガイ目	<i>Corbicula sandai</i>	CR+EN	VU	
	マメシジミ	ドブシジミ科	ザルガイ目	<i>Pisidium japonicum</i>	CR+EN	—	
○	フクイマメシジミ	ドブシジミ科	ザルガイ目	<i>Pisidium kawamurai hukuense</i>	—	—	
絶滅危惧Ⅱ類(VU)							
	マルタニシ	タニシ科	新生腹足目	<i>Cipangopaludina chinensis laeta</i>	VU	VU	
↑	オオタニシ	タニシ科	新生腹足目	<i>Cipangopaludina japonica</i>	NT	NT	
	イボカワニナ	カワニナ科	新生腹足目	<i>Biwamelania multigranosa</i>	VU	NT	
	クロダカワニナ	カワニナ科	新生腹足目	<i>Semisulcospira kurodai</i>	VU	NT	
	ヌマガイ	インガイ科	インガイ目	<i>Anodonta lauta</i>	要注目	—	改訂前リストでは「ドブガイ(A型)」
	マルドブガイ	インガイ科	インガイ目	<i>Anodonta calipygos</i>	VU	VU	
↑	トンガリササノハガイ	インガイ科	インガイ目	<i>Lanceolaria grayana</i>	要注目	NT	ササノハガイ(前回は絶滅危惧Ⅱ類)は同種
	マツカサガイ	インガイ科	インガイ目	<i>Promodularia japonensis</i>	VU	NT	
○	マシジミ	シジミ科	ザルガイ目	<i>Corbicula leana</i>	—	VU	
準絶滅危惧(NT)							
↑	ハベカワニナ	カワニナ科	新生腹足目	<i>Biwamelania habeii</i>	要注目	—	
	カラスガイ	インガイ科	インガイ目	<i>Cristaria plicata</i>	NT	NT	メンカラスガイは同種
↑	ヤシガイ	インガイ科	インガイ目	<i>Unio douglasiae nipponensis</i>	要注目	—	
↑	ドブシジミ	ドブシジミ科	ザルガイ目	<i>Sphaerium japonicum</i>	DD	—	
情報不足(DD)							
○	クルマヒラマキガイ	ヒラマキガイ科	異鰓目	<i>Hippeutis cartori</i>	—	VU	
○	スジイカワコザラガイ	ヒラマキガイ科	異鰓目	<i>Laevapex japonicus</i>	—	DD	

【凡例】↑:アップリスト種 ↓:ダウンリスト種 ○:新規掲載された種 ◇:DDから変更された種 ◆:DDへ変更された種

海岸生物(無脊椎動物及び藻類)

2000年の大阪府レッドデータブックでは海岸生物の選定は見送られていたが、今回のリスト改訂で選定することにした。評価は府内の汽水域・砂浜域の潮間帯に生息、または生活史の一時期で潮間帯を利用する生物(無脊椎動物及び藻類)を対象とした。まず、過去の文献調査、標本調査、現地調査から記録のある約580種群をリストアップしたのち、岩礁域や潮下帯が分布の中心となる種、並びに未同定種を除いた約280種を評価対象とした。ただし、干潟では潮下帯性の強い種が潮間帯に出現することも多く、干潟環境を評価するうえで見過ごせない場合もある。潮下帯性ではあるが、条件の良い干潟では潮間帯にも出現する種については評価対象とした。これらについて、種ごとに個体群存続リスク(環境変動の影響を受けやすい、外部からの加入頻度が低い、大阪府には少ない特殊な底質に依存している、他種との寄生共生関係にある、漁獲や収集などの採集圧が高い、他種との競争関係にある、その他)を点数化し、最終的に179種をリストとして選定した。

その結果、絶滅種が14種、絶滅のおそれのある種の総数は48種(絶滅危惧I類8種、絶滅危惧II類40種)となった。

注: 海岸生物で挙げた国カテゴリーのうち、軟体動物は環境省第4次レッドリスト、それ以外の分類群は2012年に日本ペントス学会が発表した海岸ペントスレッドデータブックのカテゴリーを示す。

ランク	和名	科名	上位分類群			学名	改訂前カテゴリー	国カテゴリー
絶滅(EX)								
○	ヒロクテカノ	アマオブネガイ科	軟体動物門	腹足綱	アマオブネガイ目	<i>Neripteron</i> sp.	—	NT
○	カワアイ	フトヘナタリ科	軟体動物門	腹足綱	盤足目	<i>Cerithidea djadjarjensis</i>	—	NT
○	ツブカワザンショウ	カワザンショウガイ科	軟体動物門	腹足綱	盤足目	<i>Assiminea estuarina</i>	—	NT
○	マツシマコメツブ	ヘコミツラガイ科	軟体動物門	腹足綱	頭楯目	<i>Retusa matusima</i>	—	—
○	ゼニガタフシエラガイ	カメコフシエラガイ科	軟体動物門	腹足綱	側鰓目	<i>Pleurobranchus semperi</i>	—	—
○	ニューウトタテジマウミウシ	タテジマウミウシ科	軟体動物門	腹足綱	裸鰓目	<i>Armina papillata</i>	—	—
○	ハイガイ	フネガイ科	軟体動物門	二枚貝綱	フネガイ目	<i>Tegillarca granosa</i>	—	EN
○	シラトリガイ	ニッコウガイ科	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	<i>Micoma nasuta</i>	—	—
○	アオサギガイ	ニッコウガイ科	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	<i>Psanmotreta praerupta</i>	—	—
○	オチバガイ	シオサザナミガイ科	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	<i>Psanmotrea virescens</i>	—	NT
○	オオマテガイ	マテガイ科	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	<i>Solen grandis</i>	—	—
○	ハマグリ	マルスダレガイ科	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	<i>Meretrix lusoria</i>	—	VU
○	ウラカガミ	マルスダレガイ科	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	<i>Dosinia corrugata</i>	—	EN
○	オキシジミ	マルスダレガイ科	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	<i>Cyclina sirensis</i>	—	LP (沖縄島)
絶滅危惧 I 類 (CR+EN)								
○	ホソウミナ	ウミナナ科	軟体動物門	腹足綱	盤足目	<i>Batillaria cuningii</i>	—	—
○	ヘナタリ	フトヘナタリ科	軟体動物門	腹足綱	盤足目	<i>Cerithidea cingulata</i>	—	NT
○	ヒナタムシヤドリカワザンショウ	カワザンショウガイ科	軟体動物門	腹足綱	盤足目	<i>Assiminea</i> aff. <i>parasitologica</i>	—	NT
○	タケノコカワニナ	トウガタカワニナ科	軟体動物門	腹足綱	盤足目	<i>Stenomelania rufescens</i>	—	NT
○	マゴコロガイ	カワホトギスガイ科	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	<i>Peregrinamur oshimai</i>	—	NT
○	クシケマスオ	オオノガイ科	軟体動物門	二枚貝綱	オオノガイ目	<i>Cryptomya truncata</i>	—	NT
○	オオサカドロソコエビ	ユンボソコエビ科	節足動物門	軟甲綱	端脚目	<i>Grandicerella osakaensis</i>	—	NT
○	アミキンセンガニ	カラッパ科	節足動物門	軟甲綱	十脚目	<i>Matuta planipes</i>	—	—
絶滅危惧 II 類 (VU)								
○	ミヤコドリガイ	ユキスズメガイ科	軟体動物門	腹足綱	アマオブネガイ目	<i>Cinnalepeta pulchella</i>	—	NT
○	ヒナユキスズメ	ユキスズメガイ科	軟体動物門	腹足綱	アマオブネガイ目	<i>Phenacolepas</i> sp.	—	NT
○	ヨシダカワザンショウ	カワザンショウガイ科	軟体動物門	腹足綱	盤足目	<i>Angustassiminea yoshidayukioi</i>	—	NT
○	ミズゴマツボ	ミズゴマツボ科	軟体動物門	腹足綱	盤足目	<i>Stenothyra japonica</i>	—	VU
○	ヒモイカリナマコツマミガイ	ハナゴウナ科	軟体動物門	腹足綱	翼舌目	<i>Hypermastus lacteus</i>	—	VU
○	カキウラクチキレモドキ	トウガタガイ科	軟体動物門	腹足綱	異旋目	<i>Brachystomia bipyramidata</i>	—	—
○	ナギサノシタタリ	オカミガイ科	軟体動物門	腹足綱	基眼目	<i>Microtaralia actecinooides</i>	—	—
○	ウスコミガイ	オカミガイ科	軟体動物門	腹足綱	基眼目	<i>Laemodonta exaratooides</i>	—	NT
○	ハボウキガイ	ハボウキガイ科	軟体動物門	二枚貝綱	ウグイスガイ目	<i>Pima bicolor</i>	—	NT
○	スジホシムシヤドリガイ	ウロコガイ科	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	<i>Nipponomysella subtruncata</i>	—	NT
○	オオトリガイ	バカガイ科	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	<i>Lutraria maxima</i>	—	NT
○	ユキガイ	バカガイ科	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	<i>Micropesta nicobarica</i>	—	NT
○	ミルクイ	バカガイ科	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	<i>Tresus leanae</i>	—	VU
○	ユウシオガイ	ニッコウガイ科	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	<i>Moerella rutila</i>	—	NT
○	ムラサキガイ	シオサザナミガイ科	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	<i>Soletellina diplos</i>	—	VU
○	フジナミガイ	シオサザナミガイ科	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	<i>Soletellina boeddinghausi</i>	—	EN
○	アケボノキスタ	シオサザナミガイ科	軟体動物門	二枚貝綱	マルスダレガイ目	<i>Soletellina atrata</i>	—	—
○	オオノガイ	オオノガイ科	軟体動物門	二枚貝綱	オオノガイ目	<i>Mya areraria oonogai</i>	—	NT
○	ネムグリガイ	フナクイシ科	軟体動物門	二枚貝綱	オオノガイ目	<i>Zachsia zenkewitschi</i>	—	—
○	ヒメイカ	ヒメイカ科	軟体動物門	頭足綱	ダンゴイカ目	<i>Idiosepius paradoxus</i>	—	—

ランク	和名	科名	上位分類群	学名	改訂前カテゴリー	国カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類(VU)(つづき)						
○	ウチワゴカイ	ゴカイ科	環形動物門 多毛綱	サンバゴカイ目 Necteanthes uchiwa	—	VU
○	カキモトシリス	シリス科	環形動物門 多毛綱	サンバゴカイ目 Myrianida pachycera	—	—
○	スコカイイソメ	ナナテイソメ科	環形動物門 多毛綱	イソメ目 Diopatra bilobata	—	—
○	ムギワラムシ	ツバサゴカイ科	環形動物門 多毛綱	スピオ目 Mesochaetopterus japonicus	—	VU
○	ツバサゴカイ	ツバサゴカイ科	環形動物門 多毛綱	スピオ目 Chaetopterus cautus	—	VU
○	スナウシロマエソコエビ	ツノヒゲソコエビ科	節足動物門 軟甲綱	端脚目 Eohaustorius subicolus	—	DD
○	ヒメコツムシ	コツムシ科	節足動物門 軟甲綱	等脚目 Gnoringosphaeroma pulchellum	—	DD
○	ヒガタスナホリムシ	スナホリムシ科	節足動物門 軟甲綱	等脚目 Eurydice aliyami	—	VU
○	ハマダンゴムシ	ハマダンゴムシ科	節足動物門 軟甲綱	等脚目 Tylos granulatus	—	—
○	ヒメトラフシャコ	ヒメシャコ科	節足動物門 軟甲綱	口脚目 Acanthosquilla multifasciata	—	—
○	ニホンスナモグリ	スナモグリ科	節足動物門 軟甲綱	十脚目 Nihonotyppaea japonica	—	—
○	ハルマンスナモグリ	スナモグリ科	節足動物門 軟甲綱	十脚目 Nihonotyppaea hamardi	—	—
○	アナジャコ	アナジャコ科	節足動物門 軟甲綱	十脚目 Upogebia major	—	—
○	シオマネキ	スナガニ科	節足動物門 軟甲綱	十脚目 Uca arcuata	—	VU
○	チゴガニ	コムツキガニ科	節足動物門 軟甲綱	十脚目 Ilyoplax pusilla	—	LP(南大東島等)
○	ウモレベンケイガニ	ベンケイガニ科	節足動物門 軟甲綱	十脚目 Clistoceloma marguense	—	EN
○	ヒメケフサイソガニ	モクスガニ科	節足動物門 軟甲綱	十脚目 Hemigrapsus sinensis	—	VU
○	タイワンヒライソモドキ	モクスガニ科	節足動物門 軟甲綱	十脚目 Psychognathus ishii	—	NT
○	ヒメヒライソモドキ	モクスガニ科	節足動物門 軟甲綱	十脚目 Psychognathus capillidigitatus	—	NT
○	トリウミアカイソモドキ	モクスガニ科	節足動物門 軟甲綱	十脚目 Sestrostoma toriumii	—	NT
絶滅危惧Ⅰ類(NT)						
○	ウミサボテン	ウミサボテン科	刺胞動物門 花虫綱	ウミエラ目 Cavernularia obesa	—	DD
○	スジホシムシモドキ	スジホシムシ科	星口動物門 スジホシムシ綱	スジホシムシ目 Siphonoma cumanense	—	NT
○	ヒメコザラ(シボリガイ型)	ユキノカサガイ科	軟体動物門 腹足綱	カサガイ目 Patelloida pygmaea	—	NT
○	ウミナナ	ウミナナ科	軟体動物門 腹足綱	盤足目 Batillaria multiformis	—	NT
○	フトヘナタリ	フトヘナタリ科	軟体動物門 腹足綱	盤足目 Cerithidea rhizophorarum	—	NT
○	ゴマツボ	リソツボ科	軟体動物門 腹足綱	盤足目 Stosicia annulata	—	VU
○	カワグチツボ	カワグチツボ科	軟体動物門 腹足綱	盤足目 Iravadia elegantula	—	NT
○	カワザンショウ	カワザンショウガイ科	軟体動物門 腹足綱	盤足目 Assiminea japonica	—	—
○	クイロカワザンショウ	カワザンショウガイ科	軟体動物門 腹足綱	盤足目 Angustassiminea castanea	—	NT
○	ヒラドカワザンショウ	カワザンショウガイ科	軟体動物門 腹足綱	盤足目 Angustassiminea hiradoensis	—	—
○	サツマクイロカワザンショウ	カワザンショウガイ科	軟体動物門 腹足綱	盤足目 Angustassiminea satsumana	—	—
○	エドガワミスゴマツボ	ミスゴマツボ科	軟体動物門 腹足綱	盤足目 Stenothyra edogawensis	—	NT
○	アダムスタマガイ	タマガイ科	軟体動物門 腹足綱	盤足目 Cryptonatica adamsiana	—	NT
○	エゾタマガイ	タマガイ科	軟体動物門 腹足綱	盤足目 Cryptonatica andoi	—	—
○	ネコガイ	タマガイ科	軟体動物門 腹足綱	盤足目 Eumaticina papilla	—	NT
○	ハナツメタ	タマガイ科	軟体動物門 腹足綱	盤足目 Glossaulax reiriana	—	—
○	シゲトウボラ	フジツガイ科	軟体動物門 腹足綱	盤足目 Cymatium cingulatum	—	—
○	セキモリ	イトカケガイ科	軟体動物門 腹足綱	翼舌目 Epitonium robillardi	—	NT
○	クレハガイ	イトカケガイ科	軟体動物門 腹足綱	翼舌目 Papyriscala clementia	—	NT
○	ムシロガイ	ムシロガイ科	軟体動物門 腹足綱	新腹足目 Nassarius livescens	—	NT
○	クサズリクチキレ	トウガタガイ科	軟体動物門 腹足綱	異旋目 Babella caelator	—	—
○	ヨコスジギリ	トウガタガイ科	軟体動物門 腹足綱	異旋目 Parthenina affectuosa	—	—
○	イトコクチキレ	トウガタガイ科	軟体動物門 腹足綱	異旋目 Pyrgulina consobrina	—	—
○	タイラギ	ハボウキガイ科	軟体動物門 二枚貝綱	ウグイスガイ目 Arina pectinata	—	NT
○	オハログキ属の一種	イタボガキ科	軟体動物門 二枚貝綱	カキ目 Saccostrea sp.	—	—
○	チリハギガイ	チリハギガイ科	軟体動物門 二枚貝綱	マルスダレガイ目 Lasaea undulata	—	—
○	バカガイ	バカガイ科	軟体動物門 二枚貝綱	マルスダレガイ目 Mactra chinensis	—	—
○	サギガイ	ニッコウガイ科	軟体動物門 二枚貝綱	マルスダレガイ目 Macoma sector	—	NT
○	シラトリモドキ	ニッコウガイ科	軟体動物門 二枚貝綱	マルスダレガイ目 Heteromacoma irus	—	—
○	サクラガイ	ニッコウガイ科	軟体動物門 二枚貝綱	マルスダレガイ目 Nitidotellina hokkaidoensis	—	NT
○	ハザクラ	シオサザナミガイ科	軟体動物門 二枚貝綱	マルスダレガイ目 Psummtacea minor	—	NT
○	キヌタアゲマキ	キヌタアゲマキ科	軟体動物門 二枚貝綱	マルスダレガイ目 Solecurtus divaricatus	—	NT
○	マテガイ	マテガイ科	軟体動物門 二枚貝綱	マルスダレガイ目 Solen strictus	—	LP(沖縄島)
○	ヤマトシジミ	シジミ科	軟体動物門 二枚貝綱	マルスダレガイ目 Corbicula japonica	—	NT
○	マツカゼガイ	マルスダレガイ科	軟体動物門 二枚貝綱	マルスダレガイ目 Iruis niisii	—	—
○	カガミガイ	マルスダレガイ科	軟体動物門 二枚貝綱	マルスダレガイ目 Phacosoma japonicum	—	—
○	オニアサリ	マルスダレガイ科	軟体動物門 二枚貝綱	マルスダレガイ目 Protothaca jedoensis	—	—
○	ヒメアサリ	マルスダレガイ科	軟体動物門 二枚貝綱	マルスダレガイ目 Ruditapes variegatus	—	—
○	ヒメコノアサリ	マルスダレガイ科	軟体動物門 二枚貝綱	マルスダレガイ目 Veremolpa micra	—	—

ランク	和名	科名	上位分類群	学名	改訂前カテゴリー	国カテゴリー
準絶滅危惧 (NT) (つづき)						
○	クチベニガイ	クチベニガイ科	軟体動物門 二枚貝綱	オオノガイ目 Solidicorbula erythrodon	—	—
○	ナミガイ(オキナノメンガイ)	キヌマトイガイ科	軟体動物門 二枚貝綱	オオノガイ目 Panopea japonica	—	—
○	ソトオリガイ	オキナガイ科	軟体動物門 二枚貝綱	ウミタケガイモドキ目 Laternula marilina	—	—
○	ヒトツブゴカイ	ゴカイ科	環形動物門 多毛綱	サシバゴカイ目 Perinereis cultrifera floridana	—	—
○	マキントシチロリ(ヒガタチロリ)	チロリ科	環形動物門 多毛綱	サシバゴカイ目 Glycera macintoshi	—	—
○	ニッポンフサゴカイ	フサゴカイ科	環形動物門 多毛綱	フサゴカイ目 Thelepus cf. setosus	—	NT
○	タマシキゴカイ	タマシキゴカイ科	環形動物門 多毛綱	イトゴカイ目 Arenicola brasiliensis	—	—
○	シマドロソコエビ	ユンボソコエビ科	節足動物門 軟甲綱	端脚目 Grandidierella fasciata	—	—
○	ニホンドロクダムシ	ドロクダムシ科	節足動物門 軟甲綱	端脚目 Sinocrophium japonicum	—	—
○	ヒラタマルソコエビ	マルソコエビ科	節足動物門 軟甲綱	端脚目 Urothoe gelasma ambigua	—	—
○	ヨツバコツムシ	コツムシ科	節足動物門 軟甲綱	等脚目 Sphaeroma retrolaevis	—	—
○	クルマエビ	クルマエビ科	節足動物門 軟甲綱	十脚目 Mantisopeneus japonicus	—	—
○	ヒラテテナガエビ	テナガエビ科	節足動物門 軟甲綱	十脚目 Macrobrachium japonicum	—	—
○	ハサミシャコエビ	ハサミシャコエビ科	節足動物門 軟甲綱	十脚目 Laomedea astacina	—	—
○	ヨコヤアナジャコ	アナジャコ科	節足動物門 軟甲綱	十脚目 Upogebia yokoyai	—	—
○	キンセンガニ	カラツハ科	節足動物門 軟甲綱	十脚目 Ashtoret lunaris	—	—
○	マメコブシガニ	コブシガニ科	節足動物門 軟甲綱	十脚目 Pyrhila pisum	—	NT
○	カネココブシ	コブシガニ科	節足動物門 軟甲綱	十脚目 Philyra lanekoi	—	—
○	マキトラノオガニ	ケブカガニ科	節足動物門 軟甲綱	十脚目 Pitumnus makianus	—	—
○	スナガニ	スナガニ科	節足動物門 軟甲綱	十脚目 Ocypode stimpsoni	—	—
○	コメツキガニ	コメツキガニ科	節足動物門 軟甲綱	十脚目 Scopimera globosa	—	—
○	オサガニ	オサガニ科	節足動物門 軟甲綱	十脚目 Macrophthalmus abbreviatus	—	NT
○	ヒメヤマトオサガニ	オサガニ科	節足動物門 軟甲綱	十脚目 Macrophthalmus barzai	—	NT
○	チゴイワガニ	オサガニ科	節足動物門 軟甲綱	十脚目 Ilyograpsus nodulosus	—	NT
○	ユビアカベンケイガニ	ベンケイガニ科	節足動物門 軟甲綱	十脚目 Parasarma tripectinis	—	NT
○	フジテガニ	ベンケイガニ科	節足動物門 軟甲綱	十脚目 Cistoceloma villosum	—	NT
○	スネナガイソガニ	モクスガニ科	節足動物門 軟甲綱	十脚目 Hemigrapsus longitarsis	—	NT
○	ヒメアシハラガニ	モクスガニ科	節足動物門 軟甲綱	十脚目 Helice japonica	—	NT
○	オオヒライソガニ	モクスガニ科	節足動物門 軟甲綱	十脚目 Varuna litterata	—	—
○	ウモレマメガニ	モクスガニ科	節足動物門 軟甲綱	十脚目 Pseudopinnixa carinata	—	VU
○	ハスノハカシバン	ヨウミヤクカシバン科	棘皮動物門	ウニ綱 タコノマクラ目 Scaphechinus nirabilis	—	—
○	ヒモイカリナマコ	イカリナマコ科	棘皮動物門	ナマコ綱 無足目 Patinapta ooplax	—	—
○	マキヒトエグサ	マキヒトエグサ科	緑色植物門	アオサ藻綱 ヒビミドロ目 Gayralia oxyspermum	—	—
○	アヤギヌ	コノハノリ科	紅色植物門	紅葉綱 イギス目 Caloglossa continua	—	—
○	ホソアヤギヌ	コノハノリ科	紅色植物門	紅葉綱 イギス目 Caloglossa ogasawaraensis	—	—
情報不足 (DD)						
○	イシワケイツギンチャク	ウメボシイソギンチャク科	刺胞動物門	花虫綱 イソギンチャク目 Gyraetis japonica	—	—
○	ムラサキハナギンチャク	ハナギンチャク科	刺胞動物門	花虫綱 ハナギンチャク目 Cerianthus filiformis	—	—
○	小型大平肺吸虫	肺吸虫科	扁形動物門	吸虫綱 肺吸虫目 Paragonimus iloktsuenensis	—	—
○	アンチラサメハダホシムシ	サメハダホシムシ科	星口動物門	サメハダホシムシ綱 サメハダホシムシ目 Antillesoma anillarum	—	DD
○	ホウキムシ	ホウキムシ科	触手動物門	筆虫綱 ホウキムシ目 Phoronis australis	—	—
○	ダンベイキサゴ	ニシキウズガイ科	軟体動物門	腹足綱 古腹足目 Umbronium giganteum	—	—
○	イボウミナ	ウミミナ科	軟体動物門	腹足綱 盤足目 Batillaria zonalis	—	VU
○	カイメンケシカニモリ	クイロケシカニモリ科	軟体動物門	腹足綱 翼舌目 Cerithiopsis spongicola	—	—
○	オガイ	エゾバイ科	軟体動物門	腹足綱 新腹足目 Cantharus cecillei	—	EN
○	ヨコイトカケギリ	トウガタガイ科	軟体動物門	腹足綱 異旋目 Cingulina cingulata	—	—
○	クチケレガイ	トウガタガイ科	軟体動物門	腹足綱 異旋目 Orinella pulchella	—	—
○	ミスジヨコイトカケギリ	トウガタガイ科	軟体動物門	腹足綱 異旋目 Paracingulina triarata	—	—
○	シロイトカケギリ	トウガタガイ科	軟体動物門	腹足綱 異旋目 Turbonilla multigrata	—	—
○	カノコセワタ	カノコセワタ科	軟体動物門	腹足綱 頭楯目 Philinopsis giglioli	—	—
○	ウミナメクジ	アメフラシ科	軟体動物門	腹足綱 アメフラシ目 Petalifera punctulata	—	—
○	コツブモウミウシ	ミドリアマモウミウシ科	軟体動物門	腹足綱 囊舌目 Stiliger pusillus	—	—
○	キヌカツギハマシノミ	オカミガイ科	軟体動物門	腹足綱 基眼目 Melampus sincaporensis	—	VU
○	ハンレイヒバリ(カラスノマクラ)	イガイ科	軟体動物門	二枚貝綱 イガイ目 Modiolus hanleyi	—	EN
○	イタボガキ	イタボガキ科	軟体動物門	二枚貝綱 カギ目 Ostrea denselamellosa	—	EN
○	シオフキ	バカガイ科	軟体動物門	二枚貝綱 マルスダレガイ目 Mactra venariformis	—	—
○	ヤチヨノハナガイ	バカガイ科	軟体動物門	二枚貝綱 マルスダレガイ目 Raeta pellicula	—	EN
○	イソジミ	シオサザナミガイ科	軟体動物門	二枚貝綱 マルスダレガイ目 Nuttallia japonica	—	—
○	アシバマス	シオサザナミガイ科	軟体動物門	二枚貝綱 マルスダレガイ目 Soletellina petalina	—	DD
○	ウミタケ	ツクエガイ科	軟体動物門	二枚貝綱 オオノガイ目 Barnea dilatata	—	VU

ランク	和名	科名	上位分類群			学名	改訂前カテゴリー	国カテゴリー
情報不足(DD)(つづき)								
○	ヒメヤマトカワゴカイ	ゴカイ科	環形動物門	多毛綱	サシバゴカイ目	Hediste atoka	—	—
○	ヤマトカワゴカイ	ゴカイ科	環形動物門	多毛綱	サシバゴカイ目	Hediste diadroma	—	—
○	ハナオオカギゴカイ	カギゴカイ科	環形動物門	多毛綱	サシバゴカイ目	Siganbra hanaokai	—	—
○	ナガウロコムシ	ウロコムシ科	環形動物門	多毛綱	サシバゴカイ目	Lepidasteria izukai	—	—
○	カサネシリス	シリスコ	環形動物門	多毛綱	サシバゴカイ目	Amblyosyllis speciosa	—	—
○	ドロオニスピオ	スピオ科	環形動物門	多毛綱	スピオ目	Pseudopolydra kempfi	—	—
○	イソタマシキゴカイ	タマシキゴカイ科	環形動物門	多毛綱	イトゴカイ目	Abarenicola pacifica	—	—
○	クロイサザアミ	アミ科	節足動物門	軟甲綱	アミ目	Neomysis awatschensis	—	—
○	ニホンイサザアミ	アミ科	節足動物門	軟甲綱	アミ目	Neomysis japonica	—	—
○	ヒゲナガヨコエビ属の一種	ヒゲナガヨコエビ科	節足動物門	軟甲綱	端脚目	Amphithoe tarasovi	—	—
○	タイリクドロクダムシ	ドロクダムシ科	節足動物門	軟甲綱	端脚目	Sinocorophium sinensis	—	—
○	ウエノドロクダムシ	ドロクダムシ科	節足動物門	軟甲綱	端脚目	Morocorophium uenoi	—	—
○	フトヒゲカマキリヨコエビ	カマキリヨコエビ科	節足動物門	軟甲綱	端脚目	Jassa slatteryi	—	—
○	コウベウミナナフシ	ウミナナフシ科	節足動物門	軟甲綱	等脚目	Paranthura kobensis	—	—
○	トンダガワイソツブムシ	ソツブムシ科	節足動物門	軟甲綱	等脚目	Gnoringosphaeroma tondaense	—	—
○	ナナツバソツブムシ	ソツブムシ科	節足動物門	軟甲綱	等脚目	Sphaeroma sieboldii	—	—
○	シラタエビ	テナガエビ科	節足動物門	軟甲綱	十脚目	Exopalaemon orientis	—	—
○	ナルトアナジャコ	アナジャコ科	節足動物門	軟甲綱	十脚目	Upogebia narutensis	—	—
○	スカシカシバン	スカシカシバン科	棘皮動物門	ウニ綱	タコノマクラ目	Astriclypeus manni	—	—

【凡例】↑:アップリスト種 ↓:ダウンリスト種 ○:新規掲載された種 ◇:DD及び要注目から変更された種 ◆:DDへ変更された種

その他淡水産無脊椎動物

淡水域には多様な分類群が生息するが、特に無脊椎動物は分布や個体群に関する情報のみならず、基本的な生態や分類の研究さえ進んでいないものが多い。このような背景から、全国的に見てもこれらの絶滅危惧評価は遅れており、2000年の大阪府レッドデータブックでも選定は見送られていた。

今回のリスト改訂にあたり、近年大阪府域で網羅的な分布調査が行われた淡水渦虫類と大型鯀脚類について選定作業を行うことにした。淡水渦虫類は大阪府で少なくとも4種、大型鯀脚類は7種が記録されている。これらについて府内での分布状況や依存する生息環境等から絶滅危惧評価を行い、最終的に合計4種をリストとして選定した。

その結果、絶滅危惧I類が淡水渦虫類で1種、大型鯀脚類で2種となった。

ランク	和名	科名	上位分類群			学名	改訂前カテゴリー	国カテゴリー
絶滅(EX)								
該当なし								
絶滅危惧 I 類(OR+EN)								
○	ミヤマズムシ	ヒラタズムシ科	扁形動物門	渦虫綱	三岐腸目	Phagocata vivida	—	—
○	タマカイエビ	タマカイエビ科	節足動物門	鯀脚綱	カイエビ目	Lynceus biformis	—	—
○	カイエビ	カイエビ科	節足動物門	鯀脚綱	カイエビ目	Caenestheriella giftensis	—	—
絶滅危惧 II 類(VU)								
該当なし								
準絶滅危惧(NT)								
該当なし								
情報不足(DD)								
○	ヒメカイエビの一種	ヒメカイエビ科	節足動物門	鯀脚綱	カイエビ目	Eulimnadia sp.	—	—

【凡例】↑:アップリスト種 ↓:ダウンリスト種 ○:新規掲載された種 ◇:DD及び要注目から変更された種 ◆:DDへ変更された種

維管束植物

大阪府内で確認された維管束植物のうち、絶滅が86種、絶滅のおそれのある種の総数は247種（絶滅危惧Ⅰ類162種、絶滅危惧Ⅱ類85種）となった。今回の改訂は近年作成された大阪各地の植物目録や調査結果に基づき、大阪市立自然史博物館等の標本を元に確認をしつつ、一部を現地調査で補ってすすめた。

学名は「植物和名一学名インデックス YList」（米倉2011）に従い、科名および配列は新Englerシステムに従った。

ランク	和名	科名	上位分類群	学名	改訂前カテゴリー	国カテゴリー	備考(異名)
絶滅 (EX)							
	スギラン	ヒカゲノカズラ科	シダ植物門:ヒカゲノカズラ綱	<i>Huperzia cryptomerina</i>	EX	VU	
	タキミシダ	シシラン科	シダ植物門:シダ綱	<i>Antrophyum obovatum</i>	EX	EN	
	オクタミシダ	チャセンシダ科	シダ植物門:シダ綱	<i>Asplenium pseudowilfordii</i>	EX	VU	
	ナンタイシダ	オシダ科	シダ植物門:シダ綱	<i>Athyrium umhra maximowiczii</i>	EX	—	
	ヒトツバシケンシダ	オシダ科	シダ植物門:シダ綱	<i>Deparia x lobatocrenata</i>	EX	—	
◇	オニイノデ	オシダ科	シダ植物門:シダ綱	<i>Polystichum rigens</i>	DD	VU	
	アカウキクサ	サンショウモ科	シダ植物門:シダ綱	<i>Azolla imbricata</i>	EX	EN	
↑	オオアカウキクサ	サンショウモ科	シダ植物門:シダ綱	<i>Azolla japonica</i>	VU	EN	
	イワシデ	カバノキ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Carpinus turczaninowii</i>	EX	—	
	ハシバミ	カバノキ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Corylus heterophylla</i> var. <i>thunbergii</i>	EX	—	
	ハルニレ	ニレ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Ulmus davidiana</i> var. <i>japonica</i>	EX	—	ニレ
	ヒメタデ	タデ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Panicaria erectominor</i>	EX	VU	
↑	マダイオウ	タデ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Rumex madaio</i>	CR+EN	—	
	オグラセンノウ	ナデシコ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Silene kiusiana</i>	EX	VU	
◇	コウライゼシ	キンボウゲ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Aconitum jaluense</i> subsp. <i>jaluense</i>	DD	GR	ミツバトリカブト
	エンコウソウ	キンボウゲ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Caltha palustris</i> var. <i>enkoso</i>	EX	—	リュウキンカ
↑	オトコゼリ	キンボウゲ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Ranunculus tachiroei</i>	CR+EN	—	
	オグラコウホネ	スイレン科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Niphar oguraensis</i>	EX	VU	
	タチスズシロソウ	アブラナ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Arabisopsis kanchatica</i> subsp. <i>kawesakiana</i>	EX	EN	
↑	ヤグルマソウ	ユキノシタ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Rodgersia podophylla</i>	NT	—	
	カワラサイコ	バラ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Potentilla chinensis</i>	EX	—	
	ツチグリ	バラ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Potentilla discolor</i>	EX	VU	
	ヒメハギ	マメ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Codariocalyx microphyllus</i>	EX	—	
	ハマボウ	アオイ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Hibiscus hamabo</i>	EX	—	
	ヒメシシ	ヒシ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Trapa incisa</i>	EX	VU	
	スマゼリ	ゼリ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Stemsuave</i> var. <i>nipponicum</i>	EX	VU	サワゼリ
	ハルリンドウ	リンドウ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Gentiana thunbergii</i> var. <i>thunbergii</i>	EX	—	
○	マメダオン	ヒルガオ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Cuscuta australis</i>	—	—	
◇	ハマネナシカズラ	ヒルガオ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Cuscuta chinensis</i>	DD	VU	
	スナビキソウ	ムラサキ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Heliotropium japonicum</i>	EX	—	
	ムラサキ	ムラサキ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Lithospermum erythrorhizon</i>	EX	EN	
	ヤマジソ	シソ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Mosla japonica</i>	EX	NT	
	ミズトラノオ	シソ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Pogostemon yatabeanus</i>	EX	VU	ムラサキミズトラノオ
	ナミキソウ	シソ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Scutellaria strigillosa</i>	EX	—	
	タチコメグサ	ゴマノハグサ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Euphrasia maximowiczii</i>	EX	—	
	ウンラン	ゴマノハグサ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Linaria japonica</i>	EX	—	
	スズメハコベ	ゴマノハグサ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Microcarpaea minima</i>	EX	VU	スズメノハコベ
	ハマクワガタ	ゴマノハグサ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Veronica javanica</i>	EX	VU	
	ホソバヒメトラノオ	ゴマノハグサ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Veronica linariifolia</i>	EX	EN	
	ヤマリトラノオ	ゴマノハグサ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Veronica ovata</i> subsp. <i>miyabei</i> var. <i>japonica</i>	EX	—	
	ハマウツボ	ハマウツボ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Orobanche coerulescens</i>	EX	VU	
	フサタヌキモ	タヌキモ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Utricularia dimorphantha</i>	EX	EN	
	マツムシソウ	マツムシソウ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Scabiosa japonica</i>	EX	—	
	カワラハハコ	キク科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Anaphalis margaritacea</i> subsp. <i>yedoensis</i>	EX	—	
	フクド	キク科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Artemisia fukudo</i>	EX	NT	ハマヨモギ
	ヒメシオン	キク科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Aster fastigiatus</i>	EX	—	
	モリアザミ	キク科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Cirsium dipsacolepis</i>	EX	—	ヤブアザミ
↑	アキノハハコグサ	キク科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Gnaphalium hypoleucum</i>	CR+EN	EN	
	カセンソウ	キク科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Inula salicina</i> var. <i>asiatica</i>	EX	—	
	ホソバニガナ	キク科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Ixeridium beauverdanum</i>	EX	EN	
	タカサゴソウ	キク科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Ixeris chinensis</i> subsp. <i>strigosa</i>	EX	VU	
	ネコノシタ	キク科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Melanthera prostrata</i>	EX	—	ハマグルマ

ランク	和名	科名	上位分類群	学名	改訂前カテゴリー	国カテゴリー	備考(異名)
絶滅(EX)(つづき)							
	ミヤコアザミ	キク科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Saussurea maximowiczii</i>	EX	—	
	ヒメヒゴタイ	キク科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Saussurea pulchella</i>	EX	VU	
	オナモミ	キク科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Xanthium strumarium</i>	EX	VU	
↑	セキシウモ	トチカガミ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Vallisneria spiralis</i>	CR+EN	—	
↑	カワツルモ	ヒルムシロ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Ruppia maritima</i>	CR+EN	NT	
↑	イトクズモ	イトクズモ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Zannichellia palustris</i>	CR+EN	VU	ミカツキイトモ
	ムサシモ	イバラモ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Najas ancistrocarpa</i>	EX	EN	マガリミサヤモ
	イバラモ	イバラモ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Najas marina</i>	EX	—	
◇	コキンバイザサ	キンバイザサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Hypoxis aurea</i>	DD	—	
	クロイヌヒゲ	ホシクサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Eriocaulon atrum</i>	EX	NT	クロイヌヒゲ
◇	ヤマトホシクサ	ホシクサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Eriocaulon japonicum</i>	DD	VU	
◇	ゴマシオホシクサ	ホシクサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Eriocaulon senile</i>	DD	EN	
	ミズタカモジグサ	イネ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Elymus humidus</i>	EX	—	ミズタカモジ
	ケカモノハシ	イネ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Ischaemum anthephoroides</i>	EX	—	
	タキキビ	イネ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Phaenospema globosum</i>	EX	—	
◇	ヒメシバ	イネ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Sporobolus japonicus</i>	DD	—	
	オニシバ	イネ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Zoysia macrostachya</i>	EX	—	
◇	ヤマジスゲ	カヤツリグサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Carex bostrychostigma</i>	要注目	—	
	アワボスゲ	カヤツリグサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Carex brownii</i>	EX	—	
	ヒメシロシガヤ	カヤツリグサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Carex laevissima</i>	EX	CR	
	カガシラ	カヤツリグサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Diplacrum caricinum</i>	EX	VU	
	ミスミイ	カヤツリグサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Eleocharis acutangula</i>	EX	EN	
	ヒメヌマリイ	カヤツリグサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Eleocharis kamtschatica</i>	EX	—	ヒメハリイ
	ピロウドテンツキ	カヤツリグサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Fimbristylis sericea</i>	EX	—	ピロウドテンツキ
	アゼテンツキ	カヤツリグサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Fimbristylis squarrosa</i>	EX	—	
	トネテンツキ	カヤツリグサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Fimbristylis stauntonii</i> var. <i>tonensis</i>	EX	VU	
	トラノハナヒゲ	カヤツリグサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Rhynchospora brownii</i>	EX	—	
○	ヒメカンガレイ	カヤツリグサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Schoenoplectus mucronatus</i> var. <i>mucronatus</i>	—	—	
	シズイ	カヤツリグサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Schoenoplectus nipponicus</i>	EX	—	テガヌマイ
	シンジュガヤ	カヤツリグサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Scleria levis</i>	EX	—	
	ケシンジュガヤ	カヤツリグサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Scleria rugosa</i>	EX	—	
	ムカゴソウ	ラン科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Hemium lanceum</i>	EX	EN	
	セイタカスズムシ	ラン科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Liparis japonica</i>	EX	—	セイタカスズムシ
	トンボソウ	ラン科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Platanthera ussuriensis</i>	EX	—	
絶滅危惧 I 類(CR+EN)							
	マツバラン	マツバラン科	シダ植物門:マツバラン綱	<i>Ptilotum nudum</i>	CR+EN	NT	
	ヤチスギラン	ヒカゲノカズラ科	シダ植物門:ヒカゲノカズラ綱	<i>Lycopodium inuxclatum</i>	CR+EN	—	
	ミズニラ	ミズニラ科	シダ植物門:ヒカゲノカズラ綱	<i>Isoetes japonica</i>	CR+EN	NT	
	アカハナワラビ	ハナヤスリ科	シダ植物門:シダ綱	<i>Botrychium nipponicum</i>	CR+EN	—	
	トネハナヤスリ	ハナヤスリ科	シダ植物門:シダ綱	<i>Ophioglossum namagatae</i>	CR+EN	VU	
	ハナハナヤスリ	ハナヤスリ科	シダ植物門:シダ綱	<i>Ophioglossum thermale</i> var. <i>thermale</i>	CR+EN	—	
	カラクシシダ	イノモトソウ科	シダ植物門:シダ綱	<i>Pleurosoriopsis makinoi</i>	CR+EN	—	
↓	ナチシダ	イノモトソウ科	シダ植物門:シダ綱	<i>Pteris wallichiana</i>	EX	—	
	イズヤブソテツ	オシダ科	シダ植物門:シダ綱	<i>Cyrtomium atropunctatum</i>	CR+EN	—	
○	メヤブソテツ	オシダ科	シダ植物門:シダ綱	<i>Cyrtomium carvotidum</i>	—	—	
	ミドリワラビ	オシダ科	シダ植物門:シダ綱	<i>Deparia viridifrons</i>	CR+EN	—	
↑	ツクシイワヘゴ	オシダ科	シダ植物門:シダ綱	<i>Dryopteris commixta</i>	VU	—	
○	ナガサキシダ	オシダ科	シダ植物門:シダ綱	<i>Dryopteris sieboldii</i>	—	—	
	タニヘゴ	オシダ科	シダ植物門:シダ綱	<i>Dryopteris tolyoensis</i>	CR+EN	—	
	ウラボシカ	ウラボシ科	シダ植物門:シダ綱	<i>Pyrosia hastata</i>	CR+EN	—	
	デンジソウ	デンジソウ科	シダ植物門:シダ綱	<i>Marsilea quadrifolia</i>	CR+EN	VU	
	サンショウモ	サンショウモ科	シダ植物門:シダ綱	<i>Salvinia natans</i>	CR+EN	VU	
↓	エゾエノキ	ニレ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Celtis jessoensis</i>	EX	—	カンサイエノキ
	ケグワ	クワ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Morus cathayana</i>	CR+EN	—	
	サイコスカボ	タデ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Persicaria foliosa</i> var. <i>nikaii</i>	CR+EN	VU	
	ヤナギヌカボ	タデ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Persicaria foliosa</i> var. <i>pahucicola</i>	CR+EN	VU	
○	ワチガイソウ	ナデシコ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Pseudostellaria heterantha</i>	—	—	
	ハママツナ	アカザ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Suaeda maritima</i>	CR+EN	—	
	フクジュソウ	キンポウゲ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Adonis ramosa</i>	CR+EN	—	
◇	アズマイチゲ	キンポウゲ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Anemonoides raddeana</i>	DD	—	

ランク	和名	科名	上位分類群	学名	改訂前カテゴリー	国カテゴリー	備考(異名)
絶滅危惧 I 類 (CR+EN) (つづき)							
	カザグルマ	キンボウゲ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Clematis patens</i>	CR+EN	NT	
	サイコクサバノオ	キンボウゲ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Dichocarpum uni-valve</i>	CR+EN	—	
	セツブンソウ	キンボウゲ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Eranthis pinnatifida</i>	CR+EN	NT	
	ミスミソウ	キンボウゲ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Hepatica nobilis</i> var. <i>japonica</i>	CR+EN	NT	
	オキナグサ	キンボウゲ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Pulsatilla cernua</i>	CR+EN	VU	
	ヒキノカサ	キンボウゲ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Ranunculus ternatus</i>	CR+EN	VU	
◇	シギンカラマツ	キンボウゲ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Thalictrum actaeifolium</i>	DD	—	
↓	ノカラマツ	キンボウゲ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Thalictrum simplex</i> var. <i>brevipes</i>	EX	VU	
	イカリソウ	メギ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Epimedium grandiflorum</i>	CR+EN	—	
	ヒメカンアオイ	ウマノスズクサ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Asarum fauriei</i> var. <i>talxoi</i>	CR+EN	—	
	ヤマシャクヤク	ボタン科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Paeonia japonica</i>	CR+EN	NT	
↓	ベニバナヤマシャクヤク	ボタン科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Paeonia obovata</i>	EX	VU	
	トモエソウ	オトギリソウ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Hypericum ascyron</i> subsp. <i>ascyron</i> var. <i>ascyron</i>	CR+EN	—	
↓	アゼオトギリ	オトギリソウ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Hypericum oliganthum</i>	EX	EN	
	ヤマブキソウ	ケシ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Hylomecon japonica</i>	CR+EN	—	
	ミソバコンロンソウ	アブラナ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Cardamine anemnioides</i>	CR+EN	—	
	アオベンケイ	ベンケイソウ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Sedum viride</i>	CR+EN	—	
↓	アズマツメクサ	ベンケイソウ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Tillaea aquatica</i>	EX	NT	
	モモ	バラ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Amygdalus persica</i>	CR+EN	—	
	コバナノワレモコウ	バラ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Sanguisorba tenuifolia</i> var. <i>parviflora</i>	CR+EN	—	
◇	モモンヅル	マメ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Astragalus reflexistipulus</i>	DD	—	
	シバハギ	マメ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Desmodium heterocarpon</i>	CR+EN	—	
	イヌハギ	マメ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Lespedeza tomentosa</i>	CR+EN	VU	
↑	マキエハギ	マメ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Lespedeza virgata</i>	VU	—	
↑	ヨツバハギ	マメ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Vicia nipponica</i>	VU	—	
	ハマビシ	ハマビシ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Tribulus terrestris</i>	CR+EN	EN	
↑	タカトウダイ	トウダイグサ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Euphorbia lasiocaula</i>	VU	—	
	ヒメハギ科	ヒメハギ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Salomonina ciliata</i>	CR+EN	—	
	アカネスミレ	スミレ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Viola phalacrocarpa</i>	CR+EN	—	
	アケボノスミレ	スミレ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Viola rossii</i>	CR+EN	—	
	オグルノフサモ	アリトウグサ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Myriophyllum oguraense</i>	CR+EN	VU	
	タチモ	アリトウグサ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Myriophyllum ussuriense</i>	CR+EN	NT	
◇	フサモ	アリトウグサ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Myriophyllum verticillatum</i>	DD	—	
↑	ヒメダケ	セリ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Angelica cartilaginos-marginata</i> var. <i>cartilaginos-marginata</i>	VU	—	
	ミシマサイコ	セリ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Eupleurum stenophyllum</i>	CR+EN	VU	
	ハマボウフウ	セリ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Glehnia littoralis</i>	CR+EN	—	
	イブキボウフウ	セリ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Libanotis ugoensis</i> var. <i>japonica</i>	CR+EN	—	
	カワラボウフウ	セリ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Peucedanum terebinthaceum</i>	VU	—	ヤマニンジン シラクワボウフウ
	マルバノイチヤクソウ	イチヤクソウ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Pyrola nephrophylla</i>	CR+EN	—	マルバノイチヤクソウ
○	サワトランノオ	サクラソウ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Lysimachia leucantha</i>	—	—	
	クサレダマ	サクラソウ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Lysimachia vulgaris</i> subsp. <i>daurica</i>	CR+EN	—	イオウソウ
	クリソウ	サクラソウ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Primula japonica</i>	CR+EN	—	
	ハマサジ	イソマツ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Limnium tetragonum</i>	CR+EN	NT	
↑	クロミノシゴリ	ハイノキ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Symplocos paniculata</i>	VU	—	
↓	アイナエ	マチン科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Mitrasacme pygmaea</i>	EX	—	
	コケリンドウ	リンドウ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Gentiana squarrosa</i>	CR+EN	—	
○	ムラサキセンブリ	リンドウ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Swertia pseudochinensis</i>	—	—	
↑	ガガブタ	ミツガシワ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Nymphoides indica</i>	VU	NT	
	チョウジソウ	キョウチクトウ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Amsonia elliptica</i>	CR+EN	NT	
	フナバラソウ	ガガイモ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Vincetoxicum atratum</i>	CR+EN	VU	
↑	ナガバジュズネノキ	アカネ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Dammacanthus macrophyllus</i> f. <i>giganteus</i>	NT	—	
↑	タニジャコウソウ	シソ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Chelonopsis longipes</i>	NT	NT	
	キセウタ	シソ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Leonurus macranthus</i>	CR+EN	VU	
	ゴマクサ	ゴマノハグサ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Centranthera cochinchinensis</i> subsp. <i>lutea</i>	CR+EN	VU	
↓	オオアブノメ	ゴマノハグサ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Gratiola japonica</i>	EX	VU	
↓	シソクサ	ゴマノハグサ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Limnophila chinensis</i> subsp. <i>aromatica</i>	EX	—	
	シオガマギク	ゴマノハグサ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Pedicularis resupinata</i>	CR+EN	—	
↓	ゴマノハグサ	ゴマノハグサ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Scrophularia buergeriana</i>	EX	VU	
	ヒキヨモギ	ゴマノハグサ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Siphonostegia chinensis</i>	CR+EN	—	
	タヌキモ	タヌキモ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Utricularia japonica</i>	CR+EN	NT	

ランク	和名	科名	上位分類群	学名	改訂前カテゴリー	国カテゴリー	備考(異名)
絶滅危惧 I 類 (CR+EN) (つづき)							
	ヒメタヌキモ	タヌキモ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Utricularia minor</i>	CR+EN	NT	
	ムラサキミカキグサ	タヌキモ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Utricularia uliginosa</i>	CR+EN	NT	
◇	ヤマヒョウタンボク	スイカズラ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Lonicera mochizukiana</i> var. <i>nomurana</i>	DD	—	
↑	キンキヒョウタンボク	スイカズラ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Lonicera ramosissima</i> var. <i>kinikiensis</i>	NT	EN	
↑	カノコソウ	オミナエシ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Valeriana fauriei</i>	VU	—	
↑	ツルギキョウ	キキョウ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Codonopsis javarica</i> subsp. <i>japonica</i>	NT	VU	
	ノコギリソウ	キク科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Achillea sibirica</i>	CR+EN	—	ハゴロモソウ
↑	サウシロギク	キク科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Aster rugulosus</i>	VU	—	
	フジバカマ	キク科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Eupatorium japonicum</i>	CR+EN	NT	
	オグルマ	キク科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Inula britannica</i> subsp. <i>japonica</i>	CR+EN	—	
○	ニシノヤマタインミガサ	キク科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Parasenecio yatabei</i> var. <i>occidentalis</i>	—	—	
	ククアザミ	キク科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Saussurea ussuriensis</i>	CR+EN	—	
◇	ハバヤマボクチ	キク科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Symurus excelsus</i>	DD	—	
	マルバオモダカ	オモダカ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Caldesia parnassifolia</i>	CR+EN	VU	
	アギナシ	オモダカ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Sagittaria agirashi</i>	CR+EN	NT	
	マルミスツタ	トチカガミ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Blyxa aubertii</i>	CR+EN	VU	オオスツタ
	スツタ	トチカガミ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Blyxa echinosperma</i>	CR+EN	VU	ナガバスツタ, コスツタ
↑	ヤナギスツタ	トチカガミ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Blyxa japonica</i>	VU	—	
	トチカガミ	トチカガミ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Hydrocharis dubia</i>	CR+EN	NT	
	イトモ	ヒルムシロ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Potamogeton berchtoldii</i>	CR+EN	NT	イトヤナギモ
	コバヒルムシロ	ヒルムシロ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Potamogeton cristatus</i>	CR+EN	VU	
	サガミドリゲモ	イバラモ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Najas chinensis</i>	CR+EN	VU	ヒロハトリゲモ
	オオトリゲモ	イバラモ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Najas oguraensis</i>	CR+EN	—	
↓	ヒロハアマナ	ユリ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Amana erythronioides</i>	EX	VU	ヒロハアマナ
	キバナチゴユリ	ユリ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Disporum lutescens</i>	CR+EN	—	
	ユウスゲ	ユリ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Hemerocallis citrina</i> var. <i>vespertina</i>	CR+EN	—	キスゲ
	ヒメユリ	ユリ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Lilium concolor</i>	CR+EN	EN	
	ヤマホトギス	ユリ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Tricyrtis macropoda</i>	CR+EN	—	
○	ミヤマエンレイソウ	ユリ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Thillium tschonoskii</i>	—	—	
	ミズアオイ	ミズアオイ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Morchorhia korsakowii</i>	CR+EN	NT	
	ヒオウギ	アヤメ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Iris domestica</i>	CR+EN	—	
↑	ノハナショウブ	アヤメ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Iris ensata</i> var. <i>spontanea</i>	VU	—	
	ホシクサ	ホシクサ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Eriocaulon sieboldianum</i>	CR+EN	—	
	ヒメコメカグサ	イネ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Agrostis valvata</i>	CR+EN	NT	
	ヒナザサ	イネ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Coelachne japonica</i>	CR+EN	NT	
	コメカゼクサ	イネ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Eragrostis japonica</i>	CR+EN	—	
	ナガミノニシバ	イネ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Zoysia sinica</i> var. <i>nipponica</i>	CR+EN	—	
○	ナンゴクウラシマソウ	サトイモ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Arisaema thunbergii</i> subsp. <i>thunbergii</i>	—	—	
	ミクリ	ミクリ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Sparganium erectum</i>	CR+EN	NT	
	オオミクリ	ミクリ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Sparganium erectum</i> var. <i>macrocarpum</i>	CR+EN	VU	アズマミクリ
	ヒメミクリ	ミクリ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Sparganium subglobosum</i>	CR+EN	VU	
	イセウキヤガラ	カヤツリグサ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Bolboschoenus planiculmis</i>	CR+EN	—	
	ワンドスゲ	カヤツリグサ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Carex argyi</i>	CR+EN	VU	
	ウマスゲ	カヤツリグサ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Carex idzuroei</i>	CR+EN	—	
○	サトヤマハリスゲ	カヤツリグサ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Carex ruralis</i>	—	—	
	イヌクログワイ	カヤツリグサ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Eleocharis dulcis</i>	CR+EN	—	シログワイ
↓	スマハライ	カヤツリグサ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Eleocharis mamillata</i> var. <i>cyclocarpa</i>	EX	—	オオスマハライ
	アンペライ	カヤツリグサ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Meibomia rubiginosa</i> var. <i>nipponensis</i>	CR+EN	—	ネビキグサ
↓	ミカヅキグサ	カヤツリグサ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Rhynchospora alba</i>	EX	—	ミカヅキグサ
	オオイヌハナヒゲ	カヤツリグサ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Rhynchospora fauriei</i>	CR+EN	—	
	イガクサ	カヤツリグサ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Rhynchospora rubra</i>	CR+EN	—	
↑	ノグサ	カヤツリグサ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Schoenus apogon</i>	VU	—	
	ミカワシラジユガヤ	カヤツリグサ科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Scleria mikawana</i>	CR+EN	VU	
	ヒナラン	ラン科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Aristostigma gracile</i>	CR+EN	EN	
	シラン	ラン科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Hetilla striata</i>	CR+EN	NT	
	マメヅタラン	ラン科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Bulbophyllum drymoglossum</i>	CR+EN	NT	マメヅタラン
	ムギラン	ラン科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Bulbophyllum inconspicuum</i>	CR+EN	NT	
	ミヤマムギラン	ラン科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Bulbophyllum japonicum</i>	CR+EN	NT	
	クマガイソウ	ラン科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Cypripedium japonicum</i>	CR+EN	VU	
	セッコク	ラン科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Dendrobium moriliforme</i>	CR+EN	—	

ランク	和名	科名	上位分類群	学名	改訂前カテゴリー	国カテゴリー	備考(異名)
絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)(つづき)							
	ベニシュスラン	ラン科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Goodyera biflora</i>	CR+EN	—	
	ツリシュスラン	ラン科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Goodyera pendula</i>	CR+EN	—	
↑	ミズトンボ	ラン科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Habenaria sagittifera</i>	VU	VU	
	ジガバチソウ	ラン科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Liparis krameri</i>	CR+EN	—	
	アオフタバラン	ラン科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Listera makinoana</i>	CR+EN	—	
	フウラン	ラン科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Neofinetia falcata</i>	CR+EN	VU	
○	ムカゴサイシン	ラン科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Nervilia nipponica</i>	—	—	
	ヨウラクラン	ラン科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Oberonia japonica</i>	CR+EN	—	
	ムカゴトンボ	ラン科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Peristylus flagellifer</i>	CR+EN	EN	
	ツレサギソウ	ラン科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Platanthera japonica</i>	CR+EN	—	
○	ヤマサギソウ	ラン科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Platanthera mandarinorum</i> subsp. <i>mandarinorum</i> var. <i>oreades</i>	—	—	
	オオヤマサギソウ	ラン科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Platanthera sachalinensis</i>	CR+EN	—	
	コバノトンボソウ	ラン科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Platanthera tipuloides</i> subsp. <i>nipponica</i>	CR+EN	—	
	トキソウ	ラン科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Pogonia japonica</i>	CR+EN	NT	
	ヤマトキシソウ	ラン科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Pogonia minor</i>	CR+EN	—	
	ウチョウラン	ラン科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Ponerorchis graminifolia</i>	CR+EN	VU	
	クモラン	ラン科	被子植物門: 単子葉植物綱	<i>Taeniophyllum glandulosum</i>	CR+EN	—	
絶滅危惧Ⅱ類(VU)							
	ヒロハハナヤスリ	ハナヤスリ科	シダ植物門: シダ綱	<i>Ophioglossum vulgatum</i>	VU	—	オオハナヤスリ
	ホウビシダ	チャセンシダ科	シダ植物門: シダ綱	<i>Hymenasplenium hondoense</i>	VU	—	
○	ハコネシケチシダ	オンシダ科	シダ植物門: シダ綱	<i>Cornopteris christenseniana</i>	—	—	
	ツクシヤブソテツ	オンシダ科	シダ植物門: シダ綱	<i>Cyrtomium macrophyllum</i> var. <i>tukusicola</i>	VU	—	
○	ニシノオオアカウキクサ	アカウキクサ科	シダ植物門: シダ綱	<i>Azolla filiculoides</i>	—	—	
◇	ミヤコミズ	イラクサ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Pilea kiotensis</i>	要注目	—	
	ホソバイヌタデ	タデ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Persicaria erectominor</i> var. <i>trigonocarpa</i>	VU	NT	
	ヌカボタデ	タデ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Persicaria taquetii</i>	VU	VU	コヌカボタデ
↑	ナガバノウナギツカミ	タデ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Polygonum hastatosagittatum</i>	NT	NT	
	カワチブシ	キンボウゲ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Aconitum grossedentatum</i>	VU	—	
◇	シロバナハンショウヅル	キンボウゲ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Clematis williamsii</i>	要注目	—	
	キバナイカリソウ	メギ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Epimedium koreanum</i>	VU	—	ニッコウイカリソウ
	ルイヨウボタン	メギ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Leonice robusta</i>	VU	—	
	オニバス	スイレネ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Euryale ferox</i>	VU	VU	
↑	コウホネ	スイレネ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Nuphar japonica</i>	NT	—	カワホネ
	イシモチソウ	モウセンゴケ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Drosera peltata</i> var. <i>nipponica</i>	VU	NT	
	カワチスズシロソウ	アブラナ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Arabis flagellosa</i> var. <i>kawachiensis</i>	VU	VU	
◇	ミズタガラシ	アブラナ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Cardamine lyrata</i>	DD	—	
↑	ギンバイソウ	ユキノシタ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Deinanthus bifida</i>	NT	—	
◇	ユメバチソウ	ユキノシタ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Parnassia palustris</i> var. <i>palustris</i>	要注目	—	
	ユキヤナギ	バラ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Spiraea thunbergii</i>	VU	—	コゴメバナ
↑	フジキ	マメ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Cladrastis platycarpa</i>	NT	—	
	タヌキマメ	マメ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Crotalaria sessiliflora</i>	VU	—	
↑	ミヤマトベラ	マメ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Euchresta japonica</i>	NT	—	
↑	イタチササゲ	マメ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Lathyrus davidii</i>	NT	—	
	ツルフジバカマ	マメ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Vicia amoena</i>	VU	—	
	オオバクサフジ	マメ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Vicia pseudo-orobus</i>	VU	—	
	ノウルシ	トウダイグサ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Euphorbia adenochlora</i>	VU	NT	
◇	カキノハグサ	ヒメハギ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Polygala reinii</i>	要注目	—	
	コウヤグミ	グミ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Elaeagnus numajiriana</i>	VU	—	
↑	カツラギグミ	グミ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Elaeagnus takeshitae</i>	NT	EN	
◇	ヒゴスミレ	スミレ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Viola chaerophylloides</i> var. <i>sieboldiana</i>	要注目	—	
○	オカスミレ	スミレ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Viola phalacrocarpa</i> var. <i>glaberrima</i>	—	—	アカネスミレの変種
	ドクゼリ	セリ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Cicuta virosa</i>	VU	—	
	イヌセンブリ	リンドウ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Swertia tosaensis</i>	VU	VU	
◇	タチカモメヅル	ガガイモ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Vincetoxicum glabrum</i>	要注目	—	クロバナカモメヅル
	スズサイコ	ガガイモ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Vincetoxicum pycnostelma</i>	VU	NT	
	コバナカモメヅル	ガガイモ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Vincetoxicum subanceolatum</i> var. <i>subanceolatum</i>	VU	—	
	オオキヌタソウ	アカネ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Rubia chinensis</i> f. <i>mitis</i>	VU	—	
	コムラサキ	クマツヅラ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Callicarpa dichotoma</i>	VU	—	
	ハマゴウ	クマツヅラ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Vitex rotundifolia</i>	VU	—	
↑	オウギカズラ	シソ科	被子植物門: 双子葉植物綱	<i>Ajuga japonica</i>	NT	—	

ランク	和名	科名	上位分類群	学名	改訂前カテゴリー	国カテゴリー	備考(異名)
絶滅危惧Ⅱ類(VU)(つづき)							
	ジュウニヒトエ	シソ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Ajuga nipponensis</i>	VU	—	
	ナツタムラソウ	シソ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Salvia lutescens</i> var. <i>intermedia</i>	VU	—	
↑	ヒメナミキ	シソ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Scutellaria dependens</i>	NT	—	
◇	ヤマタツナミソウ	シソ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Scutellaria pekinensis</i> var. <i>transitra</i>	DD	—	
↑	ヤマホオズキ	ナス科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Physalis chamesarachoides</i>	NT	EN	
◇	ハシリドコロ	ナス科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Scopolia japonica</i>	要注目	—	
	オオマルバノホロシ	ナス科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Solanum megacarpum</i>	VU	—	
↑	クワガタソウ	ゴマノハグサ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Veronica miqueliana</i>	NT	—	
↑	ウスバヒヨウタンボク	スイカズラ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Lonicera cerasina</i>	NT	VU	
↑	レンブクソウ	レンブクソウ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Adoxa moschatellina</i>	NT	—	
↑	キキョウ	キキョウ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Platycodon grandiflorus</i>	NT	VU	
○	オケラ	キク科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Atractylodes japonica</i>	—	—	
○	ヤマジノギク	キク科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Heteropappus hispidus</i>	—	—	
	ハンカイソウ	キク科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Ligularia japonica</i>	VU	—	
○	ミヤマモリソウ	キク科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Parasenecio farfaraefolius</i> var. <i>acerinus</i>	—	—	
↓	イトリゲモ	イバラモ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Najas gracillima</i>	CR+EN	NT	
↑	ホンゴウソウ	ホンゴウソウ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Sciaphila nana</i>	NT	VU	
↓	ノカンソウ	ユリ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Hemerocallis fulva</i> var. <i>disticha</i>	CR+EN	—	
	ミズギボウシ	ユリ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Hosta longissima</i>	VU	—	ナガノミズギボウシ、サジギボウシ
	ホソバシロソウ	ユリ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Veratrum maackii</i> var. <i>maackii</i>	VU	—	
↑	ヒナノジャクジョウ	ヒナノジャクジョウ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Burmannia championii</i>	NT	—	
	ヌマカゼクサ	イネ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Eragrostis aquaticus</i>	VU	—	
	ウンヌケモドキ	イネ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Eulalia quadrinervis</i>	VU	NT	コカリヤス
	ミソホロ	イネ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Koeleria macrantha</i>	VU	—	
	スズメノコビエ	イネ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Paspalum scrobiculatum</i> var. <i>orbiculare</i>	VU	—	
○	ウシクサ	イネ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Schizachyrium brevifolium</i>	—	—	
	ヤマトミクリ	ミクリ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Sparganium fallax</i>	VU	NT	
	ナガエミクリ	ミクリ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Sparganium japonicum</i>	VU	NT	
↑	ミヤマジュズスゲ	カヤツリグサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Carex dissitiflora</i>	NT	—	
◇	ゲンカイモエギスゲ	カヤツリグサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Carex genkaiensis</i>	DD	EN	
	コウボウムギ	カヤツリグサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Carex lobomugi</i>	VU	—	フデクサ
◇	サツスゲ	カヤツリグサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Carex ligulata</i>	要注目	—	
	ヒトモトススキ	カヤツリグサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Cladium jamaicense</i> subsp. <i>chinense</i>	VU	—	シシキリガヤ
↑	セイタイハリイ	カヤツリグサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Eleocharis attenuata</i>	NT	—	
	フイ	カヤツリグサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Schoenoplectus tabernaemontani</i>	VU	—	
↓	マツカサスキ	カヤツリグサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Scirpus mitsukurianus</i>	VU	—	
↑	コシンジュガヤ	カヤツリグサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Scleria parvula</i>	NT	—	
◇	ギンラン	ラン科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Cephalanthera erecta</i>	要注目	—	
◇	キンラン	ラン科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Cephalanthera falcata</i>	要注目	VU	
↑	マヤラン	ラン科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Cymbidium macrorhizon</i>	NT	VU	
↑	マツラン	ラン科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Gastrochilus matsuran</i>	NT	VU	ベニカヤラン
	サギソウ	ラン科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Pecteilis radiata</i>	VU	NT	
↑	ヒトツボクロ	ラン科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Tipularia japonica</i>	NT	—	
準絶滅危惧(NT)							
↓	ヒメズワラビ	ミズワラビ科	シダ植物門:シダ綱	<i>Ceratopteris gaudichaudii</i> var. <i>vulgaris</i>	VU	—	
	アオネカズラ	ウラボシ科	シダ植物門:シダ綱	<i>Polypodium niponicum</i>	NT	—	
◇	バッコヤナギ	ヤナギ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Salix caprea</i>	要注目	—	ヤマネコヤナギ
◇	アサダ	カバノキ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Ostrya japonica</i>	要注目	—	
◇	カシワ	ブナ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Quercus dentata</i>	要注目	—	
	オヒョウ	ニレ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Ulmus laciniata</i>	NT	—	アツシ
◇	キミズ	イラクサ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Pellionia scabra</i>	要注目	—	
↓	ホソバイラクサ	イラクサ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Urtica angustifolia</i> var. <i>angustifolia</i>	VU	—	
	サデクサ	タデ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Persicaria maackiana</i>	NT	—	
◇	コギシギシ	タデ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Rumex dentatus</i> subsp. <i>klotzschianus</i>	DD	VU	
	ホソバハマアカザ	アカザ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Atriplex patens</i>	NT	—	
	ヤナギイノツチ	ヒユ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Achyranthes longifolia</i>	NT	—	
	ユキワリイチゲ	キンポウゲ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Anemone leiskeana</i>	NT	—	ルリイチゲ
	タカネハンショウヅル	キンポウゲ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Clematis lasiantha</i>	NT	—	
	メギ	メギ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Berberis thunbergii</i>	NT	—	
○	ヒツジグサ	スイレン科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Nymphaea tetragona</i>	—	—	

ランク	和名	科名	上位分類群	学名	改訂前カテゴリー	国カテゴリー	備考(異名)
準絶滅危惧(NT)(つづき)							
	ハンゲショウ	ドクダミ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Saururus chinensis</i>	NT	—	カタンログサ
	ミズオトギリ	オトギリソウ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Triadenum japonicum</i>	NT	—	
	モウセンゴケ	モウセンゴケ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Drosera rotundifolia</i>	NT	—	
	コモウセンゴケ	モウセンゴケ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Drosera spatulata</i>	NT	—	
◇	コイヌガラシ	アブラナ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Rorippa cantoniensis</i>	DD	NT	
	ツメレンゲ	ベンケイソウ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Orostachys japonica</i>	NT	NT	
	コガネノコノメソウ	ユキノシタ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Chrysosplenium pilosum</i> var. <i>sphaerospermum</i>	NT	—	
	タコノアシ	ユキノシタ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Penthorum chinense</i>	NT	NT	
	バクチノキ	バラ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Laurocerasus zippeliana</i>	NT	—	
↓	カワラケツメイ	マメ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Chamaecrista nomame</i>	VU	—	
◇	ハマエンドウ	マメ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Lathyrus japonicus</i>	要注目	—	
◇	シソオアシ	マメ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Ohwia caudata</i>	要注目	—	ウジコロシ
◇	コフウロ	フウロソウ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Geranium tripartitum</i>	要注目	—	
	ミツデカエデ	カエデ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Acer cissifolium</i>	NT	—	
	ツゲ	ツゲ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Buxus microphylla</i> var. <i>japonica</i>	NT	—	アサマツゲ
	コシヨブノキ	ジンチョウゲ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Daphne kiusiana</i>	NT	—	
◇	クスドイゲ	イイギリ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Xylosma congesta</i>	要注目	—	
	エイザンスミレ	スミレ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Viola eizanensis</i>	NT	—	エゾスミレ
	ヒナスミレ	スミレ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Viola tokubuchiana</i> var. <i>talcedana</i>	NT	—	アラゲスミレ
◇	ヒメシロハギ	ミノハギ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Annamaria multiflora</i>	要注目	—	
	ミズマツバ	ミノハギ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Rotala mexicana</i>	NT	VU	
◇	ヤマトグサ	ヤマトグサ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Theligonum japonicum</i>	要注目	—	
	ケヤマウコギ	ウコギ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Eleutherococcus divaricatus</i>	NT	—	オニウコギ
	ムカゴニンジン	セリ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Stummins</i>	NT	—	
	カノツメソウ	セリ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Spuriopimpinella calycina</i>	NT	—	ダケゼリ
○	ウメガサソウ	イチヤクソウ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Chimaphila japonica</i>	—	—	
○	シャクジョウソウ	イチヤクソウ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Monotropa hypopithys</i>	—	—	
	トクワガキ	カキノキ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Diospyros morrisiana</i>	NT	—	
	アサガラ	エゴノキ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Pterostyrax corymbosa</i>	NT	—	
	ミヤマイボタ	モクセイ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Ligustrum tschonoskii</i>	NT	—	
	サカキカズラ	キョウチクトウ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Anodendron affine</i>	NT	—	
	クヌタソウ	アカネ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Galium kinuta</i>	NT	—	
	ミヤマムグラ	アカネ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Galium paradoxum</i> subsp. <i>franchetianum</i>	NT	—	
	イナモリソウ	アカネ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Pseudopyxis depressa</i>	NT	—	
	ヒロハヒルガオ	ヒルガオ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Calystegia sepium</i> subsp. <i>spectabilis</i>	NT	—	
	サワリソウ	ムラサキ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Ancistrocarya japonica</i>	NT	—	
○	カワミドリ	シソ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Agastache rugosa</i>	—	—	
	ヤマジョウ	シソ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Lamium humile</i>	NT	—	
◇	シソウジュ	シソ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Salvia plebeia</i>	要注目	NT	ユキミソウ
	ミヤマナミキ	シソ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Scutellaria shikokiana</i>	NT	—	
	オオヒナノウスツボ	ゴマノハグサ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Scrophularia kakudensis</i>	NT	—	
	オオヒキヨモギ	ゴマノハグサ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Siphonostegia laeta</i>	NT	VU	
◇	カワヂシャ	ゴマノハグサ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Veronica undulata</i>	要注目	NT	カワジシャ
	キヨスミウツボ	ハマウツボ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Phacellanthus tubiflorus</i>	NT	—	
◇	イヌタヌキモ	タヌキモ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Utricularia australis</i>	要注目	NT	
○	オミナエシ	オミナエシ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Patrinia scabiosifolia</i>	—	—	
	サワギキョウ	キキョウ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Lobelia sessilifolia</i>	NT	—	
◇	ウラギク	キク科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Aster tripolium</i>	要注目	NT	ハマシオン
○	スイラン	キク科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Hololeion krameri</i>	—	—	
○	オカオグルマ	キク科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Taphroses integrifolia</i> subsp. <i>kirilowii</i>	—	—	
	ミズオオハコ	トチカガミ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Ottelia alismoides</i>	NT	VU	
↓	コウガイモ	トチカガミ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Vallisneria densescrullata</i>	EX	—	
◇	センニンモ	ヒルムシロ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Potamogeton maackianus</i>	DD	—	
◇	ササバモ	ヒルムシロ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Potamogeton wrightii</i>	DD	—	サジバモ
◇	オオミズヒキモ	ヒルムシロ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Potamogeton kamogawaensis</i>	DD	—	カモガワモ
	ヤマカシュウ	ユリ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Smilax sieboldii</i>	NT	—	サイカチバラ
◇	セトウチホトギス	ユリ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Tricyrtis setouchiensis</i>	要注目	—	
	バイケイソウ	ユリ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Veratrum album</i> subsp. <i>oxysepalum</i>	NT	—	バイケソウ
	チャボチヂミザサ	イネ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Oplismenus undulatifolius</i> var. <i>microphyllus</i>	NT	—	
◇	アイアシ	イネ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Phacelurus latifolius</i>	要注目	—	

ランク	和名	科名	上位分類群	学名	改訂前カテゴリー	国カテゴリー	備考(異名)
準絶滅危惧(NT)(つづき)							
	ウキシバ	イネ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Pseudoraphis sordida</i>	NT	—	
◇	コガマ	ガマ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Typha orientalis</i>	要注目	—	
◇	オオナキリスゲ	カヤツリグサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Carex autumnalis</i>	要注目	—	
	アズマスゲ	カヤツリグサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Carex lasiolepis</i>	NT	—	
	ヤガミスゲ	カヤツリグサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Carex maackii</i>	NT	—	
	ピロードスゲ	カヤツリグサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Carex niyabei</i>	NT	—	ピロウドスゲ
	ミコシガヤ	カヤツリグサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Carex neurocarpa</i>	NT	—	
	シオク	カヤツリグサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Carex scabrifolia</i>	NT	—	ハマクグ
	フサナキリスゲ	カヤツリグサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Carex teinogyne</i>	NT	—	
◇	オオシロガヤツリ	カヤツリグサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Cyperus nipponicus</i> var. <i>spiralis</i>	要注目	—	
	コマツカサススキ	カヤツリグサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Scirpus firenoides</i>	NT	—	
◇	エビネ	ラン科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Calanthe discolor</i>	要注目	NT	
	クロヤツシロラン	ラン科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Gastrodia pubilabiata</i>	NT	—	
	ムヨウラン	ラン科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Lecanorchis japonica</i>	NT	—	
	ホクリクムヨウラン	ラン科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Lecanorchis japonica</i> var. <i>hokurikuensis</i>	NT	—	
	クロムヨウラン	ラン科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Lecanorchis nigricans</i>	NT	—	
情報不足(DD)							
	コウヤマキ	スギ科	裸子植物門:球果植物綱	<i>Sciadopitys verticillata</i>	DD	—	
◆	ホソバウマノズクサ	ウマノズクサ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Aristolochia shimadae</i>	NT	—	アリマウマノズクサ
	シモツケ	バラ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Spiraea japonica</i>	DD	—	ホソバシモツケ
	ヤマブドウ	ブドウ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Vitis coignetiae</i>	DD	—	
◆	アサザ	ミツガシワ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Nymphoides peltata</i>	EX	NT	
	オヤマムグラ	アカネ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Galium pogonanthum</i> f. <i>trichopetalum</i>	DD	—	
○	シモバシラ	シソ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Collinsonia japonica</i>	—	—	
○	ホクリクタツナミソウ	シソ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Scutellaria indica</i> var. <i>satokeae</i>	—	—	
	イブキコゴメグサ	ゴマノハグサ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Euphrasia insignis</i> subsp. <i>iinumae</i>	DD	VU	コゴメグサ
◆	カンボク	スイカズラ科	被子植物門:双子葉植物綱	<i>Viburnum opulus</i> var. <i>sargentii</i>	要注目	—	
	ヤマトミヒルモ	トチカガミ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Halophila nipponica</i>	DD	NT	
○	ネジレモ	トチカガミ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Vallisneria spiralis</i> var. <i>biwaensis</i>	—	—	
	トリゲモ	イバラモ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Najas minor</i>	DD	VU	
	ギョウジャニンニク	ユリ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Allium victorialis</i> subsp. <i>platyphyllum</i>	DD	—	
	ヤマユリ	ユリ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Lilium auratum</i>	DD	—	
	ノシラン	ユリ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Ophiopogon jaburan</i>	DD	—	
	カキツバタ	アヤメ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Iris laevigata</i>	DD	NT	
	アヤメ	アヤメ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Iris sanguinea</i>	DD	—	
	イトテンツキ	カヤツリグサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Bulbostylis densa</i> var. <i>capitata</i>	DD	NT	クロハタガヤ
○	シロジュズスゲ	カヤツリグサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Carex subdita</i> var. <i>kiyozumiensis</i>	—	—	
	シロガヤツリ	カヤツリグサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Cyperus pacificus</i>	DD	—	
○	ナガボテンツキ	カヤツリグサ科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Fimbristylis longispica</i>	—	—	
	ホソバノキノチドリ	ラン科	被子植物門:単子葉植物綱	<i>Platanthera tipuloides</i> subsp. <i>tipuloides</i> var. <i>scarcia</i>	DD	—	

【凡例】 ↑:アップリスト種 ↓:ダウンリスト種 ○:新規掲載された種 ◇:DD及び要注目から変更された種 ◆:DDへ変更された種

コケ植物

文献、標本記録より大阪府内で確認されたコケ植物（苔類178種、蘚類355種、ツノゴケ類3種）のうち、絶滅種が3種、絶滅の恐れのある種の総数は91種（絶滅危惧Ⅰ類44種、絶滅危惧Ⅱ類47種）となった。その多くは、外縁部に残る山地に集中する。大阪府は歴史的にも古くから開発の影響を受けた土地柄からである。そのため、近畿地方全体では普通種であるような種でも、産地がごく限られていることが多いのが特徴である。コケ植物は稀少で目立たないものが多いため、比較的軽微な開発でも絶滅の驚異にさらされてしまうことがある。

本リストの科の配列は藤佐他編（2013）に、学名及び和名はIwatsuki（2004）、Yamada & Iwatsuki（2006）に従った。

ランク	和名	科名	上位分類群	学名	改訂前カテゴリー	国カテゴリー
絶滅 (EX)						
○	クマノチョウジゴケ	キセルゴケ科	蘚植物門	<i>Buxbaumia minalatae</i>	—	—
○	タチチョウチンゴケ	チョウチンゴケ科	蘚植物門	<i>Orthomnion dilatatum</i>	—	CR+EN
○	ササオカゴケ	ヤナギゴケ科	蘚植物門	<i>Sasaolaea aomoriensis</i>	—	CR+EN
絶滅危惧Ⅰ類 (CR+EN)						
○	カハルクラマゴケモドキ	クラマゴケモドキ科	苔植物門	<i>Porella stephaniana</i>	—	—
○	シコクヤスデゴケ	ヤスデゴケ科	苔植物門	<i>Frullania valida</i>	—	—
○	ミヤジマヨウジヨウゴケ	クサリゴケ科	苔植物門	<i>Cololejeunea planissima</i>	—	—
○	キリシマゴケ	キリシマゴケ科	苔植物門	<i>Herberta aduncus</i>	—	—
○	エトサカゴケ	ウロコゴケ科	苔植物門	<i>Lophocolea compacta</i>	—	—
○	オソレヤマヤバナゴケ	コヤバナゴケ科	苔植物門	<i>Cephalozella divaricata</i>	—	—
○	イワツボミゴケ	ツボミゴケ科	苔植物門	<i>Jungermannia rosulans</i>	—	—
○	マイマイツボミゴケ	ツボミゴケ科	苔植物門	<i>Jungermannia torticalyx</i>	—	—
○	コアナミズゴケ	ミスゴケ科	蘚植物門	<i>Sphagnum microporum</i>	—	—
○	ハリスギゴケ	スギゴケ科	蘚植物門	<i>Polytrichum pilliferum</i>	—	—
○	エビゴケ	エビゴケ科	蘚植物門	<i>Bryoxiphium norvegicum</i> subsp. <i>jaaponicum</i>	—	—
○	ナミカワスナゴケ	ギボウシゴケ科	蘚植物門	<i>Racomitrium aquaticum</i>	—	—
○	ジョウレンホウオウゴケ	ホウオウゴケ科	蘚植物門	<i>Fissidens geppii</i>	—	VU
○	ヒメカモジゴケ	シッポゴケ科	蘚植物門	<i>Dicranum flagellare</i>	—	—
○	カギカモジゴケ	シッポゴケ科	蘚植物門	<i>Dicranum hamulosum</i>	—	—
○	ナミシッポゴケ	シッポゴケ科	蘚植物門	<i>Dicranum polysetum</i>	—	—
○	キウリゴケ	ハリガネゴケ科	蘚植物門	<i>Brachymerium nepalense</i>	—	—
○	ナガバサワゴケ	タマゴケ科	蘚植物門	<i>Philonotis lancifolium</i>	—	—
○	モミゴケ	タチヒダゴケ科	蘚植物門	<i>Schlotheimia grevilleana</i>	—	—
○	イバラゴケ	ホソバツガゴケ科	蘚植物門	<i>Calyptrochaeta japonica</i>	—	—
○	マキハハリゴケ	ウスグロゴケ科	蘚植物門	<i>Cladopodium assurgens</i>	—	—
○	コシノウスグロゴケ	ウスグロゴケ科	蘚植物門	<i>Leskea polycarpa</i>	—	—
○	ヒメウスグロゴケ	ウスグロゴケ科	蘚植物門	<i>Leskeella pusilla</i>	—	—
○	ツブテゴケ	アオギヌゴケ科	蘚植物門	<i>Brachythecium glareosum</i>	—	—
○	ヒロハノフサゴケ	アオギヌゴケ科	蘚植物門	<i>Brachythecium rutabulum</i>	—	—
○	ヒロハフサゴケ	アオギヌゴケ科	蘚植物門	<i>Brachythecium salebrosum</i>	—	—
○	サメジマタスキ	ハイヒモゴケ科	蘚植物門	<i>Pseudobarbella wallichii</i>	—	—
○	ヒロハシノブイトゴケ	ハイヒモゴケ科	蘚植物門	<i>Trachycladiella aurea</i>	—	NT
○	クチキハイゴケ	ハイゴケ科	蘚植物門	<i>Hypnum densirameum</i>	—	—
○	フジハイゴケ	ハイゴケ科	蘚植物門	<i>Hypnum fujiyamae</i>	—	—
○	マキハキヌゴケ	ハイゴケ科	蘚植物門	<i>Pylaisia subcircinata</i>	—	—
○	コウライイチイゴケ	ハイゴケ科	蘚植物門	<i>Taxiphyllum alternans</i>	—	NT
○	ユガミタチヒラゴケ	ハイゴケ科	蘚植物門	<i>Taxiphyllum arcuatum</i>	—	—
○	エゾノヒラツボゴケ	サナダゴケ科	蘚植物門	<i>Isopterygiopsis muelleriana</i>	—	—
○	ツクシツヤゴケ	ツヤゴケ科	蘚植物門	<i>Entodon macropodus</i>	—	—
○	イトヒバゴケ	イトヒバゴケ科	蘚植物門	<i>Cryphaea obovatarcarpa</i>	—	CR+EN
○	タカネメリスゴケ	ヒラゴケ科	蘚植物門	<i>Neckera konoii</i>	—	—
○	セイナンヒラゴケ	ヒラゴケ科	蘚植物門	<i>Neckeropsis calcicola</i>	—	—
○	トサヒラゴケ	ヒラゴケ科	蘚植物門	<i>Neckeropsis obtusata</i>	—	NT
○	ミヤマギボウシゴケモドキ	キヌイトゴケ科	蘚植物門	<i>Anomodon abbreviatus</i>	—	—
○	コマンキヌイトゴケ	キヌイトゴケ科	蘚植物門	<i>Anomodon thrastus</i>	—	—
○	タチヒラゴケ	ミヤベゴケ科	蘚植物門	<i>Homaliadelphus targionianus</i>	—	—
○	ハナシタチヒラゴケ	ミヤベゴケ科	蘚植物門	<i>Homaliadelphus targionianus</i> var. <i>laevidentatus</i>	—	CR+EN
○	マルバミヤベゴケ	ミヤベゴケ科	蘚植物門	<i>Miyabea rotundifolia</i>	—	—

ランク	和名	科名	上位分類群	学名	改訂前カテゴリー	国カテゴリー
絶滅危惧Ⅱ類 (VU)						
○	ウキゴケ	ウキゴケ科	苔植物門	<i>Riccia fluitans</i>	—	NT
○	エソミズゼニゴケ	ミスゼニゴケ科	苔植物門	<i>Pellia neesiana</i>	—	—
○	オニヤスデゴケ	ヤスデゴケ科	苔植物門	<i>Frullania nepalensis</i>	—	—
○	タラヤスデゴケ	ヤスデゴケ科	苔植物門	<i>Frullania taradakensis</i>	—	—
○	ツクシクロウロコゴケ	クサリゴケ科	苔植物門	<i>Archilejeunea kiushiana</i>	—	—
○	ウニバヨウジョウゴケ	クサリゴケ科	苔植物門	<i>Cololejeunea spinosa</i>	—	—
○	ヨシナガクロウロコゴケ	クサリゴケ科	苔植物門	<i>Dicranolejeunea vesiculosa</i>	—	—
○	オガサワラクサリゴケ	クサリゴケ科	苔植物門	<i>Lejeunea anisophylla</i>	—	—
○	カビゴケ	クサリゴケ科	苔植物門	<i>Leptolejeunea elliptica</i>	—	NT
○	シダレゴヘイゴケ	クサリゴケ科	苔植物門	<i>Ptychanthus striatus</i>	—	—
○	ヤハズハネゴケ	ハネゴケ科	苔植物門	<i>Plagiochila furcifolia</i>	—	—
○	ムラサキヒシヤクゴケ	ヒシヤクゴケ科	苔植物門	<i>Scapania undulata</i>	—	—
○	オチツボミゴケ	ツボミゴケ科	苔植物門	<i>Jungermannia otiana</i>	—	—
○	ハネツボミゴケ	ツボミゴケ科	苔植物門	<i>Jungermannia plagiochilacea</i>	—	—
○	ホソミゾゴケ	ミゾゴケ科	苔植物門	<i>Marsipella pseudofunctii</i>	—	—
○	オオミスゴケ	ミスゴケ科	蘚植物門	<i>Sphagnum palustre</i>	—	NT
○	キセルゴケ	キセルゴケ科	蘚植物門	<i>Buxbaumia aphylla</i>	—	—
○	シナチヂレゴケ	チヂレゴケ科	蘚植物門	<i>Ptychomitrium gardneri</i>	—	—
○	ハネホウオウゴケ	ホウオウゴケ科	蘚植物門	<i>Fissidens involutus</i>	—	—
○	コカモシゴケ	シッポゴケ科	蘚植物門	<i>Dicranum mayrii</i>	—	—
○	ヤマトマイマイゴケ	シッポゴケ科	蘚植物門	<i>Holomitrium densifolium</i>	—	—
○	オオハナシゴケ	センボンゴケ科	蘚植物門	<i>Gymnostomum aeruginosum</i>	—	—
○	イワマセンボンゴケ	センボンゴケ科	蘚植物門	<i>Scopelophila ligulata</i>	—	—
○	ギンゴケモドキ	ハリガネゴケ科	蘚植物門	<i>Anomobryum filiforme</i> var. <i>concinatum</i>	—	—
○	ヤマトチョウチンゴケ	チョウチンゴケ科	蘚植物門	<i>Plagiomitrium japonicum</i>	—	—
○	ハトリチョウチンゴケ	チョウチンゴケ科	蘚植物門	<i>Rhizomitrium hattorii</i>	—	—
○	シバゴケ	ホゴケ科	蘚植物門	<i>Racomitrium aristatum</i>	—	—
○	ナガスジハリゴケ	ウスグロゴケ科	蘚植物門	<i>Cladopodium prionophyllum</i>	—	—
○	アラハヒツジゴケ	アオギヌゴケ科	蘚植物門	<i>Brachytecium brotheri</i>	—	—
○	キブリナギゴケ	アオギヌゴケ科	蘚植物門	<i>Kindbergia arbuscula</i>	—	—
○	イトゴケ	ハイヒモゴケ科	蘚植物門	<i>Neodicradiella pendula</i>	—	—
○	クヌヒバゴケ	ハイヒモゴケ科	蘚植物門	<i>Dicradiella trichophora</i>	—	—
○	ヤリノホゴケ	ハイゴケ科	蘚植物門	<i>Calliergonella cuspidata</i>	—	—
○	ツクシヒラツツボゴケ	ハイゴケ科	蘚植物門	<i>Glossadelphus ogatae</i>	—	—
○	ハイヒバゴケ	ハイゴケ科	蘚植物門	<i>Hypnum cupressiforme</i>	—	—
○	ヒラハクシノハゴケ	イワダレゴケ科	蘚植物門	<i>Ctenidium homalophyllum</i>	—	—
○	サクラジマツツゴケ	ツヤゴケ科	蘚植物門	<i>Entodon calycinus</i>	—	—
○	カラフトツヤゴケ	ツヤゴケ科	蘚植物門	<i>Entodon scabridens</i>	—	—
○	ミドリツヤゴケ	ツヤゴケ科	蘚植物門	<i>Entodon viridulus</i>	—	—
○	イトヒキフデノホゴケ	コモチイトゴケ科	蘚植物門	<i>Isocladiella surcularis</i>	—	—
○	ナンヨウトゲハイゴケ	コモチイトゴケ科	蘚植物門	<i>Wijkia hornschurchii</i>	—	—
○	リュウキュウホソエゴケ	ナガハシゴケ科	蘚植物門	<i>Trichosteleum lutschianum</i>	—	VU
○	リスゴケ	イタチゴケ科	蘚植物門	<i>Dozya japonica</i>	—	—
○	イボヤマトイタチゴケ	イタチゴケ科	蘚植物門	<i>Leucodon atrovirens</i>	—	—
○	フクラゴケ	ナワゴケ科	蘚植物門	<i>Euryurium sinicum</i>	—	—
○	キノクニキヌタゴケ	ナワゴケ科	蘚植物門	<i>Palisadula chrysophylla</i>	—	—
○	カトウゴケ	ナワゴケ科	蘚植物門	<i>Palisadula katoi</i>	—	NT
準絶滅危惧 (NT)						
○	シヤクシゴケ	ウスバゼニゴケ科	苔植物門	<i>Cavicularia densa</i>	—	—
○	ヤワラゼニゴケ	ヤワラゼニゴケ科	苔植物門	<i>Morosolenium tenerum</i>	—	VU
○	ミドリハタケゴケ	ウキゴケ科	苔植物門	<i>Riccia sorocarpa</i>	—	—
○	ヤハズゴケ	ミスゼニゴケ科	苔植物門	<i>Pallavicinia lyellii</i>	—	—
○	ウロコゼニゴケ	ウロコゼニゴケ科	苔植物門	<i>Fossmobronia japonica</i>	—	—
○	チャボヤスデゴケ	ヤスデゴケ科	苔植物門	<i>Frullania motoyana</i>	—	—
○	ナカジマヒメクサリゴケ	クサリゴケ科	苔植物門	<i>Cololejeunea nakajimae</i>	—	—
○	ケクサリゴケ	クサリゴケ科	苔植物門	<i>Cololejeunea floccosa</i>	—	—
○	モーリツシシゲリゴケ	クサリゴケ科	苔植物門	<i>Tuyamaella molischii</i>	—	—
○	ナカジマトサカゴケ	ウロコゴケ科	苔植物門	<i>Lophocolea nakajimae</i>	—	—
○	ツクシヤハネゴケ	コヤハネゴケ科	苔植物門	<i>Cyandrocolea recurvifolia</i>	—	—
○	コナシガタソロイゴケ	ツボミゴケ科	苔植物門	<i>Jungermannia pyriformis</i> var. <i>minutissima</i>	—	—

ランク	和名	科名	上位分類群	学名	改訂前カテゴリー	国カテゴリー
準絶滅危惧 (NT) (つづき)						
○	ホウライスキゴケ	スキゴケ科	蘚植物門	<i>Pogonatum cirratum</i> subsp. <i>fuscatum</i>	—	—
○	クマノゴケ	イクビゴケ科	蘚植物門	<i>Diphyscium lorifolium</i>	—	—
○	サクラジマホウオウゴケ	ホウオウゴケ科	蘚植物門	<i>Fissidens crispulus</i>	—	—
○	ホウライオバナゴケ	シッポゴケ科	蘚植物門	<i>Dicranella coarctata</i>	—	—
○	オオカサゴケ	ハリガネゴケ科	蘚植物門	<i>Rhodobryum giganteum</i>	—	—
○	エソサウゴケ	タマゴケ科	蘚植物門	<i>Philonotis yezoana</i>	—	—
○	ホソミノゴケ	タチヒダゴケ科	蘚植物門	<i>Macrocoma tenuis</i> subsp. <i>sullivanii</i>	—	—
○	ナガミノゴケ	タチヒダゴケ科	蘚植物門	<i>Macromitrium prolongatum</i>	—	—
○	コキジノオゴケ	クジャクゴケ科	蘚植物門	<i>Cyatophorum hookerianum</i>	—	NT
○	ツガゴケ	ホソバツガゴケ科	蘚植物門	<i>Distichophyllum maibarae</i>	—	—
○	コウヤノマンネングサ	コウヤノマンネングサ科	蘚植物門	<i>Climacium japonicum</i>	—	—
○	ヤマトソリハゴケ	ヤナギゴケ科	蘚植物門	<i>Anacantopdon fortunei</i>	—	—
○	リュウキュウシノブゴケ	シノブゴケ科	蘚植物門	<i>Thuidium pristocalyx</i> var. <i>samanum</i>	—	—
○	オオアオシノブゴケ	シノブゴケ科	蘚植物門	<i>Thuidium subglaucurum</i>	—	—
○	タニゴケ	アオギヌゴケ科	蘚植物門	<i>Brachytecium rivulare</i>	—	—
○	マツムラゴケ	ハイモゴケ科	蘚植物門	<i>Duthiella speciosissima</i>	—	—
○	ミズスキモドキ	ハイモゴケ科	蘚植物門	<i>Aerobryopsis subdivergens</i>	—	—
○	ヒラハイゴケ	ハイゴケ科	蘚植物門	<i>Breidleria erectiuscula</i>	—	—
○	エソハイゴケ	ハイゴケ科	蘚植物門	<i>Calliergonella lindbergii</i>	—	—
○	ニブハタケナガゴケ	ハイゴケ科	蘚植物門	<i>Ectropothecium obtusulum</i>	—	—
○	アズマキヌゴケ	ハイゴケ科	蘚植物門	<i>Pylaisia nana</i>	—	—
○	コフサゴケ	イワダレゴケ科	蘚植物門	<i>Rhynchia diadelphus japonicus</i>	—	—
○	トガリイタチゴケ	イタチゴケ科	蘚植物門	<i>Leucodon nipponicus</i>	—	—
○	イタチゴケ	イタチゴケ科	蘚植物門	<i>Leucodon sapporensis</i>	—	—
○	モロハヒラゴケ	ヒラゴケ科	蘚植物門	<i>Nekera nakazimae</i>	—	—
○	ヒナイトゴケ	レプトドンティア科	蘚植物門	<i>Forsstroemia japonica</i>	—	—
○	フトスズゴケ	レプトドンティア科	蘚植物門	<i>Forsstroemia neckeroides</i>	—	—
○	ミヤベゴケ	ミヤベゴケ科	蘚植物門	<i>Miyabea fruticella</i>	—	—
情報不足 (DD)						
○	ミヤケハタケゴケ	ウキゴケ科	苔植物門	<i>Riccia miyakeana</i>	—	—
○	イチヨウウキゴケ	ウキゴケ科	苔植物門	<i>Riccocarpos natans</i>	—	NT
○	ヒメテングサゴケ	スジゴケ科	苔植物門	<i>Riccardia planiflora</i>	—	—
○	オオスミヨウジョウゴケ	クサリゴケ科	苔植物門	<i>Cololejeunea lanciloba</i>	—	—
○	スケバウロコゴケ	ウロコゴケ科	苔植物門	<i>Chiloscyphus pallescens</i>	—	—
○	ニセツリガネゴケ	ヒョウタンゴケ科	蘚植物門	<i>Physcomitrium patens</i> subsp. <i>californica</i>	—	—
○	チョウセンサナゴケ	ギボウシゴケ科	蘚植物門	<i>Racomitrium carinatum</i>	—	—
○	コチヨウチンゴケ	チョウチンゴケ科	蘚植物門	<i>Mnium heterophyllum</i>	—	—
○	コタチヒダゴケ	タチヒダゴケ科	蘚植物門	<i>Orthotrichum exiguum</i>	—	—

【凡例】 ↑: アップリスト種 ↓: ダウンリスト種 ○: 新規掲載された種 ◇: DD及び要注目から変更された種 ◆: DDへ変更された種

菌類

大阪府内で記録のある大型菌類のうち、1) 近年の発生量が少なく、環境面で懸念の強いもの 2) 全国的にみても発生例が希少であり、発生環境が脆弱なもの 3) まだみられるが減少傾向の懸念されるものを重視して選定した。大阪府内の菌類相は今だ解明の途上であり、断片的な情報で選定したものである。今後、情報が明らかになるにつれ、選定種は大きく入れ替わる可能性がある。

リストは大阪府内で続くアカマツ林の減少、他府県と比べて貧弱なシイ・カシ林、モミ林などの状況を反映している。学名及び分類は日本産菌類集覧（勝本2009）によっている。

ランク	和名	科名	上位分類群	学名	改訂前カテゴリー	国カテゴリー
絶滅(EX)						
	該当なし					
絶滅危惧Ⅰ類(OR+EN)						
○	テッポウムシタケ	バツカクキン科	子囊菌門ニクザキン目	<i>Cordyceps nikkoensis</i>	—	—
○	ウスキタンポセミタケ	バツカクキン科	子囊菌門ニクザキン目	<i>Cordyceps pleuricapitata</i>	—	VU
○	ウメムラセミタケ	オフイオコルディセブス科	子囊菌門ニクザキン目	<i>Elaphocordyceps paradoxa</i>	—	—
○	タヌキノベニエフデ	スッポンタケ科	担子菌門スッポンタケ目	<i>Mutinus elegans</i>	—	DD
○	アカダマノオオタイマツ	スッポンタケ科	担子菌門スッポンタケ目	<i>Phallus rubicundus</i>	—	VU
絶滅危惧Ⅱ類(VU)						
○	エツキクロコップタケ	クロチャワンタケ科	子囊菌門チャワンタケ目	<i>Urnula craterium</i>	—	—
○	クラガタノボリリュウ	ノボリリュウ科	子囊菌門チャワンタケ目	<i>Helvella ephippium</i>	—	—
○	シャグマアマキサタケ	フクロシトネタケ科	子囊菌門チャワンタケ目	<i>Gyronitria esculenta</i>	—	—
○	セミタケ	オフイオコルディセブス科	子囊菌門ニクザキン目	<i>Ophiocordyceps sobolifera</i>	—	—
○	ソライロタケ	イッボンシメジ科	担子菌門ハラタケ目	<i>Entoloma virescens</i>	—	—
○	カブラマツタケ	カブラマツタケ科	担子菌門ハラタケ目	<i>Squamaria unbonata</i>	—	—
○	ホンシメジ	キシメジ科	担子菌門ハラタケ目	<i>Lyophyllum shimeji</i>	—	—
○	ヤケノシメジ	キシメジ科	担子菌門ハラタケ目	<i>Tephroclype anthracophila</i>	—	—
○	シモコシ	キシメジ科	担子菌門ハラタケ目	<i>Tricholoma auratum</i>	—	NT
○	マツタケ	キシメジ科	担子菌門ハラタケ目	<i>Tricholoma matsutake</i>	—	NT
○	スナジホウライタケ	ツキヨタケ科	担子菌門ハラタケ目	<i>Marasmiellus mesosporus</i>	—	—
○	ヤケノヒトヨタケ	ナヨタケ科	担子菌門ハラタケ目	<i>Coprinellus angulatus</i>	—	—
○	ナガエノホコリタケ	ハラタケ科	担子菌門ハラタケ目	<i>Tulostoma finbriatum</i> var. <i>campestre</i>	—	DD
○	コウモリタケ	ニンギョウタケモドキ科	担子菌門ベニタケ目	<i>Albatrellus lithophylloides</i>	—	—
○	ルリハツタケ	ベニタケ科	担子菌門ベニタケ目	<i>Lactarius subindigo</i>	—	—
○	イロガワリヤマイグチ	イグチ科	担子菌門イグチ目	<i>Leccinum intusrubens</i>	—	—
○	キンチャヤマイグチ	イグチ科	担子菌門イグチ目	<i>Leccinum versipelle</i>	—	—
○	ショウロ	ショウロ科	担子菌門イグチ目	<i>Rhizogonon roseolum</i>	—	—
○	イカタケ	アカカゴタケ科	担子菌門スッポンタケ目	<i>Aseroe arachnoidea</i>	—	—
○	アカイカタケ	アカカゴタケ科	担子菌門スッポンタケ目	<i>Aseroe rubra</i>	—	—
○	カゴタケ	アカカゴタケ科	担子菌門スッポンタケ目	<i>Ileodictyon gracile</i>	—	—
○	タマチヨレイタケ	タマチヨレイタケ科	担子菌門タマチヨレイタケ目	<i>Polyporus tuberaster</i>	—	—
準絶滅危惧(NT)						
○	クサナギヒメタンボタケ	バツカクキン科	子囊菌門ニクザキン目	<i>Metacordyceps lusanagiensis</i>	—	DD
○	マルミノアリタケ	オフイオコルディセブス科	子囊菌門ニクザキン目	<i>Ophiocordyceps fornicarum</i>	—	—
○	ミミブサタケ	ベニチャワンタケ科	子囊菌門チャワンタケ目	<i>Wynnea gigantea</i>	—	—
○	マツカサチャワンタケ	キンカクキン科	子囊菌門ビョウタケ目	<i>Ciboria rufusca</i>	—	—
○	ツチダゴ	ツチダゴキン科	子囊菌門ユーロチウム目	<i>Elaphomyces granulatus</i>	—	—
○	ブナノホツウシタケ	クロサイワイタケ科	子囊菌門クロサイワイタケ目	<i>Xylaria carpophila</i>	—	—
○	ヒメフクロタケ	ウラベニガサ科	担子菌門ハラタケ目	<i>Volvariella pusilla</i>	—	—
○	キショウゲンジ	オキナタケ科	担子菌門ハラタケ目	<i>Descolea flavoannulata</i>	—	—
○	ツキヨタケ	ツキヨタケ科	担子菌門ハラタケ目	<i>Omphalotus japonicus</i>	—	—
○	カブラテングタケ	テングタケ科	担子菌門ハラタケ目	<i>Amanita gymopus</i>	—	—
○	コヒラシロテングタケ	テングタケ科	担子菌門ハラタケ目	<i>Amanita kotohiraensis</i>	—	—
○	チャオニテングタケ	テングタケ科	担子菌門ハラタケ目	<i>Amanita sculpta</i>	—	—
○	チャタマゴタケ	テングタケ科	担子菌門ハラタケ目	<i>Amanita similis</i>	—	—
○	シロツルタケ	テングタケ科	担子菌門ハラタケ目	<i>Amanita vaginata</i>	—	—
○	スジチャダイゴケ	ハラタケ科	担子菌門ハラタケ目	<i>Cyathus striatus</i>	—	—
○	ケンボウズタケ	ハラタケ科	担子菌門ハラタケ目	<i>Tulostoma brumale</i>	—	DD
○	ウスキブナノミタケ	ラッシタケ科	担子菌門ハラタケ目	<i>Mycena luteopallens</i>	—	—
○	アカモミタケ	ベニタケ科	担子菌門ベニタケ目	<i>Lactarius lacticolor</i>	—	—
○	ハツタケ	ベニタケ科	担子菌門ベニタケ目	<i>Lactarius lividatus</i>	—	—

ランク	和名	科名	上位分類群	学名	改訂前カテゴリー	国カテゴリー
準絶滅危惧 (NT) (つづき)						
○	ウスタケ	ラツバタケ科	担子菌門ラツバタケ目	<i>Turbinellus floccosus</i>	—	—
○	ケロウジ	マツバハリタケ科	担子菌門イボタケ目	<i>Sarcodon scabrosus</i>	—	—
○	オオヤシャイグチ	イグチ科	担子菌門イグチ目	<i>Austroboletus subvirens</i>	—	—
○	アオソメクロツバタケ	イグチ科	担子菌門イグチ目	<i>Rossbeevera eucyanea</i>	—	—
○	ホオベニシロアシグチ	イグチ科	担子菌門イグチ目	<i>Tylopilus valens</i>	—	—
情報不足 (DD)						
○	クモタケ	ハツカクキン科	子囊菌門ニクザキン目	<i>Nomuraea atypicola</i>	—	—
○	キノオオフクロタケ	ウラベニガサ科	担子菌門ハラタケ目	<i>Volvariella bombycina</i>	—	DD
○	バカマツタケ	キシメジ科	担子菌門ハラタケ目	<i>Tricholoma bakamatsutake</i>	—	NT
○	マツカサシメジ	タマハリタケ科	担子菌門ハラタケ目	<i>Strobilurus tenacellus</i>	—	—
○	ニオイドクツルタケ	テングタケ科	担子菌門ハラタケ目	<i>Amanita oberwinklerana</i>	—	—
○	サザレイシタケ	ヒメノガステル科	担子菌門ハラタケ目	<i>Hymenogaster pacificus</i>	—	—
○	マツカサタケ	マツカサタケ科	担子菌門ベニタケ目	<i>Auriscalpium vulgare</i>	—	—
○	ホンショウロ	ショウロ科	担子菌門イグチ目	<i>Rhizopogon obtectus</i>	—	DD
○	マツバハリタケ	マツバハリタケ科	担子菌門イボタケ目	<i>Bankera fuligincoalba</i>	—	DD

【凡例】 ↑:アップリスト種 ↓:ダウンリスト種 ○:新規掲載された種 ◇:DD及び要注目から変更された種 ◆:DDへ変更された種

地形・地質

大阪における地形・地質の重要地点は、開発などによりこの数十年のうちに消失した箇所が多くある。自然環境保護や教育面だけでなく、地震・地すべりなど防災上の観点からも、大阪府の地形・地質のレッドリスト作成は重要である。また近年は、近隣府県のレッドリストでも地形・地質をとり扱う事例が増えており、大阪府においても今回新たにレッドリストの対象とした。その結果、44箇所が選定され、Aランクに4地点、Bランクに23地点、Cランクに17地点が掲載されることとなった。各ランク内における順序は、地質年代の概ね新しい順に配列した。また地域については、市町村レベルまでの記載に止めた。

ランク	名称	地域	地層・岩体名	時代	選定要素
Aランク					
	有馬-高槻断層帯	北摂山地南縁(池田市、箕面市、茨木市、高槻市、島本町)	断層変位地形(活断層)	第四紀更新世～完新世	広域にわたる断層変位地形
	和泉層群の化石産出層準	泉南市、泉佐野市、貝塚市、泉南市	和泉層群畦谷泥岩層(北縁相)	白亜紀	アンモナイト、モサウルス、貝をはじめとする化石
	河合・神於山マイロナイト	岸和田市	領家帯	白亜紀	延性剪断帯
	平尾鉱山	箕面市	熱水鉱床		大阪石、箕面石産地
Bランク					
	河内長野市の炭酸泉	河内長野市	炭酸泉	第四紀完新世	大規模な炭酸泉湧水
	上町台地北西縁の海蝕崖	大阪市	完新世海進海蝕崖	第四紀完新世	完新世海進に伴う海蝕地形
	亀の瀬の地すべり地形	柏原市	二上層群の地すべり	第四紀完新世	地すべり地形
	交野山～天野川上流域の花崗岩風化及び巨石群	交野市	磐船神社の巨石群、交野山の花崗岩風化核	第四紀更新世～完新世	土石流・斜面崩壊にともなう堆積した花崗岩巨石
	誉田山古墳の断層地形	羽曳野市	誉田断層	第四紀更新世～完新世	活断層の活動に伴う古墳の変形
	上町台地南西縁の断層地形	大阪市	上町断層変位地形	第四紀更新世～完新世	上町断層の活動に伴う段丘面の変形
	天野川・石川の河川争奪跡および段丘	河内長野市、富田林市	河川争奪跡、段丘	第四紀更新世	河川争奪地形
	枚方の中位段丘層	枚方市、寝屋川市	中位段丘地形と構成層(枚方層)	第四紀後期更新世	海成層を挟む段丘層と段丘地形
	信太山の高位段丘と大阪層群	和泉市	高位段丘地形と構成層(信太山層)、および大阪層群上部	第四紀中期更新世	開析された段丘面とその構成層、大阪層群上部
	光明池畔の大阪層群	堺市、和泉市	光明池の大阪層群	鮮新世～第四紀更新世	Ma1層～Ma8層にかけての堆積層
	屯鶴峯の火砕流堆積物	奈良県香芝町、大阪府太子町	二上層群	中新世	火砕流堆積物を中心とした火山砕屑物
	石切場安山岩	南河内郡太子町	二上層群	中新世	ザクロ石、コランダムを含む火山岩
	サヌカイト	南河内郡太子町	二上層群	中新世	瀬戸内火山岩類に特徴的な岩石
	秋山不整合	貝塚市	和泉層群、泉南流紋岩類	共に白亜紀	不整合露頭
	豊国崎の和泉層群	泉南郡岬町	和泉層群	白亜紀	砂岩泥岩互層、堆積構造、スランプ褶曲、コダイアマモ、断層
	生駒斑れい岩	東大阪市	領家帯	白亜紀	斑れい岩
	摂津峡の超丹波帯および花崗岩・岩脈群	高槻市	超丹波帯高槻層、原花崗岩・摂津峡花崗岩	ペルム紀・白亜紀	花崗岩・岩脈と超丹波帯の接触関係

ランク	名称	地域	地層・岩体名	時代	選定要素
Bランク(つづき)					
	箕面溝道～勝尾寺周辺の丹波帯・超丹波帯	箕面市	丹波帯のチャート・緑色岩、超丹波帯の砂岩	ペルム紀・三畳紀・ジュラ紀	チャートや緑色岩などの好露出
	本山寺道～川久保溪谷の丹波帯・超丹波帯	高槻市	丹波帯本山寺コンプレックスの緑色岩、大阪層群と高槻層の不整合、高槻層・丹波帯本山寺コンプレックス模式地・それらを切る岩脈	ペルム紀・三畳紀・白亜紀・第四紀	超丹波帯・丹波帯・大阪層群の関係及びその構成岩類の好露出
	丹波帯石灰岩	高槻市	丹波帯石灰岩	ペルム紀・三畳紀	大阪(ほぼ)唯一の浅海成の石灰岩体
	ペルム紀赤色珪質泥岩	三島郡島本町	超丹波帯高槻層	ペルム紀	高槻層の好露出
	余野川流域の超丹波帯	池田市、箕面市	猪名川コンプレックス:ペルム紀赤色珪質泥岩、タービダイトなど	ペルム紀	超丹波帯猪名川コンプレックスの好露出
	秦野鉱山	池田市	熱水鉱床(スカルン鉱床)		大阪最大の鉱山跡
Cランク					
	湧水(ワキミス)地蔵の湧水	泉大津市	扇状地湧水	完新世	扇状地湧水
	能勢町森上の含鉄炭酸食塩泉	豊能郡能勢町	含鉄炭酸食塩泉	第四紀完新世	含鉄炭酸食塩泉
	交野断層	交野市	領家新期花崗岩中の苦鉄質岩脈に平行な断層破砕帯	第四紀(?)	活(?)断層露頭
	神於山南麓の逆断層	岸和田市、貝塚市	神於山断層	第四紀更新世	大阪層群に衝上する花崗岩の断層露頭
	カキ化石を含むMa1層(大阪層群)	高槻市	大阪層群	第四紀更新世	化石を含む大阪層群
	万博公園南のアズキ火山灰層およびMa3層	吹田市	大阪層群	第四紀更新世	火山灰層(広域テフラ)、海成粘土層
	北千里公園の大阪層群	吹田市	大阪層群	鮮新世～第四紀更新世	Ma1層とその上下の層準の堆積層
	甘南備層の礫岩層	和泉市	甘南備層	中新世	扇状地成堆積層
	夕の宮火山岩	河内長野市	二上層群相当	中新世	かんらん石輝石安山岩、柱状節理
	竹内峠～岩屋の凝灰岩	南河内郡太子町	二上層群	中新世	非溶結～溶結凝灰岩
	高井田横穴群をつくる凝灰岩	柏原市	二上層群(室生火砕流堆積物)	中新世	非溶結凝灰岩、室生火砕流堆積物の最西端分布
	泉南流紋岩	貝塚市	泉南流紋岩類	白亜紀	泉南流紋岩類の連続露頭
	能勢御影	豊能郡豊能町	石英閃緑岩	白亜紀	石英閃緑岩
	剣尾花崗岩	豊能郡能勢町	剣尾花崗岩	白亜紀	角閃石黒雲母花崗岩
	茨木複合花崗岩体	茨木市	石英閃緑岩	白亜紀	石英閃緑岩
	花崗斑岩岩脈	豊能郡能勢町	花崗斑岩	白亜紀	β-石英とカリ長石斑晶
	島本層模式地	三島郡島本町	島本層	三畳紀	超丹波帯水上層相当層

生態系

今回の大阪府レッドリストでは、野生動植物種の選定や地形地質の選定と合わせて、大阪府内の貴重な生態系を有する地域を選定した。生態系名の区分は、基本的に地形区分と植生区分を併用した。

ランク	生態系名	環境区分	定義	状況
Aランク				
	低湿地(規模の大きいヨシ原など)	河川	標高10m以下で、5ha以上の規模の河川敷の草地。常に湛水しているか洪水時に湛水する	かつて淀川下流部の広い地域は繰り返される洪水などの攪乱で低湿地環境が維持され、ノウルシやトネハナヤスリなど湿地や氾濫原を好む生物が多く生息していた。現在の大阪では、規模の大きな低湿地は淀川河川敷にしか残されていない。部分的にはヨシ焼きなどの攪乱の代替となる管理もなされ氾濫原に特有な多様性の高い草地となっており、草地生の鳥類や昆虫など動物の生息地としても重要である。かつては淀川各地に低湿地が存在したが、その多くは失われ、鶴殿など限られた場所しか残されていない。鶴殿のコシ原は保全対象にはなっているが、道路建設や攪乱の減少などによって状況は悪化している。
	ワンド群	河川	5つ以上のワンドを含む地域のワンド内および周囲の草地・林	ワンドは淀川に独特の明治時代の治水工事によってつくられた人工環境で、河川本流に接してたまり状の止水が存在する。ワンドは、河川増水時には適度な攪乱を受け、イタセンパラやアユモドキなどたまりや分流を住み場所とする生物にとって貴重な代替環境として機能してきた。かつては、枚方一河口に多数存在したが、次々と埋め立てられ、現在まとまった形で残っているのは城北と麻生川の2地域だけである。まとまりを失ったことで、住み場所の多様性を減じ、更に堰の影響による水位変動の減少、外来生物の増大などにより、たまりの生物は生存が困難になっている。
	アマモ場	海岸・河口	アマモやコアマモが生える浅い海域	前浜干潟の沖の浅瀬に形成され、海洋生物の産卵場所、稚魚や底生生物の生息場所、採食場所として重要である。かつては大阪湾に広く存在し、泉南地域では近過去まで珍しくなかった。しかし海岸部の埋め立て、護岸の進行にともない、大部分のアマモ場は急速に失われ、現在はわずかに点在するにすぎない。再生の試みも行われているが、依然として危機的な状況にある。
Bランク				
	ブナ林	林	ブナの自生地	大阪府のブナ林は、下層構成種の豊かな太平洋型の群落を形成しており、府下では貴重な冷温帯の生態系となっている。いずれもまとまった群落は社寺林として限られた面積にのみ残されてきたが、周辺部の草地や雑木林にも冷温帯の生物が分布していた。戦後拡大造林によりこれら周辺部を失い、さらに、近年は妙見山においてはシカ食害により下層植生の衰退が激しい。金剛山と和泉葛城山においても後継林冠木が十分成立していない。ブナの植樹などの活動が行われているが、地域系統の維持、遺伝的多様性、群落の階層構成など配慮すべき要素が多い。
	中間温帯林(モミ・ツガ林など)	林	モミ・ツガ・アカガシ・イヌブナおよびイヌシデなどから構成される林分	モミ・ツガ・アカガシなどの林は、ブナが極相と成らない積雪の少ない冬の乾燥の強い冷温帯下部における自然度の高い林分である。北摂には剣尾山・本山寺などにモミやアカガシの林分がみられるが、いずれもシカ食害による下層植生の破壊、ナラ枯れによるアカガシやミズナラ、コナラの枯死など重大な危機にある。
	大規模な照葉樹林(シイ・カシ林)	林	コジエ・ウラジロガシなどを主体とした10haを超える規模を持った照葉樹林	かつて縄文晩期の大阪府は広く照葉樹林が覆っていたと考えられるが、人間活動に伴いアカマツ林がひろがると、地域的な時間差はありながら衰退を続けた。府下においては都市近傍や丘陵には殆ど残らず、山手の社寺林としてのみ広い面積の照葉樹林が残ってきた。2011年に島本町で、ナラ枯れ病の侵入が確認された。ナラ類だけでなく、コジエやアラカシなども被害を受け、箕面公園域、島本町若山神社いずれもナラ枯れの影響が出始めている。またシカ食害の影響も見られ、希少種の動向が懸念される。
	大規模なアカマツ林	林	10ha以上の規模のアカマツ林(人工地盤の上に形成されたものを除く)	かつてアカマツは建材として有用であるため、手をかけて維持され、さらに柴やマツ葉の利用も盛んであったことから、腐食を欠き鉱質土壌がむき出しになったアカマツの疎林が多くひろがっていた。これらの環境は、林縁の植物や昆虫にとっての生息場所であった他、マツタケなどアカマツの共生菌もよく採取されていた。1960年代以降のマツノザイセンチュウによるマツ枯れの進展、柴・マツ葉が利用されなくなるに伴い、大規模なアカマツ林が少なくなっている。
	若齢幹を有するナラ林	林	1ha以上の、20年以内に林冠木を萌芽更新させた履歴を持つコナラ・クスギ・ナラガシなどの林分	定期的な伐採により萌芽した若齢のナラの枝はミドリシジミ類をはじめさまざまな昆虫が利用する。また、林冠が開閉していないために林床には林縁生・草地生の植物が多くみられた。腐食の少ない林床には、アカマツ林同様、ショウゲンジ、バカマツタケなどの特有な菌類が発生していた。しかし、薪炭利用がなくなり、若齢の枝を持ち林床を整えたコナラ林は、能勢町・豊能町の一部のみに残る存在となっている。
	貧栄養湿地	湿地・草地	山間部の谷あいや丘陵に成立し、小規模な湧水で涵養される湿地	粘土層を有する丘陵や花崗岩地などでみられる湧水で涵養される貧栄養湿地には、ミミキグサ類・イシモチソウ・モウセンゴケ類などの食虫植物、トネソウ、サギソウなどが生育し、規模が小さいながらも特異な生態系を形成する。開発等による生息地の破壊や遷移の進行、盗掘などが生態系の存続を脅かし、また分断・孤立化という問題も生じている。
	カヤ場	湿地・草地	スキの収穫用に定期的に草刈りや火入れが行われて、維持されてきた草地	人が定期的に草刈りや火入れを行って維持してきた草地。もともと痩せた立地で森林が発達しにくい環境でもある。かつては、収穫したスキが、屋根葺きの材料や家畜の飼料、肥料として利用されていたが、今日では担い手が減少し、手入れも行き届かなくなっている。草原環境の変質は、キクアザミやヒメユリなど草原生植物の絶滅にもつながりがかねない。

ランク	生態系名	環境区分	定義	状況
Bランク(つづき)				
	堤体草地(大規模改変を受けていない)	湿地・草地	過去50年の間に大規模改変を受けず、刈り取りによって維持されてきた河川堤体の草地	大規模河川の堤には、定期的な刈り取りによる里草が維持されてきた。ツルボやカンサイタンポポなど短茎草本が繁茂し、場所によってはヒキノカナやアマナなど湿性草地も形成され、草地生の昆虫の生息地でもあった。近年、堤防の改修により乾燥化が進むと共に、外来種の吹付け緑化などにより、かつてのような環境は次々と失われている。
	低地のまとまった水田群	農耕地周辺	標高100m以下の地域における50ha以上のまとまった水田群	大阪府の低地はかつて水田が卓越していたが、道路建設や宅地開発などによってその大部分はすでに失われた。減少傾向は現在も続いており、残された水田も分断化され、セバリヤケリ、タマシギなどまとまった水田が必要な鳥類に適した場所が急激に減少している。また圃場整備によって水生生物が水路と田んぼを移動できなくなり、乾田化で水田・水路に水が存在する期間が短くなるなど、質的にも多くの生物の生存に適さなくなっている。
	干潟・河川汽水域	海岸・河口	遠浅の海岸で、干潮時に1ha以上砂泥底が出現する環境、及び周辺の汽水域、人工干潟を含む	干潟は河川からの有機物や栄養塩類をせき止める機能を持つとともに、特有の底生生物やシギ・チドリ類が生息する環境でもある。明治以降、特に1960年代からの沿岸部の埋め立てや河川改修等により、大阪府域では干潟面積が著しく減少し、広く大阪湾全域に影響をもたらしている。干潟の生物の保全には、現在からうじて残されている干潟を残すことが求められる。近年、人工干潟造成の取り組みがあるが、造成・維持管理方法の検討とともに、生物相の継続的なモニタリングが求められる。
	砂浜	海岸・河口	500m以上にわたって連続する砂底質の海岸線	砂底質を好む海浜植物や底生生物に生息場所を提供する。波が砕ける江線(砕波帯)は、沿岸性魚類の稚仔魚の生息場所としても重要。かつて大阪湾岸に広く存在したが、1960年代以降の沿岸部の埋め立て、及び砂の供給源である河川上流部でのダム建設等により、砂浜の大半は失われた。人工砂浜造成が取り組まれているが、造成・維持管理方法の検討とともに、生物相の継続的なモニタリングが求められる。
Cランク				
	低地照葉樹林(シイカンシ林)	林	1haを超える規模の、標高200m以下のシイカンシ林	大阪府には大きな社寺が少なく、都市の薪炭利用圧が高かったこともあり、低地の照葉樹林は社寺林として小規模に残るのみである。小規模であるため攪乱によって乾燥化する危険性が高い。今後、ナラ枯れの進展に伴う変化や周辺社寺などの土地利用形態の変化、周囲の開発の影響なども懸念される。北摂ではシカ食害の影響も出ている。
	貧栄養なアカマツ疎林	林	1haを超える規模のアカマツ疎林	花崗岩地帯などの尾根部には、アカマツ、ウラジロノキ、リュウブ、ソヨゴなどが茂る疎林がみられ、貧栄養環境を生息地とする菌類や、明るい林や林縁の植物や昆虫の重要な生息場所であった。また、貧栄養湿地・ため池・棚田の後背林としても重要であった。しかし、山間での人間活動が低下しているのにもない、若いアカマツが育つ明るい林は極端に少なくなっている。
	棚田(畦畔を含む)	農耕地周辺	5ha以上の棚田及びその周辺のため池や二次林を含めた里山環境の広がり	棚田だけでなく、周辺の林や小さなため池とセットとなった里山環境は、多様な生物の生息地となっている。しかし近年、圃場整備で良好な環境が改変され、道路建設などで大規模に失われ続けている。近年は、北摂ではシカ、泉南ではイノシシの増加の影響が懸念される。
	低地のため池群	農耕地周辺	標高100m以下の地域におけるため池群。500m以上あけずに20以上のため池が存在する地域のため池と周辺農耕地	大阪府は日本でも有数のため池の多い地域で、低地では周辺の水田や水路とともに多様な水辺の生物を育んできた。しかし水田の減少に伴い水利の需要が減るとともに、宅地開発などによって現在も次々と埋め立てられ減少し続けている。残されたため池も護岸され、多様な生物の生息に適さないものに作り替えられていることが多い。
	河川源流部	河川	源流地点が400m以上の河川における、標高200m以上の源流域の渓流及び周辺の林。ただし源流域周辺が耕作地になっている場合を除く	ある程度以上高い山を水源とする河川源流部の細流にはミヤマウズメシヤ流水生サンショウウオが生息し、少し下った溪流にはカジカガエルやカワガラスなど流水を好む生物が生息する。周辺の林を含め山地の河川源流部や溪流は比較的保全されているが、ダム建設による水没、また道路建設・トンネル工事にもなると地下水脈が切られると流れが消滅する恐れがある。
	河川敷の砂礫地	河川	1ha以上の河川敷の安定した砂礫地	大阪府では、河川敷のまとまった砂礫地は、淀川と大和川・石川に点在する他は、極めて稀である。砂礫地を好む鳥類や昆虫などにとっては貴重な生息地となっている。砂礫地は、河川整備によってしばしば取り除かれるほか、治水により上流からの土砂供給が減っているために減少傾向にある。近年は人の立ち入りの影響も強く受けている。
	岩礁性海岸	海岸・河口	岩や石で汀線が自然に形成された海岸線	大阪府の岩礁性海岸はもともと岬町に限られている。後背には、ウバメガシを主体とする海岸林が形成される。岩礁潮間帯は多様な底生動物や藻類等が生息し、非常に高い生物多様性を有する。大半の地域は保全対象とされている。食用の貝類やウニ類、ワカメなどの採捕が行われており、過剰な採取は、生態系の破壊につながりかねない。
	洞穴	その他	人が掘った坑道跡等を含む洞穴	北摂を中心に鉱山跡などの洞穴が点在しており、そこは洞穴生の動物群の生息地であり、他では見られない特殊な生態系を構成している。大阪府の洞穴は、ほぼすべて人工的なもので、時間と共に崩落が進んでいるため、将来的にはその多くが失われかねない。
	代替裸地・草地(埋立地)	その他	埋立地に成立した10ha以上の裸地・草地・湿地	農耕地、河川敷の砂礫地・草地、砂浜、干潟などが減少続けている大阪府では、埋立地の裸地や草地、水たまりが、鳥類など移動力の高い生物群にとって、その代替環境として機能してきた。とくに次々と海岸が埋め立てられた1970年代以降、その重要性が高くなり、ツノメチドリやチュウビなど埋立地でのみ繁殖が確認されている鳥類もいる。時間とともに、埋立地は整備され、新たな埋立地も供給されなくなってきた現在、代替環境としての機能が失われる恐れがある。

7. 生物多様性ホットスポット

(1) 概要

日本固有種を含め、希少な野生動植物が生息・生育し、種の多様性が高い地域を生物多様性ホットスポットとして選定した。

3つのランクと定義は以下のとおりであり、Aランクを16か所、Bランクを11か所、Cランクを28か所、あわせて55か所を選定した。

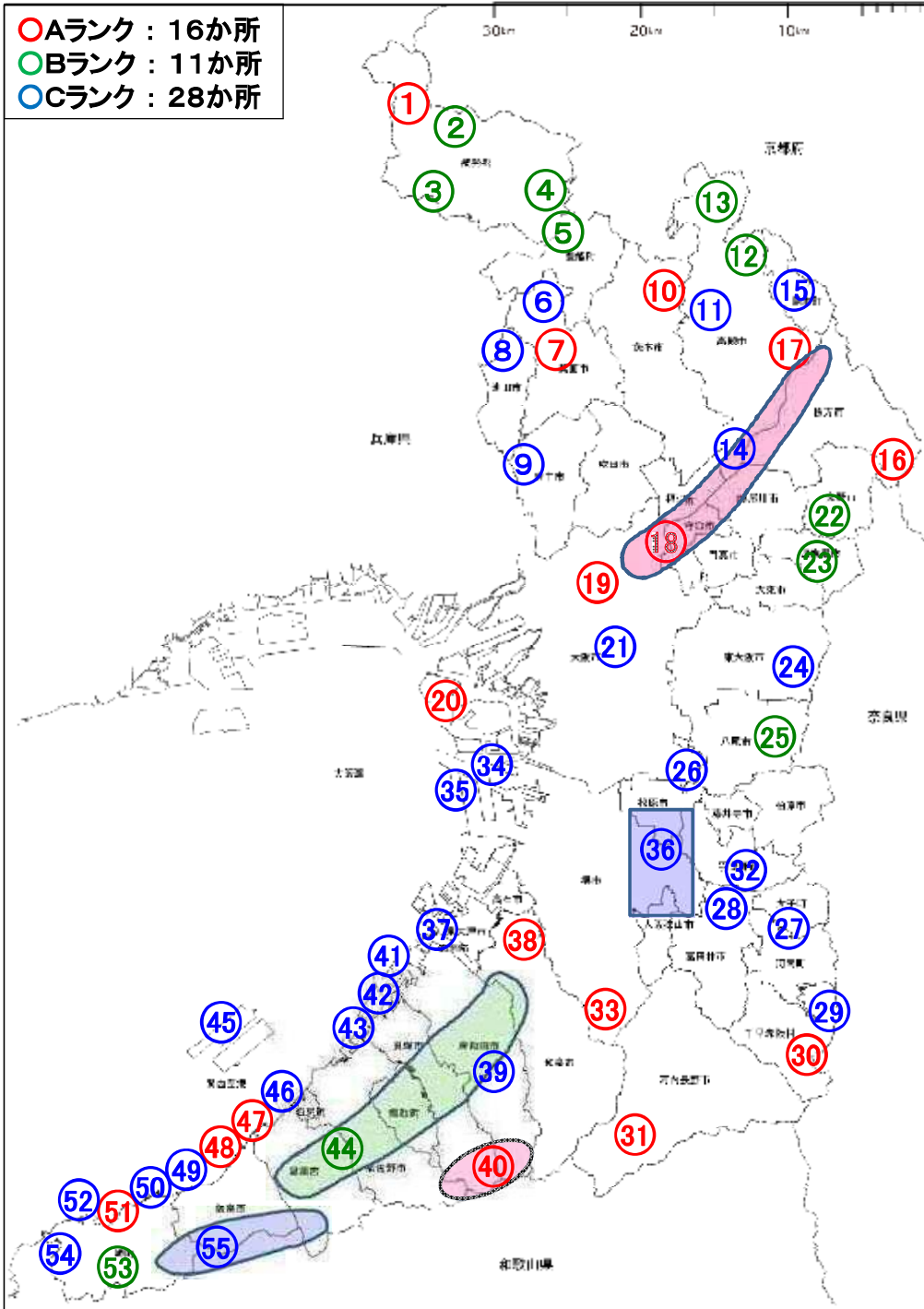
(2) 選定箇所 (次表は、左欄から「地図上の番号」「地域名」「市町村」である。)

Aランク		
1	能勢町天王・上山辺	能勢町
7	箕面公園	箕面市
10	竜王山周辺(車作、忍頂寺、下音羽、清阪、長谷、銭原)・安威川上流部	茨木市
16	穂谷・尊延寺	枚方市
17	淀川鶴殿	高槻市
18	淀川ワンド群(城北・庭窪・楠葉など)	大阪市・守口市・寝屋川市・枚方市・高槻市
19	淀川汽水域	大阪市
20	南港野鳥園・夢洲	大阪市
30	金剛山	千早赤阪村
31	天見、岩湧山、滝畑、禊尾山	河内長野市・和泉市
33	鉢ヶ峯寺、豊田、別所、金剛寺	堺市・河内長野市
38	信太山丘陵	和泉市
40	和泉葛城山 (牛滝、塔原、蕎原、柘谷、馬場、犬鳴)	岸和田市・貝塚市・泉佐野市
47	男里川河口	泉南市・阪南市
48	泉南地域の砂浜	阪南市・岬町
51	長松・小島海岸	岬町

Bランク		
2	剣尾山	能勢町
3	三草山	能勢町
4	地黄湿地	能勢町
5	妙見山・初谷	豊能町・能勢町
12	ボンボン山・本山寺	高槻市・島本町
13	旧樫田(中畑・二料・田能・出灰)	高槻市
22	星田・交野	交野市
23	室池	四条畷市
25	八尾ため池群	八尾市・東大阪市
44	泉州ため池群	和泉市・岸和田市・貝塚市・熊取町・泉佐野市・泉南市
53	孝子	岬町

Cランク		
6	北摂の鉱山跡	能勢町・豊能町・池田市・箕面市
8	余野川中流部	池田市・箕面市
9	伊丹空港周辺	豊中市
11	摂津峡	高槻市
14	高槻市南部の水田群(柱本、三箇牧、西面、三島江、唐崎)	高槻市
15	若山神社・尺代	島本町
21	上町台地	大阪市
24	枚岡公園	東大阪市
26	大和川堤防	大阪市・八尾市・松原市・藤井寺市
27	太子町・河南町の棚田群	太子町・河南町
28	美具久留御魂神社	富田林市
29	大和葛城山	千早赤阪村・河南町
32	石川周辺	南河内地域
34	堺2区埋立地	堺市
35	堺7-3区埋立地	堺市
36	堺東部ため池群	堺市・松原市・羽曳野市・大阪狭山市
37	大津川河口	泉大津市・忠岡町
39	意賀美神社・神於山	岸和田市
41	阪南2区埋立地	岸和田市
42	近木川河口	貝塚市
43	二色の浜	貝塚市
45	関空二期島周辺	泉佐野市・田尻町・泉南市
46	樫井川河口	泉南市
49	茶屋川河口	阪南市
50	せんなん里海公園	阪南市・岬町
52	東川河口	岬町
54	多奈川(谷川、西畑、東畑)	岬町
55	紀泉高原	泉南市・阪南市・岬町

大阪府内の生物多様性ホットスポット



8. 調査体制

◎大阪府レッドリスト改訂検討委員会 委員 (50 音順)

石井 実	大阪府立大学大学院
石田 惣	大阪市立自然史博物館
上原一彦	大阪府立環境農林水産総合研究所
梅原 徹	兵庫県立大学大学院
木村全邦	森と水の源流館
佐久間大輔	大阪市立自然史博物館
天満和久	大阪市立自然史博物館
中条武司	大阪市立自然史博物館
平井規央	大阪府立大学大学院
平田慎一郎	きしわだ自然資料館
和田 岳	大阪市立自然史博物館

○大阪府レッドリスト選定ワーキンググループ

- 【哺乳類】常俊容子 (公益社団法人大阪自然環境保全協会)、松浦宜弘 (京都大学大学院博士課程)、和田 岳
- 【鳥類】小海途銀次郎 (日本野鳥の会大阪支部)、納家 仁 (日本野鳥の会大阪支部)、和田 岳
- 【爬虫類】森 哲 (京都大学)、和田 岳
- 【両生類】平井規央、和田 岳
- 【汽水・淡水魚類】上原一彦、花崎勝司 (芥川緑地資料館あくあびあ芥川)、平井規央、平松和也 (大阪府立環境農林水産総合研究所)、山本義彦 (大阪府立環境農林水産総合研究所)
- 【昆虫類】市川顕彦 (日本直翅類学会)、河合正人 (元あやめ池自然博物館)、坂井 誠 (共生科学)、初宿成彦 (大阪市立自然史博物館)、天満和久、長島聖大 (伊丹市昆虫館)、平井規央、平田慎一郎、平松和也、松本史樹郎 (大阪市立自然史博物館)、宮武頼夫 (元大阪市立自然史博物館)、森 康貴 (双翅目談話会)、山本哲央 (日本トンボ学会)
- 【クモ類】加村隆英 (追手門学院大学)、田中穂積 (日本蜘蛛学会)、平田慎一郎
- 【陸産貝類】石田 惣、松村 勲 (日本貝類学会)、湊 宏 (日本貝類学会)
- 【淡水産貝類】石田 惣、近藤高貴 (大阪教育大学大学院)、高倉耕一 (大阪市立環境科学研究所)
- 【海岸生物 (無脊椎動物及び藻類)】石田 惣、山田浩二 (貝塚市立自然遊学館)、山西良平 (大阪市立自然史博物館)、渡部哲也 (西宮市貝類館)、和田太一 (NPO 法人南港ウェットランドグループ)
- 【その他淡水産無脊椎動物】石田 惣、山西良平
- 【維管束植物】梅原 徹、志賀 隆 (新潟大学)、佐久間大輔、瀬戸 剛 (元大阪市立自然史博物館)、長谷川匡弘 (大阪市立自然史博物館)、藤井伸二 (人間環境大学)、藤井俊夫 (兵庫県立人と自然の博物館)、山崎俊哉 (株式会社建設環境研究所)、山住一郎 (大阪府教育センター)、横川昌史 (大阪市立自然史博物館)
- 【コケ植物】芦田喜治 (日本蘚苔類学会)、木村全邦、道盛正樹 (特定非営利活動法人大阪自然史センター)
- 【菌類】上田俊徳 (故人) (関西菌類談話会)、佐久間大輔、丸山健一郎 (関西菌類談話会)
- 【地形・地質】奥平敬元 (大阪市立大学大学院)、菅森義晃 (大阪市立大学大学院)、中条武司、三田村宗樹 (大阪市立大学大学院)

(表紙、裏表紙の写真の動植物名)

表紙：大写真 (ナニワトンボ)

小写真左から (ハッチョウトンボ、サギソウ、
ヒロオビミドリシジミ、イタセンパラ)

裏表紙：大写真左から (ユビナガコウモリ、オオミズ
ゴケ)

小写真左から (タマカイエビ、アカイカタケ、
ケリ、ニホンイシガメ)

大阪府レッドリスト2014

平成26年(2014年)3月発行

発行 大阪府環境農林水産部みどり・都市環境室 みどり推進課
〒559-8555 大阪市住之江区南港北1-14-16
咲洲庁舎22階

TEL:06-6941-0351(内2750)

FAX:06-6210-9551

編集 大阪生物多様性保全ネットワーク*

事務局：特定非営利活動法人 大阪自然史センター

〒546-0034 大阪市東住吉区長居公園1-23
大阪市立自然史博物館内

TEL:06-6697-6262

FAX:06-6697-6306

※大阪府環境農林水産部、大阪府立環境農林水産総合研究所、大阪市環境局、堺市環境局、大阪府立大学、大阪市立大学、
大阪市立自然史博物館、関西自然保護機構、生物多様性かんさい、特定非営利活動法人大阪自然史センター

本冊子は、「生物多様性保全基金」により作成しました。

この冊子は、調査から印刷まで外注して作成しております。
(1,000部作成、作成費用945,000円)

